

赤城山検定用テキスト

－赤城山を知って、知識を確かめよう－

(2020 年 1 月版)



作成者

栗原 久

NPO 赤城自然塾 理事

元 群馬大学医学部 助教授

元 東京福祉大学教育学部 教授

まえがき

言うまでもなく、赤城山（あかぎやま）は群馬県を代表する山で、県内の北西部を除くほとんどの地域から、裾野を長く引いた雄大な姿を見ることができます。赤城山は東京から直線で約 100 km の距離にあるので、明治時代以降多くの方々が赤城山を訪れて、その経験を題材にした文学・芸術作品を残し、また賛美しています。例えば、芥川龍之介は「ほんとうに佳いだらう 美しいだらう だから僕は赤城山が一等好きだって言ふんだ ねえ何処よりも佳いだらう」と記しています。

赤城山の観光は 1950～70 年頃がもっとも盛んで、当時は、夏はツツジ等の観賞・登山、秋は紅葉鑑賞、冬はスキー・スケートと、多くの人々が訪れました。その後の交通インフラ整備は赤城山へのアクセスを容易にした反面、移動時間の短縮は赤城山を単なる通過場所としてしまいました。また、1990 年代に入ると TV 番組で深田久弥著『日本百名山』に記載された山を取り上げる機会が増え、2000 年代から現在まで、中高年者を中心に百名山の登頂だけを目指す登山ブームが続いています。赤城山も百名山の 1 つで、最高峰 黒檜山のピークハンターが少なくありません。しかし、このような時勢の流れは一方において、赤城山が単なる物見雄山的な観光地や登山だけの目的地ではなく、豊かな自然環境の中での学習や、多忙でストレスに満ちた社会状況の中でのリフレッシュの場としての利用を推し進める機運を高めることにつながりました。国連は、2015 年 9 月の国連サミットで、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標（SDGs）を採択しました。SDGs は持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、自然環境と生物多様性を維持して地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

国連サミットに先立つ 2015（平成 27）年 2 月には、周辺地域の行政、企業、住民、関係団体等が一体となって「赤城山エコツーリズム推進協議会」が発足し、赤城山の貴重な自然環境の価値を共有して保全するとともに、歴史的・文化的資源の有効利用も含めて地域振興を図ることができる持続可能な地域づくりを目指すことを基本理念とする活動が始まりました。そして、2018 年 9 月 10 日には、協議会で策定した『赤城山エコツーリズム推進全体構想』が、環境大臣、国土交通大臣、文部科学大臣および農林水産大臣の認定を受けました。

NPO 赤城自然塾は 2014 年 6 月に登録され、「森づくりや自然保護活動を通して、環境教育の実践と指導者の育成を推進し、赤城山エリアを『環境に配慮した“人”づくり・“モノ”づくり・“まち”づくり』で活性化」を基本理念として活動してきました。もちろん、赤城自然塾は「赤城山エコツーリズム推進協議会」の中核をなす団体の 1 つで、赤城山における活動の 1 つに赤城山環境ガイドボランティアの養成があります。具体的には、赤城山に向かう定期バス内でのガイドや山頂域での環境ガイドなどで、このような活動を円滑に遂行するために、環境ガイド実践講習会や座学の学習会を行ってきました。

赤城山を愛するを機運を醸成する活動の一環として、NPO 赤城自然塾会員の会合の中で出てきたのが赤城山検定の実施で、2013 年に第 1 回 3 級検定が行われました。その後、2015 年に 2 級検定が、2016 年に 1 級検定が加わり、以後、それぞれ年 1 回の実施が継続さ

れています。2019 年 10 月時点での検定合格者累計は、3 級検定（7 回実施）が 102 名（受験者数 165 名）、2 級検定（6 回実施）が 55 名（受験者数 113 名）、1 級検定（5 回実施）が 12 名（受験者数 31 名）を数えています。検定合格者の何人かは、赤城山環境ガイドボランティアとして実際に活躍されています。

検定開始当初は検定に向けて、栗原 久著『なるほど赤城学 赤城山の自然、歴史・文化』や講師作成の独自資料を用いた事前講座を行ってきましたが、学習用テキストの要望が強く出され、検定は受験しないが赤城山について勉強したいのでテキストだけでも欲しいという方々が少なからずいました。このような状況から『赤城山検定用テキスト』を作成することになり、暫定版（2018 年 4 月版）を赤城自然塾の HP にアップしました。さらに、内容を充実させた『赤城山検定用テキスト－赤城山を知って、知識を確かめよう－（2019 年 1 月版）』も公開しました。これらは「Akagi Trip 赤城山をあそぼう！」の URL（<http://www.akagi-trip.com>）にアクセスすれば、無料で入手できます。本テキストは「2019 年 1 月版」の内容を一部改定・補填したもので、赤城山検定 1 級～3 級の受験用だけでなく、赤城山を理解するためのテキストとして利用できるものと考えています。

人間が他の動物と異なる特徴は、①集団欲（仲間と一緒に活動したい）、②学習欲（新しいことを知りたい）、③名誉欲（自分の能力を自慢したい、認めてもらいたい）、④物質欲（生活の質を高めたい）を持っていることです。物事を深く知り理解を高めることは、対象物を好きになって大切に作る心の醸成に、また、同好の仲間を増やすことにつながります。

本テキストを活用して赤城山への関心を高め、実際に現地を訪れてその魅力を感じ、自然環境や地域文化の理解と保護・育成にご助力いただければ幸いです。

作成者 栗原 久（2020 年 1 月 10 日）

目次

まえがき	1
目次	3
第 1 章．赤城山の概観	9
1-1. 群馬県と赤城山	
1-2. 赤城山は麓から見た名前	
1-3. 「あかぎやま」と「あかぎさん」	
1-4. 赤城山の名前	
1-5. 群馬県立赤城公園	
第 2 章．赤城山の形成過程	13
2-1. 赤城山の地下構造	
2-2. プレートテクトニクス理論との関係	
2-3. 火山活動の歴史	
2-4. 赤城山の噴出物・堆積物	
2-5. 赤城山の形状	
2-6. 赤城山と富士山	
2-7. 赤城山と榛名山	
2-8. 男体山（日光二荒山）	
第 3 章．赤城山の植物	22
3-1. 樹木	
3-2. ヤドリギ	
3-3. 旧大洞赤城神社境内の針葉樹（ウラジロモミ、クロベ）	
3-4. 小鳥ヶ島	
3-5. 覚満淵の湿原	
3-6. ツツジ類	
3-7. クリンソウ	
3-8. 竈山のヒカリゴケ	
3-9. 中腹のクロマツ林	
3-10. 赤城山に由来する植物名	
3-11. ザゼンソウ	
3-12. ミズバショウ	
3-13. ササ類	
3-14. 代表的な花	
3-15. 赤い果実の実る樹木	

第 4 章． 赤城山の動物 ----- 32

- 4-1. 哺乳類
- 4-2. 鳥類
- 4-3. 昆虫
- 4-4. 魚類

第 5 章． 赤城山の気象・災害 ----- 35

- 5-1. 年間降水量
- 5-2. 大沼、小沼の全面結氷
- 5-3. 冬季の降雪と空っ風
- 5-4. 雷雲の発生
- 5-5. 南側山腹は濃霧・霧雨、山頂域は快晴
- 5-6. 気象観測装置
- 5-7. 酸性雨測定所
- 5-8. 気圧・気温
- 5-9. ダイヤモンドダスト・ブロッケン
- 5-10. 気象災害
- 5-11. 地震災害

第 6 章． 赤城神社・仏閣 ----- 41

- 6-1. 赤城神社の神階・社格
- 6-2. 三夜沢赤城神社（赤城神社本宮）
- 6-3. 櫃石
- 6-4. 二宮赤城神社
- 6-5. 大洞赤城神社（赤城神社元宮）
- 6-6. 赤城大明神
- 6-7. その他の赤城神社
- 6-8. 宮田の不動堂
- 6-9. 滝澤不動堂
- 6-10. 珊瑚寺
- 6-11. 雲昌寺
- 6-12. 医光寺
- 6-13. 養林寺
- 6-14. 木曾三社神社
- 6-15. 貴船神社

第 7 章． 赤城山麓の遺跡・城跡 ----- 51

- 7-1. 旧石器（無土器）時代
- 7-2. 縄文時代

- 7-3. 古墳時代
- 7-4. 宇通遺跡
- 7-5. 城跡

第 8 章. 赤城山をめぐる伝説 ----- 59

- 8-1. 赤城山の神と二荒山（日光男体山）の神の争い
- 8-2. 淵名姫と赤城姫
- 8-3. 赤堀道元の娘
- 8-4. 巨人・鬼・天狗・ダイダラボッチ
- 8-5. 洪水
- 8-6. 俵杉と俵藤太
- 8-7. 赤城神社の社格について
- 8-8. 徳川埋蔵金
- 8-9. 珊瑚寺の七不思議
- 8-10. 血の池
- 8-11. すずり石
- 8-12. 田島の大石
- 8-13. 鈴ヶ岳の名前の由来
- 8-14. 鍋割山の名前の由来
- 8-15. 荒山の別名（浅間山）
- 8-16. 百足鳥居
- 8-17. 橘山と日本武尊

第 9 章. 赤城山の行事 ----- 67

- 9-1. 山開き祭り
- 9-2. レンゲツツジ祭り
- 9-3. 三夜沢赤城神社例大祭
- 9-4. 大洞赤城神社 夏の例大祭
- 9-5. 大洞赤城神社 秋の例大祭
- 9-6. あかぎ大沼・白樺マラソン大会
- 9-7. まえばし赤城山ヒルクライム大会
- 9-8. 赤城山雪まつり
- 9-9. 電力中央研究所赤城試験センターの一般公開
- 9-10. 赤城南面千本桜まつり
- 9-11. 老神温泉・雪ほたる&冬のイルミネーション
- 9-12. 望郷ライン・センチュリーライド
- 9-13. 菌原湖堰堤まつり

第 10 章. 観光 ----- 72

- 10-1. テーマパーク
- 10-2. ワカサギの穴釣り
- 10-3. ローラースライダー
- 10-4. 日本の 100 選
- 10-5. 観光開発
- 10-6. 温泉
- 10-7. 青木旅館
- 10-8. 猪谷旅館（廃業）
- 10-9. 赤城公園ビジターセンター
- 10-10. 阿久沢家
- 10-11. 南郷の曲屋（旧鈴木家）
- 10-12. スキー場
- 10-13. 中之沢美術館
- 10-14. 相澤忠洋記念館
- 10-15. 群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館
- 10-16. みどり市大間々博物館（コノ Dont 館）
- 10-17. スローシティ

第 11 章. 赤城山の雑学 ----- 80

- 11-1. 鍋割山は犬の顔
- 11-2. 赤城の影牛
- 11-3. 一等三角点本点
- 11-4. 大沼、小沼の正しい読み方
- 11-5. スバル 360 のテスト走行
- 11-6. スキージャンプの日本記録
- 11-7. 赤城スキー学校
- 11-8. 赤城山の行政区分
- 11-9. 前橋市富士見町赤城山 1 番地
- 11-10. 地方版図柄入りナンバープレート
- 11-11. 直線の行政区境
- 11-12. 群馬県内で一番
- 11-13. ゾロ

第 12 章. 文学・芸術 ----- 85

- 12-1. 萩原朔太郎
- 12-2. 与謝野鉄幹・晶子
- 12-3. 幸田露伴
- 12-4. 志賀直哉

- 12-5. 高村光太郎
- 12-6. 深田久弥
- 12-7. 岩澤正作
- 12-8. 今井善一郎
- 12-9. その他の代表的文人
- 12-10. 文学碑・レリーフ
- 12-11. 演劇
- 12-12. 舞踊

第 13 章. 赤城山の名前の引用 ----- 89

- 13-1. あかぎ号（JR 東日本）
- 13-2. あかぎ号（流鉄流山線）
- 13-3. 赤城駅（上毛電気鉄道 上毛線・東武鉄道 桐生線）
- 13-4. 軍艦
- 13-5. 巡視艇・巡視船
- 13-6. 商業船
- 13-7. 赤城型民家
- 13-8. 赤城村
- 13-9. 赤城根村
- 13-10. お酒・食料品など
- 13-11. 道の駅
- 13-12. 力士
- 13-13. AKAGIDAN（群馬のご当地アイドルグループ）
- 13-14. 赤城の輝き（バラ品種）
- 13-15. 超速戦士 G-FIVE
- 13-16. 国民体育大会（赤城国体）・身体障害者スポーツ大会（愛のあかぎ大会）
- 13-17. 群馬県地域共同リポジトリ AKAGI

第 14 章. 湖・河川・用水・滝 ----- 95

- 14-1. 湖
- 14-2. 河川
- 14-3. 用水
- 14-4. 滝

第 15 章. 交通・インフラ ----- 100

- 15-1. 自動車通行可能な登山道路
- 15-2. 赤城山への登山バス
- 15-3. 国道 17 号（上武道路）
- 15-4. 国道 353 号

- 15-5. 関越自動車道
- 15-6. その他の道路
- 15-7. 旧街道
- 15-8. 赤城山山頂の峠
- 15-9. 鉄道路線
- 15-10. JR 東日本送電線
- 15-11. 東京電力東群馬変電所
- 15-12. ダム
- 15-13. 水力発電所

第 16 章. 民謡・歌 ----- 111

- 16-1. 民謡
- 16-2. 童謡
- 16-3. 歌謡曲
- 16-4. 浪曲

第 17 章. 赤城山の見え方・赤城山からの展望 ----- 113

- 17-1. 麓から赤城山の見え方
- 17-2. 赤城山からの展望
- 17-3. 距離
- 17-4. 仰角、俯角
- 17-5. 赤城山からの遠望（山）
- 17-6. 黒檜山から赤城のピークの見え方
- 17-7. 地蔵岳から赤城のピークの見え方
- 17-8. 大洞赤城神社から赤城のピークの見え方
- 17-9. 東京方面から見た赤城山

付録 1. 赤城山地図 ----- 116

付録 2. 赤城山環境ガイドボランティア ガイド推奨コース ----- 117

付録 3. 検定問題例（1・2 級 語句挿入） ----- 118

付録 4. 検定問題例（1 級作文テーマ） ----- 118

付録 5. 検定問題例（2・3 級 四択） ----- 119

赤城山検定用テキスト作成協力者（五十音順、敬称略） ----- 120

第 1 章. 赤城山の概観

1-1. 群馬県と赤城山

赤城山（あかぎやま）は日本列島のほぼ中央に位置し、標高 1,828m（最高峰は黒檜山（くろびさん）：山頂の三等三角点の位置 北緯 36 度 33 分 37 秒、東経 139 度 11 分 36 秒、登録標高は 1827.7m）、底径約 35km（南北）×約 25km（東西）、分布面積約 700km²、山体体積約 100km³の、山頂にカルデラと 3 個の中央火口丘を持つ大規模な複式成層火山です。赤城山は関東平野の西北端にあり、標高 1,449m の榛名山（最高峰は掃部ヶ岳）、標高 1,104m の妙義山（最高峰は相馬岳）とともに上毛三山の 1 つです。山体体積では姉妹山とされる榛名山（約 180km³）より劣りますが、分布面積は群馬県内でもっとも広く（群馬県の面積 6,362km² の約 11%）、日本の中でも上位（火山島を除くと体積では 21 位）にランクされる活火山です。

赤城山は群馬県だけでなく、関東平野一円から望むことができ、深田久弥著の『日本百名山』にも数えられています。山頂が群馬県内または県境にある日本百名山は 11 座（県内だけなら 4 座：赤城山 1,828m、武尊山 2,158m、至仏山 2,228m、本白根山 2,165m）あります。日本百名山の中で標高第 1 位は富士山で、赤城山の標高は第 78 位でそれほど高いわけではありませんが、南面が関東平野に直接面していることと、裾野が長いことで、雄大に感じられます。

赤城山が群馬県を代表する山であることは、群馬県内の全小・中学校 540 校（2000 年時点）のうち、校歌の歌詞に赤城山が含まれている割合は約 42% で、榛名山約 18%、浅間山約 7%、妙義山約 6% より、はるかに高いことからわかります。一般に、山の仰角が 2.1 度以上になると、校歌に含まれる割合が高まるそうです。ちなみに、群馬県庁（前橋市大手町 1 丁目）の 32 階展望室（標高約 240m）から赤城山（荒山 1,572m：県庁からの直線距離約 18km。黒檜山は約 22km ですが、荒山に隠れて見えません）を見たときの仰角は約 4.2 度（ $\tan \theta = 0.07227$ ）です。

群馬県内で、赤城山（長男）、榛名山（次男）、妙義山（三男）とする上毛三山の中で、特に赤城山に愛着を示す証拠はいくつかあります。代表例が、小学校の運動会では赤城団（赤色）、榛名団（緑色または青色）、妙義団（黄色）にグループ分けすることで、これは全国的にも珍しい方式です。また、すでに述べたように、群馬県内の小・中学校の校歌に赤城（山、嶺）が入っている割合が約 42% であること、1968 年制定の群馬県の歌の歌詞が「晴れやかな赤城の朝は・・・」から始まること、1983 年開催の第 38 回国民体育大会の愛称が、みやま国体、上州国体などの有力候補を抑えて「あかぎ国体」とされたことなどです。俳人・金子兜太は、赤城山を「おっとり長男」と例えています。芥川龍之介は「ほんとうに佳いだらう 美しいだらう だから僕は赤城山が一等好きだって言ふんだ ねえ 何処よりも佳いだらう」と讃えています。

江戸時代までは、赤城山、榛名山、妙義山の三山をまとめた表現はありませんでした。1886（明治 19）年の『上野国地誌略』に上野三山の表記があります。上毛三山の表記は、みどり市出身の童謡作詞家 石原和三郎が 1890（明治 33）年に発表した鉄道唱歌の派生版である『上野唱歌』の 7 番の歌詞「このあたりより見渡せば、ちかくは赤城 榛名山、はる

かに望む妙義山、これ上毛の三山ぞ」が最初です。石原和三郎の出身地であるどり市東町花輪には「童謡ふるさと館」が設置されています。

1-2. 赤城山は麓から見た名前

平野部から眺められる高くて大きな山は昔から信仰の対象となり、山体そのものがご神体と崇められ、山麓から仰ぎ見る山全体に対して名前がつけられました。そして、山頂にある峰々にも名前がつけられました。

赤城山という呼び名は、麓から眺めた場合の山全体を指し、赤城山山中に入ると赤城山の呼び名はなくなってしまう。そして、山頂付近にあるそれぞれの峰に対して、形状（荒山、鈴ヶ岳、鍋割山、船ヶ鼻（ふねがはな）山）、農耕（駒ヶ岳、鍬柄（くわがら）山）、神道や仏教（地藏岳、小地藏岳、薬師岳）、気象（黒檜山）、植生（つつじが峰）、人物名（長七郎山、朝香嶺（あさかみね））、用途（見晴山）、場所（出張山）などに関係した名前がつけられました。なお、昭和村では船ヶ鼻山を、単に船ヶ鼻としています。

赤城山を前橋中心市街から見た主な峰々は左から、鈴ヶ岳、鍬柄山、鍋割山、荒山、（黒檜山と地藏岳は荒山に隠れて見えない）、長七郎山、つつじが峰です。伊勢崎市・桐生市・みどり市・太田市方面からは鍋割山、荒山、地藏岳、長七郎山、駒ヶ岳、黒檜山、渋川市方面からは鈴ヶ岳、鍬柄山、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山、沼田市方面からは黒檜山、地藏岳、薬師岳、鈴ヶ岳、荒山です。

これらのうち、赤城五峰に数えられているのは、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山、鈴ヶ岳です。これら五峰に駒ヶ岳、長七郎山（利根・沼田地方では薬師岳）を加えたのが赤城七峰です。



群馬県庁（前橋市大手町1丁目）32F 展望室から見た赤城山（最高峰の黒檜山は見えない）

1-3. 「あかぎやま」と「あかぎさん」

国土地理院発行の2万5千分の1や5万分の1地形図では、「山」は「さん」と読むことが原則となっています。これに従えば、赤城山は「あかぎさん」になります。しかし、群馬県民、とりわけ群馬県庁のある前橋市周辺では「あかぎやま」という呼び名に長年親しんできたため、国土地理院の方針に異議を唱え、「あかぎやま」に改めるよう強く申し出ました。国土地理院はこの要求を受け入れ、読み方は「あかぎさん」、「あかぎやま」の

どちらでもよいとしています。ただ、2万5千分の1地形図では、図幅名が「あかぎさん」と記されています。前橋市富士見町赤城山、桐生市新里町赤城山、渋川市赤城町北赤城山・南赤城山はいずれも、「あかぎさん」と読んでいます。

なお、赤城山山頂域が含まれる図幅名は、2万5千分の1地形図は「赤城山」、5万分の1地形図は「沼田」、20万分の1地勢図は「宇都宮」で、方位磁針は西7.5°です。

さらに、群馬県民は「あかぎ」とほとんどフラットに読みますが、他県民の多くは「あかぎ」とアクセントを先頭にする事例が多く、違和感があります。

1-4. 赤城山の名前

●くろほのねろ：奈良時代に編集された『万葉集（巻14）』の東歌3431に「賀美都家野久呂保乃禰呂乃久受葉我多可奈師家児良爾伊夜射可里久母 かみつけの くろほのねろのくずはがた かなしけこらに いやさかりくも」と詠まれた短歌があり、奈良時代までは、赤城山は久呂保乃禰呂（くろほのねろ：くろほの嶺）と呼ばれていました。黒い雷雲が立ち昇る山という意味です。「くずはがた」は、大沼（赤城湖または石垣沼ともいわれました）の古い呼び名です。「くろほのねろ」の呼称は、赤城山最高峰の黒檜山に、また、2005年に桐生市に合併した旧黒保根村（現 桐生市黒保根町）に引き継がれました。「根」は麓の意味です。

昭和村は1958（昭和33）年11月1日、久呂保村と糸之瀬村が対等合併して誕生した村で、久呂保郵便局やJA利根沼田久呂保支所（昭和村森下）として名前が残っています。

『後上野国史』では、赤城山は千眼山（せんげんやま）と記載されています。荒山を中心にした呼び方と考えられます。

●「赤城」の名前の出所：書物の中に赤城の名前が登場したのは、鎌倉幕府3代将軍 源実朝の和歌集（『金槐（きんかい）和歌集』647）で、「上毛の 勢多の赤城の から社 やまとにいかで 跡をたれけむ」があります。この和歌は、赤城山ではなく、赤城の社つまり三夜沢赤城神社を詠んだものとされています。

赤城山の名前の由来については、昔は赤木山とも書いていたように、自然林の植生がミズナラ、カエデ類、ダケカンバなどの落葉広葉樹で、秋には全山紅葉で彩られるためとの説が有力です。10月上旬になると山頂部から紅葉が始まり、下旬には山頂から麓まで山全体が色づきます。これは、赤城山の神と日光二荒山（男体山）の神が、それぞれ大ムカデと大蛇に化身して戦場ヶ原で争い、二荒山の神を応援した岩代国（現 福島県）と陸奥国（現 宮城県）の境の熱借山（あつかしやま）を本拠とする小野猿麻呂（猿丸）が放った矢に当たって傷ついた赤城の神が流した血潮で山全体が真っ赤に染められたため、という伝説につながっています。なお、沼田市利根町の老神温泉に伝わる伝説では、赤城山の神が大蛇で、二荒山の神が大ムカデとしています。

一方、「アカ」は仏教語で仏や貴賓に献上する水を意味している「闍伽」に、「ギ」は囲いや器を意味するという説があり、赤城の語源が「高貴な水の湧くところ」に由来するという説も、三夜沢赤城神社境内の豊富な湧水を考えると捨てがたいものです。

アカは「火の神」、ギは「森」あるいは「神社」を意味するという説もあります。

1-5. 群馬県立赤城公園

群馬県立赤城公園は、赤城山山頂域の豊かな大自然の中に広がる約 1,290ha の県立公園で、指定を受けたのは 1935（昭和 10）年 2 月 8 日です。昭和天皇の最初の赤城山行幸を記念し、赤城山頂域の御料地の払い下げを受け、従来の県有地を合わせて設置されました。



県立赤城公園区域図

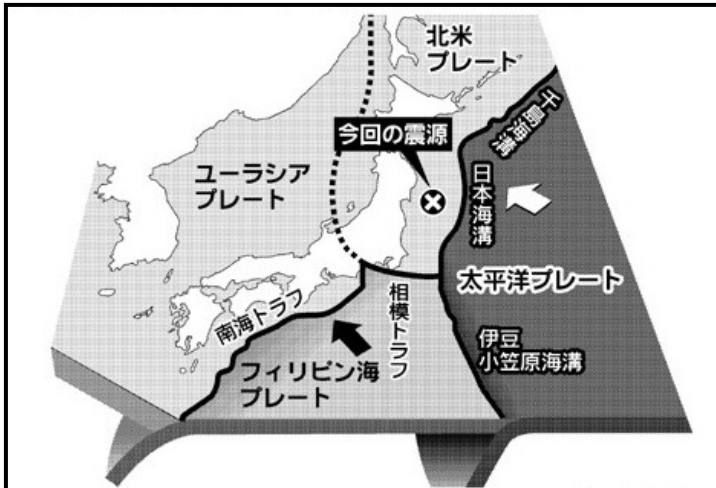
赤城山の主要ピークと峠の標高

ピーク	標高（m）	峠	標高（m）
黒檜山	1,828	新坂平峠	1,433
駒ヶ岳	1,685	牛石峠	1,418
地蔵岳	1,674	八丁峠	1,498
長七郎山	1,579	軽井沢峠	1,410
荒山	1,572	茶の木畑峠	1,445
鍋割山	1,332	鳥居峠	1,392
鈴ヶ岳	1,565	五輪峠	1,448
見晴山	1,458	野坂峠	1,503
出張山	1,475	出張峠	1,400
薬師岳	1,528	姥子峠	1,487
鍬柄山	1,559	鍬柄峠	1,498
船ヶ鼻山	1,466		

第2章．赤城山の形成過程

2-1. 赤城山の地下構造

赤城山の基盤は、北東部では標高約 1,200m 付近まで足尾山地を形作っている約 3 億年前（古生代ペルム紀）から 7,000 万年前（中生代白亜紀）にかけて堆積した地層が主で、東南部は標高約 500m 付近まで約 1,500 万年前（新生代第三紀層）に堆積した地層があります。つまり、赤城山の東側半分はかなりの上げ底で、火山堆積物が薄く覆っているだけです。一方、西半分の基盤は、標高約 150m にある第三紀層や第四紀洪積層で、赤城山の火山堆積物で厚く覆われています。



日本付近のプレートと東日本大震災（2011 年 3 月 11 日）の震源

2-2. プレートテクトニクス理論との関係

日本付近には、海洋型（玄武岩質）の太平洋プレートとフィリピン海プレート、大陸型（花崗岩質）の北米プレートとユーラシアプレートの 4 枚あります。赤城山は東日本火山帯に属し、約 6cm/年のスピードで西に向かって移動している太平洋プレートおよび北に向かって移動するフィリピン海プレートが北米プレートに衝突して下に沈み込み、地下数 10km～100km でマントル物質が溶解してできたマグマが、プレート内の割れ目を上昇して地下 10km 付近でマグマ溜まりを造り、柏崎－千葉構造帯（約 2,500 万年前の大規模な断層帯）で噴出したものです。柏崎－千葉構造帯の一部は、金山丘陵、茶臼山丘陵（八王子丘陵）、鹿田山丘陵が直線状に赤城山に向かって並んでいることや、足利－桐生間の直線状の断層崖で確認できます。

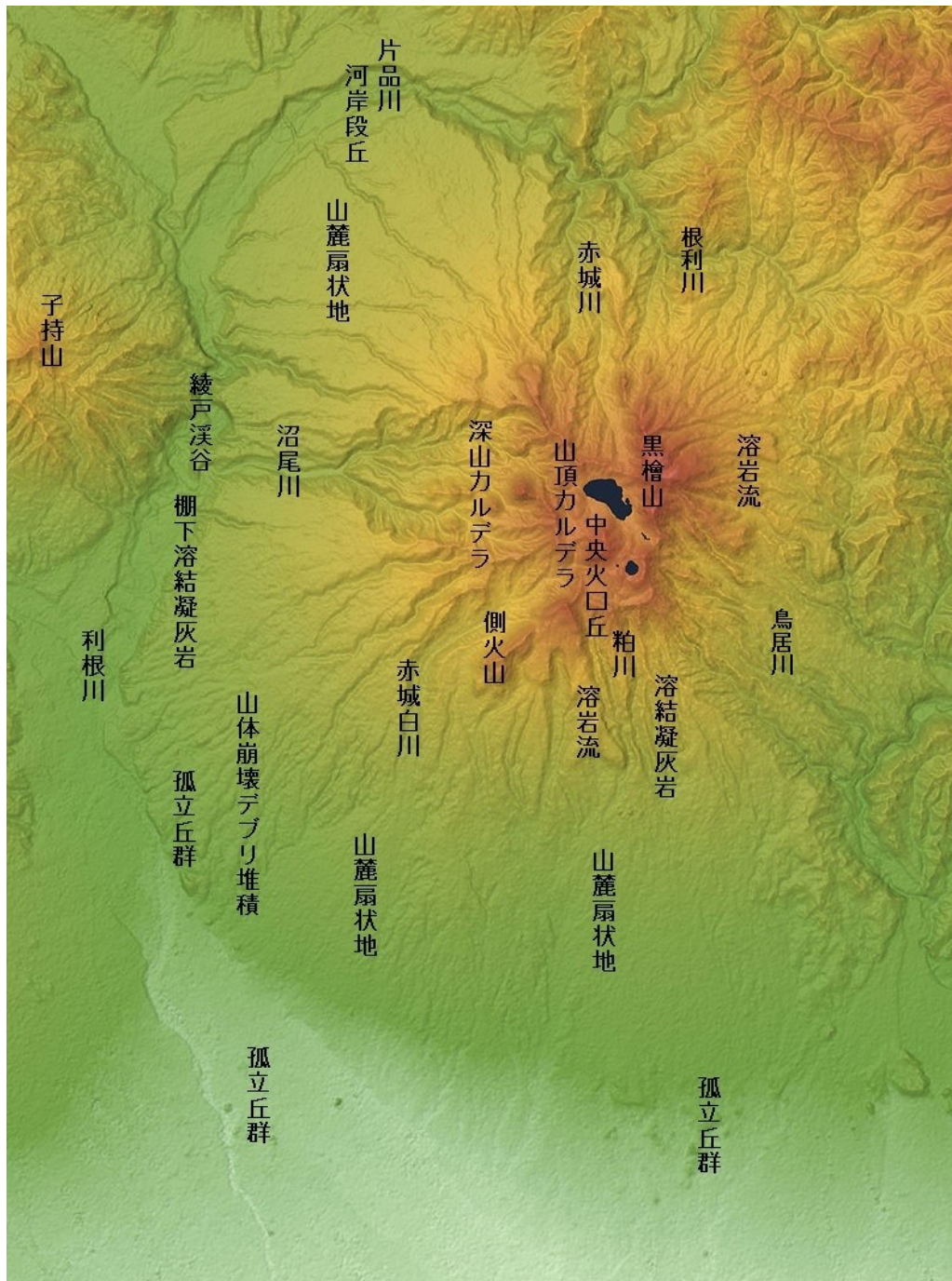
2011 年 3 月 11 日の東日本大震災（平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震）は、太平洋プレートが北米プレートの下に沈み込む境界で発生しました。関東平野直下では、3 枚のプレートが衝突しているので、地震活動が活発です。

2-3. 火山活動の歴史

火山の定義は、新生代第四紀（258 万年前から現在まで）に、火山（マグマ）活動によって造られた山のことです（第四紀火山）。火成岩（玄武岩、安山岩、流紋岩など）でできた山であっても、妙義山のように、新生代第三紀以前の火山活動で造られたものは火山とは

呼びません。

赤城山周辺の傾斜図を見ると、活動の歴史と山体の特徴を読み取ることができます。



傾斜図からみた赤城山の特徴

●主成層火山：約 40 万年前（50 万年前との説もある）、柏崎―千葉構造帯（利根川構造線とも呼ばれたことがある大断層帯）の割れ目で火山活動が起こり、火山弾、火山灰・砂、噴石、軽石（一括してスコリアまたはテフラという）などを上空高く吹き上げるブルカノ式やプリニー式の激しい爆発的なマグマ噴火とそれに続く溶岩の大量噴出、および火山弾、軽石、火山砂・灰のみを噴出するマグマ水蒸気噴火（タフリング）を数万年にわたって繰り返し、富士山によく似た標高約 2,500m の均整のとれた成層火山（古成層火山）に成長しました。

高温のスコリアが固着してできた岩石を集塊岩あるいは凝灰角礫岩といいます。

●**山体崩壊**：約 20 万年前、大噴火が起こって山頂部が吹き飛ばされ、高さが約 1,500m になってしまいました。磐梯山（福島県）やセントヘレンズ火山（米国ワシントン州）の噴火を連想するとよいでしょう。

このとき発生した岩屑雪崩（赤城橋山岩雪崩）は主に南西側を流れ下って裾野を延長するとともに、大量の土石が利根川まで到達して堆積し、橋山、箱田山、十二山などの孤立丘群（流れ山）を造りました。

利根川に達した岩塊の一部は、約 2.4 万年前の浅間山大噴火（黒斑カルデラの形成）で発生した土石流によって、下流に押し流されました。

約 15 万年前（13 万年前との説もある）には、約 20 万年前にあった山頂部の崩壊より規模はやや小さいものの、南斜面でも噴火に伴う山体崩壊があり、このとき発生した岩屑雪崩（赤城石山岩雪崩）は、南麓に多数の孤立丘群を造りました。代表的な孤立丘群が、伊勢崎市の華蔵寺（けぞうじ）公園や権現山（伊勢崎市豊城町）の小丘です。赤城山からもっとも遠方にある流れ山は、権現山からさらに 3km 南にあり、山頂から約 26km 離れたお寺山（伊勢崎市境伊与久町）と考えられています。

●**溶岩の噴出**：約 15 万年前から再び激しい火山活動が始まり、火口から爆発的に巨大な噴煙柱を上空高く吹き上げ、火砕流を発生させるプリニー式噴火で小型成層火山の形成に続いて、火口からやや粘り気のある輝石安山岩質の溶岩が山頂東縁で噴出して黒檜山と駒ヶ岳を造り、標高は現在とほぼ同じ約 1,800m になりました。東面の花見ヶ原や北斜面にある船ヶ鼻山（1,466m）が、この活動で流出した溶岩が冷え固まったものです。

駒ヶ岳は形成後、山頂付近で噴火があって東面を吹き飛ばしたようで、山頂が低くなり、東面は崖になっています。

●**棚下火砕流**：北側面でも大規模な活動が始まり、噴出した大量の軽石は北麓に堆積しました（追貝軽石層）。追貝軽石層は、南郷温泉（沼田市利根町日影南郷）付近の根利川右岸に見られます。

その後、約 12 万年前に西面でも大噴火が起こり、大量の岩塊や軽石が西に流れ下りました（棚下火砕流）。このとき造られた馬蹄形の凹地を、深山カルデラと呼ぶことがあります。噴出物は渋川市赤城町棚下付近で子持山に遮られて堆積し、利根川を堰き止めて深さ約 100m、面積 50km² を超える大きな天然ダム湖（古沼田湖）を造りました。

棚下火砕流の軽石堆積層は高温のため、内部が溶けて溶結凝灰岩となり、その堆積層は高さ約 100m の灰白色の崖として残っています。堆積層は利根川の浸食で削られて後退し、直近の浸食で造られた谷は綾戸（あやど）溪谷と呼ばれ、景勝地になっています。

赤城山西北面の堆積層や古沼田湖成層を利根川や片品川が浸食し、そのスピードには緩急があったため、教科書で取り上げられたことのある数段の見事な河岸段丘が形成されました。河岸段丘は英語でテラスといい、沼田市は市庁舎を移転した「グリーンベル 21」（沼田市下之町）の新しい愛称を、「TERRACE 沼田（テラスぬまた）」に決めました。

●**側火山の形成**：約 7.5 万年前には小黒檜山、荒山、鍋割山といった溶岩ドームの側火山ができ、荒山からは南側に溶岩が流出しました。西側面の深山カルデラ内にも小さな溶岩ドームが多数できました。

鍋割山の溶岩ドーム山頂では小噴火があり、スプーンで削ったような小さな凹地ができました。

●**山頂カルデラの形成**：約 4.5 万年前に山頂部で活動が活発になり、大噴火によって大量の軽石を噴出し（湯の口軽石層）、山頂カルデラ（東西約 2.5km×南北約 4km）を形成しました。この活動で発生した火砕流（大胡火砕流）は南側に流れ下り、先端は伊勢崎市北部まで到達して堆積しました。

山頂カルデラは、その大きさから、大量の軽石を噴出したため内部が空洞となって落ち込む陥没型（クラカトア型）というよりは、爆発で山頂部を吹き飛ばしたタイプに近いことが有力で、外輪山は黒檜山中腹の猫岩、駒ヶ岳西斜面の小突起、竈（かご）山、五輪尾根（陣笠山、薬師岳、出張山）、姥子尾根（鋤柄山、姥子（うばこ）山）、前浅間（まえせんげん）山、つつじが峯などとして残っています。これらの峰々では、溶岩が冷え固まる時に収縮してできる縦方向の節理（割れ目）がみられます。特に、鳥居峠横の竈山は、外輪山の複輝石安山岩の大きな岩塊があり、鳥居峠から東面を見下ろすと、溶岩の堆積層を確認できます。

山頂カルデラの外輪山は、沼尾川、赤城白川、粕川の 3 本で切られ、小沼火山の出現で南東部が失われています。

●**中央火口丘の形成**：山頂カルデラの形成後、中央火口丘形成期に入った 4～4.5 万年前の間に山頂カルデラ内でプリニー式噴火があり、噴出した角閃石安山岩質の軽石や火山灰は偏西風に乗って東側に流れ、栃木県鹿沼市付近で約 1 m、茨城県の太平洋沿岸でも 20～30cm 堆積しました。栃木県鹿沼市付近に堆積した軽石が風化したものが、園芸用に使われている鹿沼土です。

約 3.2 万年前には、山頂カルデラ内で小沼火山、地蔵岳、見晴山の順に、南から北に向かって中央火口丘が形成されていきました。

小沼火山では、火山弾、火山礫、軽石などを噴出し、円形の火口周辺に火砕丘を形成する爆発的なマグマ水蒸気噴火（タフリング）に続いて、角閃の粘り気の強い溶岩が東～南の火口壁付近で噴出して溶岩ドームができました。小地蔵岳や長七郎山です。この活動で山頂カルデラの東南部分が破壊されました。

小沼火山の活動と同時またはやや遅れて地蔵岳を形成する噴火活動が始まり、角閃石安山岩の溶岩ドームを造りました。溶岩ドームが現在のサイズとほぼ同じ大きさにまで成長した後、西面の地獄谷で水蒸気噴火があり、地蔵岳西面と荒山北面では山体崩壊が起きました。崩落で生じた土石流は赤城白川を流れ下って堆積したため、箕輪地区から大河原橋間は伏流水になりました。地蔵岳の南西面にある白ゾロ（灰白色の砂礫からなる裸地）は、約 100 年前までは水蒸気の噴気があったところで、その直下には昭和初期まで地獄谷温泉がありました。

見晴山は角閃石安山岩質溶岩を噴出したただけでした。

これら中央火口丘の形成とほぼ同時期に、深山カルデラ内でも鈴ヶ岳（1,565m）、モロコシ山、矢筈山、コフタ山、キズ山などの溶岩ドームができました。

●**山頂カルデラ湖の分断**：山頂カルデラのほぼすべてに湛水していた大きなカルデラ湖は、小沼火山の活動でカルデラ壁の一部が破壊されたこと、さらには小沼火山と地蔵岳の

出現によって、古大沼とオトギの森湖に分断されました。続いて古大沼は見晴山の出現によって新坂平湖を分離したため、一時期、山頂カルデラ内には、カルデラ湖が3個存在していました。

オトギの森湖は小沼火山や地藏岳形成時の噴出物で埋め立てられて浅くなり、また、粕川が山頂カルデラの外輪山を切ったため消失し、オトギの森とガキボッタの平地となりました。小沼火山や地藏岳の噴出物の堆積層、オトギの森湖の湖成堆積層は、粕川に懸かる小滝（落差8m）の地層に見ることができます。新坂平湖も沼尾川の侵食で山頂カルデラ壁が切られたため消失しました。

その後、古大沼は湖面の低下で大沼と覚満淵に分離されました。現在の大沼は山頂カルデラ内に湛水したカルデラ湖（湖面標高1,341m）ということになり、その大きさは、面積88万m²、周囲約4.5km、最大水深約16.5mです（水深は15～19mの範囲で諸説あり）。

●**火山活動の末期**：一連の中央火口丘が形成された後、約2.7万年前に小沼火山火口内の南側に偏ったところで噴火が起こり、角閃石安山岩ーデイサイト質の溶岩が噴出しました。この溶岩は火山ガスを大量に含んでいたため、ガスが抜けて多数の穴ができ、一部は軽石となりました。長七郎山山頂から西側に少し下った白ゾロの露地から小沼間の岩石が、この活動で噴出した溶岩です。長七郎山付近におけるこの噴火によって小沼火山の南側火口縁が破壊されたため、火口湖の水は粕川となって流出し、現在の小沼の直径約350mに縮小しました（湖面標高1,474m）。

3個の中央火口丘の活動が終了した後、2.4万年前に小沼火山の西側で小噴火があり、直径約80mの小噴火口を造りました。噴火タイプは噴出物をほとんど伴わないマグマ水蒸気噴火（マール）で、形成された噴火口は血の池（湖面標高1,451m）と呼ばれ、普段は水がありませんが、降雨が続くと1mほど湛水します。



赤城山山頂域（南側から撮影）

●**現在の状態**：かつて火山は、活火山、休火山、死火山に分類されていました。しかし、有史以来噴火活動がなく死火山とされていた御嶽山が1979年に噴火したことを契機に、

2003 年、活火山の定義の見直しが行われました。そして、活火山とは、現在活動中または過去約 1 万年以内に火山活動が確認された火山と定義され、日本では 2018 年時点で 111 の山（群）が指定されています。

鎌倉時代に書かれた史書である『吾妻鑑』（吾妻鏡、東鑑と記載されることもある）の建長 3（1251）年 4 月 26 日の条に、「去る 19 日（新暦では 5 月 11 日）に赤木嶽焼」の記述があります。気象庁はこの記述を採用して、赤城山は 13 世紀半ばに噴火実績を持つ活火山（C ランク）と認定しています。鎌倉時代における赤城山の噴火を裏付ける資料は他にもあり、三夜沢赤城神社の神官家（眞隅田家：ますだけ）に伝わる古文書『赤城神社年代記』のなかに、「建長三年頃、当於呂嶽、春より焼け始め、四月十九日焼出、石砂をふらす事夥しけれ共、当所は無難なり、今赤石平是なり」（於呂嶽は荒山、赤石平は現在の小麦沢）と記されています。1569 年の記述にも、富士山の活動活発化と関連して、荒山（小路之嶽と記述）が噴火しないよう鎮静を祈って荒山山頂に祠を設置したとあります。

1251 年に噴火したと思われる場所は、荒山山頂南の大穴と推定されますが、現在、荒山周辺には噴気・硫気孔はなく、火山性地震・火山性微動も全く記録されません。鎌倉時代に噴火があったとすると、2018 年 1 月の本白根山の噴火のような、ごく小規模の水蒸気噴火であったと思われます。

赤城山周辺では、南面の標高約 1,000m にある赤城温泉（炭酸水素塩泉、泉温 44℃）、また 1920 年頃まで地獄谷の爆裂火口跡（一杯清水バス停付近）に地獄谷温泉があった（今でも、鉄分を含んだ水が湧き出ています）ことを除くと、火山性の高温泉（湧出時の泉温が 25℃以上）はありません。

しかし、地蔵岳や小沼火山周辺の地下ではマグマの熱が残っており、地下水の供給がある場所では温泉水が出る可能性があります。実際、1989 年に行われたオトギの森における温泉試掘で、温泉水や蒸気の噴出がありました。しかし、有毒成分や有毒ガスが温泉水の基準値以上であったことや自然保護など諸般の事情により、温泉としての開発計画は中止されました。

なお、温泉水とは、成分含有量に無関係で湧出時泉温が 25℃以上、泉温に関係なく、有機化合物以外の溶存物質が 1 リットルあたり 1g 以上、あるいは指定 18 成分のどれかが基準値以上の地下水で（自然湧出、汲み上げは問わない）、なおかつ都道府県の検査機関によって認定されたもののことです。

赤城山の地下には相当量の熱源が存在する可能性があることから東京電力は 2018 年、赤城山南面で地熱発電所建設のための調査計画を発表しました。

2-4. 赤城山の噴出物・堆積物

●**溶岩**：初期に玄武岩質溶岩の噴出があり、その後は安山岩溶岩（複輝石安山岩、輝石安山岩、角閃石安山岩へと移行）を噴出する活動が大部分で、末期の活動では角閃石安山岩－デイサイト質溶岩が噴出しました。

赤城山山頂域の岩石を注意深く観察すると、暗灰色、灰色、灰白色と、大きく 3 種類あることが分かります。それぞれ複輝石安山岩、輝石安山岩、角閃石安山岩で、この順に噴出しました。さらに、角閃石安山岩は、空洞のないものと、空洞のあるもの（軽石）に分

けられます。



赤城山山頂でみられる溶岩・軽石

●**テフラ**：小沼火山の形成時にはテフラ（火山灰、火山屑、火山弾、軽石など）の噴出がありました。テフラを噴出して火口周辺に小山を造る爆発的なマグマ水蒸気噴火活動をタフリングといい、小沼周辺でテフラが観察できます。

●**溶岩流**：輝石安山岩の溶岩流は東斜面（花見ヶ原）、南斜面（赤城温泉付近）、北斜面（船ヶ鼻山）に見られ、山頂部から緩斜面が舌状に延びて末端が急傾斜（末端崖）になっています。溶岩流の長さは最長でも 3 km 程度で、溶岩はかなり粘りけがあってゆっくりと流れたことがうかがえます。

●**火砕流堆積層**：火口から噴出した火山ガス、火山灰、軽石、岩塊などが高温のまま高速で斜面を流れ下って堆積した火砕流堆積層（イタリア ポンペイ遺跡を連想するとよい）は、渋川市赤城町、前橋市大胡地区、桐生市黒保根町、沼田市利根町南郷地区などで見られ、最長は山頂から 10km 以上に達しています。火砕流が厚く堆積した場所では、高温の内部が溶けて固着した溶結凝灰岩や角礫凝灰岩になりました。火山灰や軽石が溶結した溶結凝灰岩は灰白色で、冷える時の収縮で形成される縦方向の節理ができます。溶結が弱い部分は侵食で洞窟になっています。典型例が渋川市赤城町棚下の利根川左岸の、約 100m の灰白色の崖です。角礫凝灰岩では、角ばった礫が混在しています。

赤城山から流出する河川の上流部に多くの滝があるのは、溶結凝灰岩層や角礫凝灰岩層に硬軟部分があって侵食スピードが異なり、滝を形成しやすいからです。

●**岩（土石）雪崩堆積層**：大きな成層火山は噴火や地震をきっかけに、大規模な山体崩壊を起こしやすい特性があり、赤城山では、岩雪崩によって西山麓や南山麓で多数の孤立丘（流れ山）群が造られました。すでに述べたように、赤城山から最遠の孤立丘は伊勢崎市境伊与久町の「お寺山」で、山頂から約 26 km あります。

岩雪崩が流れ下る時、流体力学の特性から、上部に大きな岩石塊が浮力によって持ち上がるため、孤立丘の頂上には、しばしば巨石が見られます。典型例が、産泰神社（前橋市下大屋町）や石山観音（観音山万徳寺：伊勢崎市下触町）の巨石群です。

●**扇状地堆積層**：大雨の時には大量の水が流れて、山体を侵食して深い谷を刻み、麓に土砂を堆積して山麓扇状地を造ります。赤城山南麓の裾野が長いのは、関東平野に向かって赤城白川、荒砥川、粕川など、火山の山麓としては比較的大きな河川が流れており、末

端の標高が約 45m と低く山麓扇状地が発達しているためです。北西麓（昭和村）でも山麓扇状地が発達し、この傾斜地は赤城高原とも呼ばれています。

一方、東面で裾野が短いのは、地下に足尾山地の地層が約 1,200m まであり、上げ底で噴出物が薄く覆っているだけのためです。

2-5. 赤城山の形状

巨大な成層火山は、山頂に主要火口があってカルデラを持たない単式成層火山（富士山、男体山、羊蹄山など）、広い山頂部に小型成層火山が多数あるもの（八甲田山、霧島連山など）、山頂にカルデラを持つ複式成層火山で中央火口丘が小型成層火山のもの（浅間山、阿蘇山など）、溶岩ドームであるもの（榛名山、箱根山、樽前山など）、スコリア丘であるもの（伊豆七島の青ヶ島など）などに分類されます。

赤城山は、榛名山や箱根山と似た、山頂カルデラ内に溶岩ドームの中央火口丘がある複式成層火山に分類されます。

2-6. 赤城山と富士山

「裾野は長し赤城山」と『上毛かるた』で詠まれています。実際、地図上で大きな火山の裾野を測ってみると、赤城山の裾野は最長で約 26 km あり、富士山（火口から田子の浦まで約 35 km）に次いで第 2 位となります。裾野の曲線は、電柱の間の電線が垂れ下がったような懸垂曲線（ $y = a (e^x + e^{-x}) \div 2$ ）の美しいパターンを描いています。しかし、富士山と赤城山の裾野の形成過程は異なっています。

富士山の裾野は玄武岩質の溶岩が流れてできたもので、山頂に噴火口があってカルデラはありません。富士山の側火山は、割れ目噴火を伴う大規模なものは大量の溶岩を流出させて青木ヶ原のような平坦な地形を、火口が 1 つで小規模なものはスコリア丘（大室山など）を、溶岩の流出を伴わないプリニー式の爆発的マグマ噴火は噴火口周辺に小丘を造りました（宝永噴火）。また、富士山山体は玄武岩質のスコリアや溶岩の堆積で形成されているので浸透性が非常に高く、山中には河川（河川の定義は、1 年を通して流水幅が 1.5m 以上）がなく、山麓で湧水となって湧き出します。

一方、赤城山の溶岩は安山岩質で粘性が高いため、溶岩流は山頂周辺に限られ、最長でも 3 km 程度です。側火山は、大部分が噴火口から粘性の高い角閃石安山岩が盛り上がった溶岩ドームです。裾野は火山噴出物や火砕流が直接堆積した部分と、赤城山から流れ出す赤城白川、竜の口川、荒砥川、粕川などの小河川が造った山麓扇状地部分からなります。山麓扇状地の堆積層は礫岩が重なっており、水の流れによってできるラミナ（葉理）構造があるので、火砕流堆積層との区別は容易です。

赤城山の裾野が最も発達しているのは関東平野に面した南面で、末端は伊勢崎市中心部～東部まで達しています。

2-7. 赤城山と榛名山

赤城山と榛名山の両火山は、形成時期、形成過程がよく似た、山頂にカルデラと溶岩ドームの中央火口丘を持つ複式成層火山です。

榛名山の活動は約 50 万年前から始まり、約 24 万年前までに、成層火山の山体本体（標高約 2,500m）を造りました。約 20 万年間の休止期を経て活動が活発となり、約 5 万年前に始まった後期榛名山活動は 6 世紀半ばまで続き、火砕流、降下軽石、溶岩ドーム、スコリア丘の形成で現在の姿となりました。

榛名山の最高峰は掃部ヶ岳（かもんがたけ：1,449m）、面積は約 400km²（28km×20km）で、赤城山の標高（1,828m）より低く、また赤城山の面積（約 700km²：35km×25km）よりも小さいのですが、体積は約 180km³で、赤城山の 1.8 倍です。榛名山は同心円状に 3 重のカルデラと溶岩ドームの中央火口丘（榛名富士）を持つ 4 重式の複式成層火山で、この構造は世界的に珍しいものです。側火山は溶岩ドーム（二ツ岳、相馬山、浅間（水沢）山など）とスコリア丘（粘りけの少ない玄武岩質溶岩が定期的に噴水のように吹き上げるストロンボリ型噴火による火山弾などの噴出物が火口周辺に堆積してできた小山：古賀良山、種山、鐘撞山など）の両方があります。

2-8. 男体山（日光二荒山）

伝説の中で度々登場する日光二荒山（男体山、2,484m）についても、触れておきます。

男体山は、赤城山から北東方向約 35km にある、日光火山群（三岳、太郎山、女峰山、大真名子山、小真名子山、赤薙山など）に属する中型の成層火山（基底直径約 6km、体積約 8km³、基底から山頂までの標高差約 1,200m）で、百名山に数えられています。

男体山は約 3 万年前から安山岩やデイサイト質溶岩や火山砕石を噴出し、山頂には直径約 1km の北に開いた馬蹄形の火口があり、この火口から噴出した最後の溶岩流（御沢溶岩流）が北西部に厚く堆積しています。2008 年に実施された山頂の噴出物調査により約 7,000 年前にも噴火があったことが判明し、2017 年 6 月に活火山に分類されました。

男体山が噴出した複数回の溶岩流により湯川が堰き止められ、中禅寺湖や戦場ヶ原（かつての堰止湖が土砂で埋まって湿原化）が形成されました。中禅寺湖の流出先には日本三大瀑布として知られる華嚴の滝が、戦場ヶ原の流出先には竜頭の滝があります。

男体山山頂には二荒山神社奥宮があり、一等三角点（2,484.2m）が設置されています。



男体山（日光二荒山）

第3章. 赤城山の植物

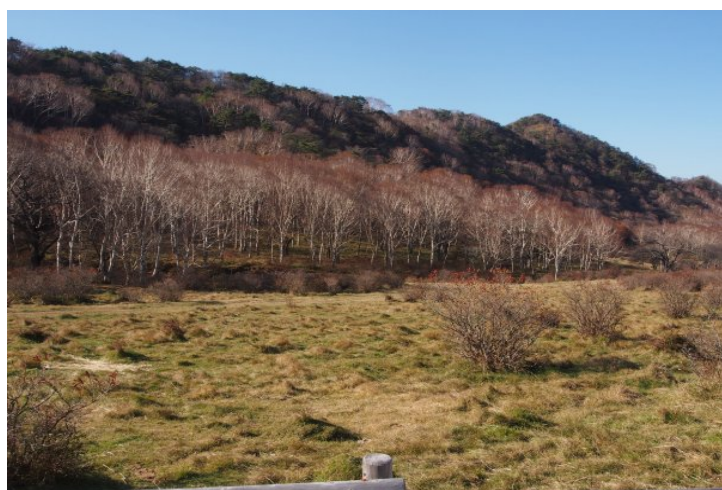
3-1. 樹木

赤城山山頂域および山麓で標高 1,000m 以上の植生は、落葉広葉樹のミズナラを主とする自然林で、その他に、ダケカンバ、カエデ類が多くあり、北面ではブナの割合が増します。

●**ミズナラ**：山頂域のミズナラには樹齢が 200 年を超えるものがあり、特に、大沼湖畔の「前橋市赤城少年自然の家」北側のミズナラの森にある巨径木は、大人 2 人が入れる洞を持っています。大沼北岸の厚生団地入口にあるミズナラ巨径木では、高さ約 4m のところにある小さな洞からイロハモミジが芽生え、幹が直径 10cm ほどに成長しています。

●**ダケカンバ**：県道 4 号が大沼湖畔に到着する付近に「白樺純林地帯」の案内板があります。ただし、この地域のシラカンバは人工的に植えたもので、その他の地域で自然に繁茂しているのはダケカンバです。樹皮の色は、シラカンバは白く、ダケカンバはやや褐色がかった白色です。

新坂平からみた姥子尾根東斜面のダケカンバ純林は、第二次世界大戦後に牧場利用が終了した場所に自然繁茂したもので、樹齢は約 75 年です。



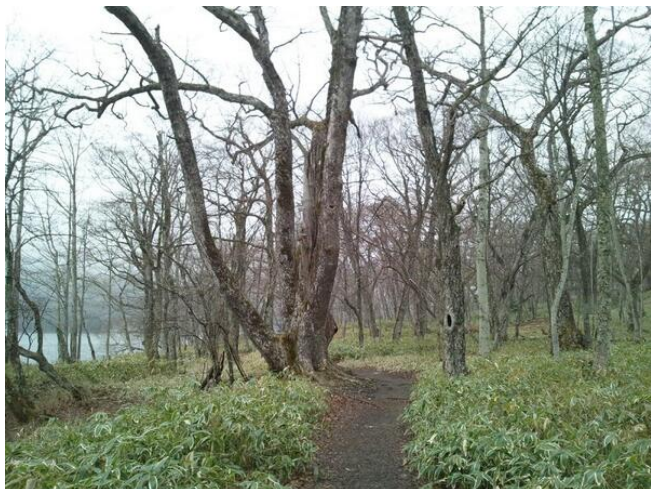
新坂平のダケカンバ純林

●**カエデ類**：日本ではカエデ類が 26 種（文献によって異なる）あり、赤城山山頂域ではミズナラやダケカンバに混在して 21 種類のカエデ類が自生しているといわれています。代表的なものに、イロハモミジ、オオモミジ、ハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ、ミネカエデ、イタヤカエデ、ウリハダカエデなどがあります。

イタヤカエデの亜種であるクロビイタヤ（黒皮板屋）は、赤城山にもあって名前から黒檜山と関係すると思いがちですが、名前の由来については無関係です。クロビイタヤは発見者の名前からミヤベカエデとも呼ばれ、樹皮が黒く、北海道南部、本州では東北北部および福島・群馬（赤城山）・栃木（日光）・長野に隔離分布している希少種です。また、オオイタヤメイゲツというカエデもあり、名月赤城山を連想しますが、これも無関係です。いずれのカエデ類とも、5 月下旬から芽吹きが始まり、9 月下旬～10 月下旬に赤色や黄色の紅葉で、赤城山を彩ります。

●**クリ**：箕輪地区にはクリの巨径木があり、最大の巨木は県道4号 姫百合駐車場近くの「くりの広場」にあって「赤城栗太郎」の愛称で呼ばれています。

●**ブナ**：山頂域ではブナもみられ、小鳥ヶ島ではかなりの巨径木があります。小鳥ヶ島を陸続きにした1947年の土石流堆積場所では、樹齢約70年のブナが比較的高密度です。



ミズナラ巨径木



クリ巨径木（赤城栗太郎）

3-2. ヤドリギ

県道4号（前橋赤城線：赤城白樺ライン）を登っていくと、姫百合駐車場から地獄谷手前のミズナラ巨径木にたくさんのヤドリギが寄生しています。ヤドリギは半寄生性の常緑樹で、その実を食べた渡り鳥のキレンジャクやヒレンジャクが樹上で糞をしたため発芽したものです。ヤドリギの成長は非常に遅いため、赤城山では樹齢の長いミズナラの巨径木だけに寄生できるのです。

北欧では、ヤドリギの樹下で男女が愛を語ると成就するとの伝説があります。



ミズナラに寄生するヤドリギ



ヤドリギ

3-3. 旧大洞赤城神社境内の針葉樹（ウラジロモミ、クロベ）

大沼南湖畔の旧大洞赤城神社境内には、ウラジロモミやクロベの巨径木があります。平地にある神社の境内では、神の降臨・昇天のため、天に向かって大きく伸びるスギを植え

ることが多いのですが、赤城山頂では冬季の寒冷のためスギが育たず、ウラジロモミやクロベを植えたと考えられます。



旧大洞赤城神社境内の針葉樹の巨径木

3-4. 小鳥ヶ島

赤城山山頂域の植生は基本的には落葉広葉樹ですが、小鳥ヶ島には針葉樹（多くはウラジロモミ）がかなり密にあります。小鳥ヶ島は、1947年のカスリーン台風による山崩れのため陸続きになりましたが、かつては湖岸と離れていたため、特殊な極相林が形成されたと考えられています。

大洞赤城神社の遷座、土産店の開業などで針葉樹を含む多くの樹木が切られたのは残念です。



小鳥ヶ島

3-5. 覚満淵の湿原

大沼の南東、駒ヶ岳と小地蔵岳に囲まれたところに覚満淵があります。覚満淵の名前は、允恭（いんぎょう）天皇の時代（412～453年）に、この地で比叡山の高僧 覚満が法会を行ったという、南北朝時代（文和・延文年間：1352～1361年）に編纂された『神道集』の記述に由来しています。しかし、日本への仏教伝来が538年であることから、法会が行われた年代については疑義があります（実際は平安時代？）。

覚満淵は古大沼の水面が低下した際に取り残された湿地帯で、かつては周囲からの湧水が集まった小川が流れ、明治時代以降、1945年頃まで牧場として利用されてきました。1920年代（大正時代）には家畜の水場確保を目的に北西側に堰堤が造られ、深さ約1mの小池が

できました。

覚満淵は小尾瀬とも呼ばれ、北東部は雨水だけで涵養される高層湿原になっており、ミズゴケなどの植物が低温のため分解されずに堆積した厚さ 2.5～3m の泥炭層の存在が確認されています。また、覚満淵は、関東地方で最も南に位置する高層湿原であるとされています。

覚満淵内にはミズゴケのみならず、モウセンゴケなどの湿原特有の様々な植物がみられます。モウセンゴケは食虫植物で、覚満淵の土壌が植物の成長に欠かせない栄養分、特に窒素やリンが乏しいため、動物を分解して栄養分を補充する必要があるのです。高木ではズミ、マユミ、ナナカマドなどが、低木ではレンゲツツジがあります。

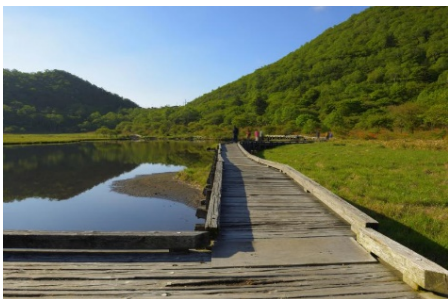
覚満淵の南側ではノハナショウブ、コバギボウシ、ノハラアザミ、マムシグサ、アケボノソウ、ワレモコウ、エゾリンドウ、サワギキョウ、アキノキリンソウ、マツムシソウ、ヨツバヒヨドリなどの可憐な花が、北側では、クサタチバナ、マンセンカラマツ、トネアザミ、タムラソウ、ツリガネニンジン、カワラマツバ、トモエソウなどが、季節に応じて咲きます。また、花の蜜を吸いに、アサギマダラやヒヨウモンチョウ類が集まります。

かつて覚満淵にはニッコウキスゲ（正式名はゼンテイカ）の群落がありましたが、ミヤコザサ、ススキ、ワラビなどの繁茂やシカの食害で個体数が激減しました。現在、シカ侵入防止ネットの設置、ササの刈り取りなどで、覚満淵のかつての植生を回復する取り組みが行われています。

湿原保護のため、南側には木道が敷かれています。しかし、写真撮影で湿原内に踏み入る人をしばしば見かけます。湿原は一度踏み入れたら土壌が圧縮されて乾燥化が進み、回復に何十年もかかることを理解して、湿原保護のため立ち入りは絶対に止めましょう。



鳥居峠から見た覚満淵の湿原（後方は大沼と五輪尾根：陣笠山・薬師岳・出張山）



覚満淵の木道



覚満淵北東側の高層湿原



モウセンゴケ

3-6. ツツジ類

赤城山にはツツジ類が豊富で、群落と地質、および植生や過去の土地利用状況と密接に関係しています。

●**レンゲツツジ**：巨径木のない、日照のよい場所（新坂平、覚満淵、小沼周辺、荒山高原など）に群落があり、6月上旬～中旬にオレンジ色の花で彩られます。新坂平は2015年まで牧場（白樺牧場）として牛の飼育に利用されていましたが、覚満淵、小沼周辺もかつては牧場でした。ウシの飼育がなくなった白樺牧場では2018年9月、観光用と下草除去を目的にヒツジの飼育が試験的に始まり、2019年6月には5頭のヒツジに名前が付けられました。



新坂平のレンゲツツジ群落



レンゲツツジの花

●**アカヤシオ**：赤城山山頂では、5月上旬～中旬に最初に開花するツツジで、日照のよい溶岩地帯（鳥居峠北の籠山、銚子の伽藍周辺、荒山など）に群落があります。アカヤシオは、赤城躑躅（あかぎつつじ）の別名でも呼ばれています。



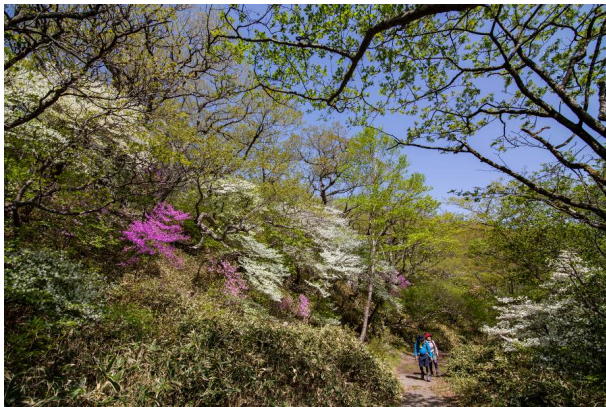
アカヤシオ（籠山）

●**トウゴクミツバツツジ**：溶岩地帯で日陰の場所（大沼東湖畔、長七郎山北面など）に群落があり、赤紫色の花を咲かせます。名前の通り、葉は3葉です。



トウゴクミツバツツジの花

●シロヤシオ：ツツジ類の中ではもっとも巨樹に成長し、スコリアが堆積した日陰の場所（小沼の東～南湖畔など）に群落があります。葉が5葉なので、ゴヨウツツジの別名があります。



小沼湖畔のシロヤシオ群落



シロヤシオの花

●その他のツツジ類：サラサドウダン、コメツツジ、ヤマツツジなどが、赤城山山麓や山頂域の各所でみられます。特に、約3kmも続く三夜沢赤城神社参道のヤマツツジの並木は見事です。

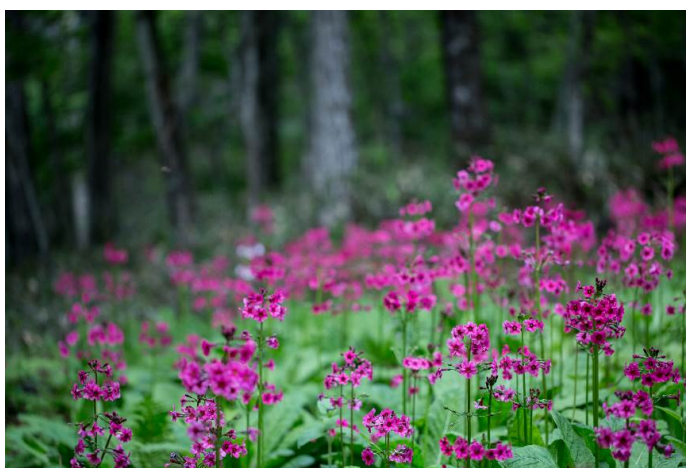


三夜沢赤城神社参道のヤマツツジと松並木

山頂カルデラの南側外輪山につつじが峰のピークがあり、山麓からの登山道はツツジの群落中を通過します。

3-7. クリンソウ

大沼北岸の厚生団地地区では、会社や大学の寮や保養所の撤退で、建物を取り壊して整地した場所が多くみられます。このような整地場所で、クリンソウが芽吹きだしています。埋蔵種子の復活で、この植物の生命力の強さを物語っています。



クリンソウ

3-8. 籠山のヒカリゴケ

鳥居峠北の籠山は山頂カルデラ壁の溶岩が累積しており、その岩間にヒカリゴケが自生しています。ヒカリゴケは自ら発光しているわけではなく、弱い光の中でも光合成が行えるように光を効率よく反射する細胞があって、暗い場所で光っているようにみえるのです（道路標識やネコの目が光を反射してよく見えるのと同じ）。

なお、赤城山北面の県道 251 号（沼田赤城線）沿いの溶岩洞穴内に自生するヒカリゴケは、群馬県天然記念物に指定されていましたが、数が激減したため 2004 年に指定解除になりました。しかし、2018 年 9 月時点の観察では、わずかながら残存していました。

3-9. 中腹のクロマツ林

赤城山の中腹には広範囲にわたってクロマツ林が広がっていました。クロマツは群馬県の県木に指定されていますが、本来は海岸のやせた土地で真っ先に自生する常緑高木で、内陸部ではクロマツの自然林はありません。赤城山のクロマツは、江戸時代末期～明治時代初期の農業研究家 船津傳次平の発案で明治時代初期から植林が始まり、第二次世界大戦後、荒廃した山麓の森林回復のために旧富士見村（現 前橋市富士見町）の村民が協力して植えたものです。

1961 年、県道 4 号（前橋赤城線：赤城白樺ライン）沿いの標高 500m の地（前橋市富士見町赤城山 大河原）で開催された第 2 回全国植樹祭でも、クロマツが植えられました。しかし、マツノザイセンチュウ（マツクイムシ）によるとされる松枯れ被害が拡大して赤城

山南麓の松林はほぼ全滅してしまいました。現在、植生の回復、または他樹種の植林が図られています。

3-10. 赤城山に由来する植物名

バラの品種で「赤城の輝き」があり、アカギキンポウゲ（ウマノアシガタ変種）、ナベワリキゴケ（地衣類）があります。

箕輪の姫百合駐車場近くの「くりの広場」にあるクリ巨径木は、赤城栗太郎の愛称で呼ばれています。

3-11. ザゼンソウ

国道 353 号（桐生柏崎線）の前橋市富士見町石井の信号機付き交差点「石井」を北上した、沼の窪市有林内にザゼンソウの群落があります。2 月に開花が始まり、早春の喜びを告げます。



ザゼンソウ（前橋市富士見町石井）

3-12. ミズバショウ

赤城山には、本来は自然繁茂のミズバショウはありませんでした。しかし、地元の人達が観光のために植えたものとして、山頂域では大沼西岸、南麓では嶺公園（前橋市嶺町）にあります。覚満淵堰堤下にも、移植したミズバショウがありますが、土地の栄養価が低いため成長は悪いです。

このような植物の移植は、生態系の保護からみると好ましい行為ではありません。



ミズバショウ（前橋市 嶺公園）

3-13. ササ類

赤城山の立地位置から、表日本型と裏日本型の植生が混在しています。その典型例がササ類で、黒檜山～薬師岳～出張山の稜線から南側は背の低いニッコウザサ（一部ミヤコザサ）が主ですが、それより北側ではチシマザサが主です。ササが繁茂している主な場所は日照のよいスコリア堆積地帯で、日陰の溶岩地帯ではコケが繁茂しています。

ちなみに、チシマザサは背丈が高く、豪雪地域では積雪のため根本が曲がっているので根曲竹（ねまがりたけ）と呼ばれ、そのタケノコは食用になります。

3-14. 代表的な花

7～9月の赤城山では、ハイキングコース、登山道周辺で、以下に示すような花が見られます。



シモツケ



ヤマブキソウ



シシウド



マムシグサ



ヤマアジサイ



ツルアジサイ



ウツボグサ



バイケイソウ



ヤマオダマキ



ニッコウキスゲ



ツリフネソウ



クサタチバナ

3-15. 赤い果実が実る樹木

人の視細胞は、赤橙色、緑色、青色にそれぞれ最大感度を持つ錐状（すいじょう）体細胞と、明暗だけを感じる桿状（かんじょう）体細胞があります。赤色の果実は食料供給と関連して、心を和らげてくれます。赤城山山頂域では、次の樹木が赤い果実を実らせます。

●**ナナカマド**：バラ科の高木で、覚満淵周辺に多く見られ、真っ先に紅葉が始まります。牧野富太郎は名前について、幹を7回竈に入れても燃えないことに由来するとしています。が、実際は、乾燥するとよく燃えるそうです。

●**ズミ**：バラ科の高木で、晩春から初夏にかけて、白色または白色で部分的にピンク色の花を咲かせ、秋には黄色または赤色の小さな球形の果実をつけます。大沼南湖湖畔や覚満淵で多く見られます。名前は実が酸っぱい（酸実）ことに由来します。

●**オオカメノキ**：レンプクソウ科の低木ー小高木で、葉が亀の甲羅のような形をしており、虫に食べられた小さな穴がたくさんあることから、ムシカリの別名があります。葉は赤色に紅葉します。花は白色で、夏に赤い実をつけ、秋になるって熟すと赤紫色になります。酸味が強いですが食べられます。山頂域の散策路ではどこでも見られます。

●**マユミ**：ニシキギ科の高木です。秋になると茶色がかったオレンジ色に紅葉し、朱色をおびた赤色の四角い果実を実らせます。マユミの名は、幹が弓に使われることに由来します。覚満淵の遊歩道で見られます。

第4章．赤城山の動物

4-1. 哺乳類

●ニホンジカ：1980年代以降、足尾山地で繁殖しているニホンジカが食料を求めて移動してきたため、赤城山では標高400m以上の地点でしばしば見かけるようになりました。赤城山山頂域のシカ頭数は約400頭、周辺を含めると1,000頭を超えると推定され、覚満淵のニッコウキスゲが食べられて激減したり、リョウブ、サラサドウダン、シロヤシオなどの樹皮が食べられて枯れたりといった被害が出ています。

覚満淵では、周囲約1.5kmにわたってシカ侵入除け用のネットが張られ、それ以外の場所では、樹木の幹にネットを巻きつけて食害防止が図られています。

●ツキノワグマ：赤城山全域にわたってツキノワグマが生息しています。赤城山山頂域では今のところ人的被害の報告はありませんが、注意が必要です。オトギの森では、ミズナラの樹上にクマ棚（実を食べるため折った枝が重なったもの）が見られます。

最近では中腹域では出没報告が多くなり、2018年には南西麓の前橋市田口町、富士見町原之郷の人家付近でクマ出没があり、話題になりました。

●ニホンカモシカ：数は少ないものの、山頂域に生息しています。カモシカは天然記念物に指定され、シカとっていますが、ウシ科（偶蹄目）の動物です。

●その他：山麓にはホンダタヌキ、ニホンイノシシがかなりの頭数います。

今のところ赤城山周辺でニホンサル（ニホンザル）の生息は確認されていません。しかし、北東の片品村や、赤城山山頂から10数kmしか離れていない沼田市利根町大楊・追貝・穴原、桐生市黒保根町、みどり市あずま地区などではニホンサルが出没しています。

夜行性なので見られる機会あまりありませんが、ホンダギツネ、ホンダテン、ニホンノウサギ、ニホンリスなどが生息しています。積雪時は、足跡をしばしば見かけます。松林では、松ぼっくりの実をニホンリスやムササビが食べた跡が、エビフライのようになって落ちています。



森のエビフライ

4-2. 鳥類

●キレンジャク・ヒレンジャク：赤城山でみられる美しい鳥はキレンジャク・ヒレンジャクで、渡り鳥ですが、その通過位置は、ヤドリギのある場所と一致しています。その理由は、ヒレンジャク・キレンジャクがヤドリギの実を食べ、消化されない種子を含む粘り気のある糞をミズナラの樹上でして、発芽するからです。



キレンジャク

●**ホトトギス**：山頂の森林を歩いていると、「キョッキョキョキョキョ・・・・」とけたたましい、ホトトギスの鳴き声が聞こえます。ホトトギスはカッコウと同じように卵を温めず、孵化をウグイスなどに托卵する性質があります。

●**トビ**：赤城山山麓でもっとも目にする鳥で、南面～西面の標高 400～500m 付近に多数生息しています。午後になると上昇気流に乗って、何十羽ものトビが旋回する鳥柱がしばしば見られます。カラスの生息数も多く、鳥柱のなかにしばしばカラスが紛れ込み、トビを追い回すユーモラスな様子を見ることがあります。

トビのエサはネズミが主なので、赤城山山麓には野ネズミが多数生息していることを示しています。

●**ウグイス**：鳴き声で名前が分かるのはウグイスです。赤城山中では6月頃から、姿は見えなくても、ホーホケキョという鳴き声を聞かないときはほとんどありません。ウグイスのオスは侵入者に対して「ケキョケキョケキョケキョ・・・・」と警戒音を発することがあり、これがいわゆるウグイスの谷渡りと呼ばれています。

4-3. 昆虫

●**ヒメギフチョウ**：赤城山で特筆すべき昆虫はヒメギフチョウ（アゲハチョウ科）です。関東地方では赤城山が唯一の生息地で、群馬県の天然記念物に指定され、「赤城姫」の愛称でも呼ばれています。ヒメギフチョウが観察できるのは、渋川市赤城町南赤城山のモロコシ山付近です。ヒメギフチョウの幼虫が食す植物はウスバサイシン、成虫の栄養源はカタクリやスミレ類の花の蜜なので、これら植物の保護が重要です。



ヒメギフチョウ

4-4. 魚類

●**ワカサギ**：大沼に生息する魚類で最も有名なのはワカサギで、受精卵の放流で個体数を維持しています。釣りの解禁期間は 9 月 1 日～11 月 30 日がボート釣り、1 月の大沼全面結氷後は、安全性が確認されてから 3 月下旬の氷が緩むまでの間です。小沼でもかなりの個体数が生息していますが、釣りの対象にはなっていません。

●**ウグイ**：大沼に生息する個体数はかなり多く、覚満川を遡上して産卵する姿が見られます。禁漁期間は設けられていませんが、覚満川での釣り（魚捕り）は禁止です。

●**コイ**：大沼でマゴイ、ヒゴイが見られます。個体数が多いのは、小鳥ヶ島の赤城神社周辺で、神社に祈願してヒゴイを放流する儀式があったこと、現在は神社参拝者が餌やりをすることと関しています。禁漁期間は設けられておらず、青木旅館～キャンプ場間でコイやフナ釣りをする人が多いですが、コイはキャッチ アンド リリースしましょう。

●**イワナ・ヤマメ**：赤城山を流れる河川では、イワナやヤマメを対象にした溪流釣りが行われています。

イワナは覚満川でも見られます。

第5章．赤城山の気象・災害

5-1. 年間降水量

赤城山の気候は基本的には表日本型ですが、関東平野に面している南面では、夏季に霧が発生しやすい傾向があります。

赤城山山頂域の年間降水量は約 1,500mm で、山頂カルデラ内の降雨・降雪は、小沼周辺では粕川に、また地蔵岳西面では赤城白川に行くのを除くと全て大沼へ流入します。その年間流入量は約 1,000 万トンで、東京ドームの体積（124 万 m³）の約 8 倍です。

大沼の水は沼尻から沼尾川となって流出し、西流して利根川に合流します。一部は赤城白川用水として、新坂平下に掘削されたトンネルにより、赤城白川に導水しています。

赤城山全体の年間降水量は約 7 億トンで、東京ドームの約 560 倍です。この水は河川となって流下して深い放射谷を造ったり、地下に浸透したりします。地下水は山麓各地で湧水となります。赤城山山麓で●井、■泉などの地名は、湧水と関連しています。水中に溶けていた空気が泡となって出てくる湧水は、湧玉と呼ばれることがあります。

5-2. 大沼、小沼の全面結氷

大沼、小沼とも冬季は全面結氷し、氷の厚さは 50cm を超えることがあり、昭和初期まで採氷が行われていました。

大沼では結氷直後で積雪が少なく、かつ風が強くで透明な油氷になった状態では、氷に閉じ込められた気泡（アイスバブル）が見られます。アイスバブルは、水が急速で凍るとき、水に溶け込んでいた空気が泡になって氷に閉じ込められたものです。2019 年の結氷ではアイスバブルが話題になり、氷上に雪が積もるまで見られました。1 月上旬から 3 月末間は、大沼でのワカサギの穴釣りで賑わいます。

大沼は南北に長く、昼夜の温度差で氷の膨張・収縮が起こり、赤城神社から前橋市赤城少年自然の家の間で、氷が割れて 20cm ほど盛り上がる御神渡りができます。ただし、赤城山では、御神渡りができても特別な儀式は行われません。

解氷は 4 月上旬～中旬で、氷が六角形の針状に分かれるアイスクャンドルが見られます。



大沼のアイスバブル

5-3. 冬季の降雪と空っ風

赤城山では、強力な寒波がシベリアからやってきたとき（北麓では雪、南麓ではからっ風）、あるいは南岸低気圧が通過したとき（南麓では雨または雪）に雪が降り、最大積雪は1～1.5mになります。積雪の多くは南岸低気圧によるものです。

赤城山の初冠雪は、立秋後最初に、前橋地方気象台（前橋市大手町2丁目）から山頂の雪（白くなっている）が見えたときです。

日本海で水蒸気を得たシベリア気団が上越国境（三国山地）で大量の雪を降らせ、さらに赤城山で雪あるいは霧氷となって水分を完全に吐き出した季節風は、乾燥した空気となって平野部に吹き下ります。これが上州（群馬）名物の空っ風で、赤城風（あかぎおろし）とも呼ばれています。空っ風は一種のフェーン現象なので温度そのものはそれほど低いわけではないのですが、風が強いので体感気温が下がって冷たく感じられます。赤城山の南～東側山麓では空っ風の強風を和らげるため、屋敷の北西部に檜の生垣や竹林を施した家が多く見られます。群馬県人の声が大きいのは、空っ風に負けないように大声で話すためとの説があります。また、群馬県人の肌が日本一悪いというデータがあり、原因として乾燥した風を受けるためと説明されています。『上毛かるた』では、「雷と空っ風義理人情」とあり、群馬県人の気質形成にも関わっていると考えられています。

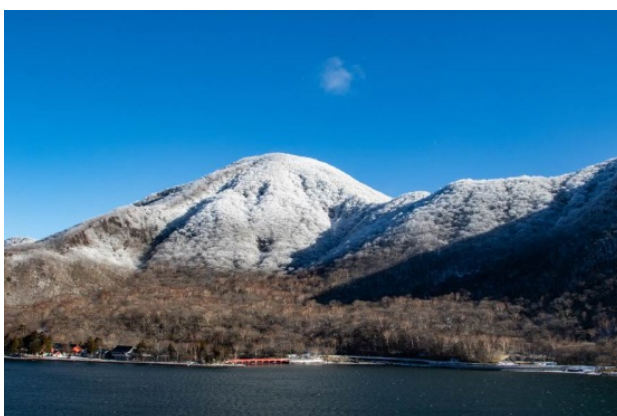
1983年開催の第38回国民体育大会（あかぎ国体）のキャッチフレーズが「風に向かって走ろう」であったのも、からっ風を意識していました。

渋川市赤城町の伝説では、赤城山から空っ風が吹くのは、鬼が相撲を取りながらおならをしているのだそうです。

晴天日の多い赤城山南西麓～南東麓では、かつては養蚕と小麦の生産が盛んで、大規模な蚕種製造が行われました。蚕種製造で有名なのは、ユネスコ文化遺産に登録されている田島弥平旧宅（伊勢崎市）、荒船風穴（下仁田町）です。前橋市田口町の塩原家住宅は、1912（大正元）年建築の蚕種製造用住宅で、2019年、国指定重要文化財に決定されました。現在も居住中です。



からっ風の強風を避ける屋敷林



赤城山（黒檜山）の霧氷

5-4. 雷雲の発生

夏季は南東の季節風が赤城山にぶつかって斜面を上昇することに加えて、山腹が熱せられることで強い上昇気流が起これ、対流圏最高部にまで達する大規模な積乱雲（雷雲）が

発生します。赤城山で発生した積乱雲による雷は赤城雷と呼ばれ、東～南東に向かって流れて桐生市付近から栃木県南部に雨を降らせます。すでに述べたように、赤城山の古式名である「くろほのねろ」は積乱雲の発生に由来するとの説が有力です。関東平野に雷電神社が多数あるのは、雷が発生やすく、夏の降雨に寄与していることが関係しています。



赤城山に立ち昇る雷雲

梅雨時や台風の襲来で、太平洋から供給される大量の水蒸気を含んだ南風が吹き込んでも赤城山では積乱雲が発達して南面に大量の雨を降らせます。この場合、積乱雲がほぼ同一場所で次々に発達するので、豪雨は特定箇所に集中して、河川の氾濫、護岸の侵食、土石流雨の発生、崖崩れなどの災害を引き起こすことがあります。1947年9月のカスリーン台風や、直近では2019年6月21日の豪雨がその典型例です。

5-5. 南側山腹は濃霧・霧雨、山頂部は快晴

梅雨時には、冷たく湿気に富んだ北東気流が関東平野で南東方向に向きを変えて赤城山でブロックされ、上昇気流となって雲を発生させます。ただし、この気流は積乱雲を発生させるほどの強さはありません。

気流のスピードが中程度では南側山腹では霧や霧雨となり、南麓平野部から赤城山を見ると、山体全体が雲（霧）に覆われています。通常であれば、気流は赤城山を越えられるので、赤城山の北面では下降気流となって霧が消え、利根・沼田地域の天候は曇り～薄曇りになり、この地域からは赤城山山頂域を除いてほぼ全体が見られます。

一方、南東気流のスピードが遅い場合は山頂を越えられません。そうになると、赤城山の南側山腹では、標高約1,300mまでは濃霧・霧雨の状態ですが、それより高い山頂域は快晴になり、山頂から見下ろすと南側一面に雲海が広がっています。平野部から赤城山を見た時は、霧に覆われた山腹部の上に山頂部だけ見えます。このような面白い気象現象が、梅雨時に数回起こります。

5-6. 気象観測装置

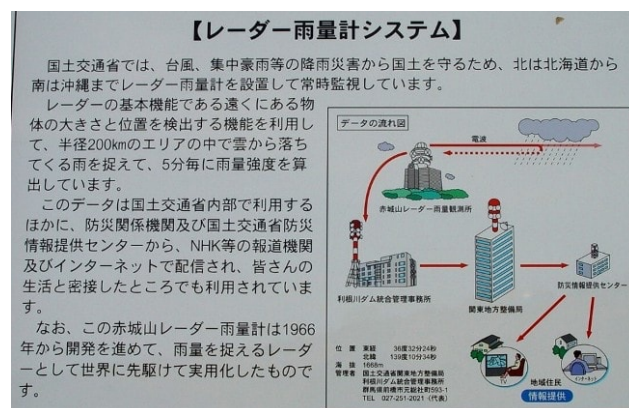
赤城山の地蔵岳山頂に 1953 年、ロボット雨量計（雨量自動観測装置）が、日本で最初に設置されました。この観測装置の設置は、当時の気象庁測器課長 藤原寛人（ペンネーム：新田次郎）が考えたもので、当初は長七郎山が候補地でしたが、1952 年 3 月の現地調査の際、濃霧の中でコンパスが狂ってしまったため設置を断念し、地蔵岳に決めたそうです。この顛末は、エッセイ集『アルプスの谷アルプスの村』（新潮文庫）に「狂った磁石」の題で書かれています。

ロボット雨量計は現在、日本各地に約 1,300 箇所設置されている自動気象データ収集システム（アメダス）に引き継がれています。なお、藤原寛人（新田次郎）は、山岳関係の小説を多数発表した作家ですが、気象庁在職中は富士山レーダー（すでに廃止）の設置にも中心的役割を果たしました。

地蔵岳山頂には、国土交通省の雨量観測用レーダーが設置されています。この雨量観測用レーダーの設置は 1976（昭和 51）年で、世界で初めてです。観測範囲は半径 200 km ですが、実際に公式利用されるデータは半径 120 km の範囲内の雨量（1 時間雨量 1～250 mm）を 5 分間隔で計測したものです。



地蔵岳山頂の雨量観測用レーダー



レーダー雨量計システムの案内板

5-7. 酸性雨測定所

八丁峠には国設赤城酸性雨測定所（1996 年 3 月設置）があります。

酸性雨・霧は、工場排煙やディーゼル車排気ガス中の硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、塩化水素ガス(HCl)が水に溶けて pH5.6 以下になった場合を指し、植物を枯らしたり、土壌の酸性化をもたらしたりして植生に悪影響を及ぼし、また金属・コンクリートの溶解などを引き起こします。

1970 年代に酸性雨が全国的に問題になったのは、鳥居峠の針葉樹（ウラジロモミ）の葉枯れがきっかけでした。調査研究の結果、夏季に首都圏で形成された酸性物質を含む南東気流が赤城山で吹き上がり、酸性霧が発生して常緑の針葉樹に影響したことが突き止められました。また、松枯れの原因の 1 つに、酸性雨による土壌の酸性化が挙げられています。

酸性雨測定所は、国の委託を受けて群馬県衛生環境研究所が管理・運営しています。



八丁峠の酸性雨測定所

5-8. 気圧・気温

赤城山山頂（黒檜山：1,828m）の気圧は、平地（前橋：120m）の約 83%（830hPa）です。気温は 100m 上昇するごとに約 0.6℃ 下がるので、約 10℃ 低いことになります。大洞（1,350m）では、気圧は約 880hPa で、気温は麓の前橋（標高 110m）より約 7℃ 低くなります。そのため、夏季の猛暑を避けるにはもってこいの場所です。

赤城山山頂で観光に従事する方々によって 2011 年に設立された「AKAGI やるき塾」では、「全山冷房中」のキャッチコピーを背中側にプリントした T シャツを販売しています。

5-9. ダイヤモンドダスト・ブロッケン

冬季は気温が氷点下 10℃ 以下となり、風が弱いときは水蒸気が水を経ないで直接凍ったダイヤモンドダストが太陽光を反射しながらヒラヒラ落下する光景や、ダイヤモンドダストに太陽光が当たって光の柱になる太陽柱が見られます。

一方、尾根上で霧の反対側から太陽光が射す場合、霧に映った自分の影の周りを虹が取り囲むブロッケンが見られます。観察できる頻度が高い場所は、黒檜山～駒ヶ岳、荒山～鍋割山の稜線です。

5-10. 気象災害

赤城山で起こった気象災害で大きなものは、1947 年 9 月に襲来したカスリーン台風がもたらした豪雨によるもので、黒檜山中腹で発生した土砂崩れで小鳥ヶ島が陸続きになりました。土砂崩れの堆積部分には、ブナやダケカンバを中心とする樹木が繁茂し、一部は駐車場として利用されています。

カスリーン台風による人的被害は、群馬県下では死者 592 人、生方不明者 107 人、負傷者 1,231 人を数えました。赤城山山麓域で被害が大きかったのは、西麓では沼尾川流域の渋川市赤城町深山～津久田地区（死者数 83 名）と、南西麓では赤城白川流域の富士見地区（死者数 104 名）でした。南麓の荒砥川では、大胡地区で大規模な土石流の発生がありました。現在、赤城山から流出する河川には、砂防用ダムが多数建設されています。

5-11. 地震災害

818（弘仁 8）年 7 月に関東一円を襲った直下型の弘仁地震（震源地は埼玉県北西部：深谷断層帯・綾瀬川断層（関東平野北西縁断層帯・元荒川断層帯）の一部が活動と推定）では、赤城山南面で大規模な土砂崩れが発生しました。また、2004 年 10 月の「平成 16 年新潟中越地震」では赤城山西麓で、2011 年 3 月の「東日本大震災」でも、赤城山山麓で建物被害が比較的多くみられました。これら赤城山山麓で被害が大きかったのは、地下に柏崎－千葉構造帯があることと、火山堆積物のため地盤が安定していないためです。

2018 年 6 月 17 日、赤城山山麓（北緯 36.4 度、東経 139.2 度）の地下 14 km を震源とする M4.6 の地震が発生し、渋川市で震度 5 弱を記録しました。屋根瓦が落ちるなどの軽微な被害があっただけでしたが、気象庁の地震記録が残る 1923（大正 12）年以降、群馬県内を震源とする震度 5 弱以上の地震は初めてでした。柏崎－千葉構造帯に含まれる活断層の大久保断層（桐生－足利間）と関連するのではないかとの説がありますが、詳細は不明です。

第6章. 赤城神社・仏閣

6-1. 赤城神社の神階・社格

平安時代に編纂された『延喜式神名帳』では、三夜沢赤城神社は上野国（かみつけのくに：群馬県の古式名）の二之宮（一之宮は富岡市の貫前神社）となっています。

赤城神社（赤城神）の神階は、839（承和 6）年 6 月の『続日本後記』では従五位下、867（貞観 9）年 6 月の『日本三大実録』では正五位下、同 12 月では正五位上、874（貞観 16）年 3 月では従四位下でした。880（元慶 4）年の『日本三大実録』では「赤城沼神」が従四位上でした。赤城神社は、『延喜式神名帳』（10 世紀）および 1028（長元元）年の『上野國交代実録帳』では正一位となっています。

1871（明治4）年5月の太政官布告により近代社格が制定されたとき、二宮・三夜沢・大洞赤城神社はいずれも郷社でしたが、その後、三夜沢赤城神社が県社に昇格しました。さらに、昭和時代に入って三夜沢赤城神社がさらなる昇格を目指して、大洞赤城神社の主祭神「赤城大明神」を「赤城大神」として祭神に加えて祀り始めました。

1944（昭和19）年、二宮・三夜沢・大洞赤城神社を併せて、国幣中社（官幣中社）に昇格内示がありましたが、戦中の混乱と戦後の社格制度の消失で実現しませんでした。内示があった名残として、国幣社だけに許される「菊の紋」が拝殿につけられています。

三夜沢赤城神社の歴史について研究した人は群馬大学の尾崎喜左雄で、また、豊城入彦命を赤城神社の祭神とする三夜沢赤城神社本社説を記す『太神宮鎮座本記』の編纂に影響のあった人物は高山彦九郎です。



赤城神社（二宮・三夜沢・大洞（元宮））と巨大古墳の位置関係

6-2. 三夜沢赤城神社（赤城神社本宮）

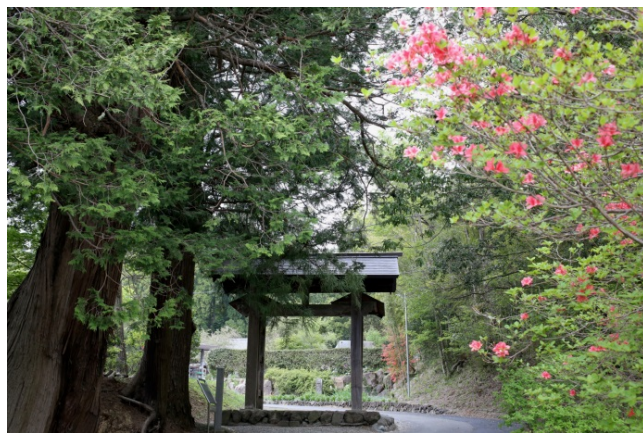
前橋市三夜沢町に鎮座し、主祭神は豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）、大己貴命（おおなむちのみこと：大国主命の若い時の名前で、大いなる大地の神の意味）で、ご神体を赤城山としています。

白木の神明型鳥居をくぐって境内に入ると、右手に湧水を集めたコイが泳ぐ神池と、その岸に神代文字の碑があります。神代文字は、日本に漢字が伝承する前に使われていたとされるハングル文字を横にしたような形の文字で、神代文字の碑は明治時代に設置されました。しかし、最近の研究では、神代文字そのものの存在は根拠がなく、否定的です。

三夜沢赤城神社の社殿は、拝殿、幣殿、本殿が縦に続く神明造様式で、中門前には、平安時代にあった平将門の乱を平定した俵藤太（藤原秀郷）が献木したと伝えられる俵杉（たわらすぎ）のスギ巨木が3本聳えています。三夜沢赤城神社の末社は、群馬県、埼玉県、栃木県、茨城県、新潟県、福島県、他の広範囲に分布し、その数は約200社（最大時は約330社）あり、農耕の氏神として信仰されてきました。

カネコ種苗ぐんまフラワーパーク付近から国道353号の三夜沢交差点を越えて三夜沢赤城神社に至る約3kmの参道は、クロマツ・アカマツとヤマツツジの並木が続き、「美しい日本の歴史的風土準100選」に選ばれています。参道途中には中門・鳥居、惣門があります。

晴れて空気が透明のときは、鳥居から南方向に約400m続く直線の参道の先には関東山地の上に頭を出した富士山が望むことができ、意識的に富士山に向けて方角を決めたことがうかがえます。荒山が浅間山と呼ばれたことがあり、かつ富士山（浅間神社）の神が降臨するとの伝説と関連する可能性があります。



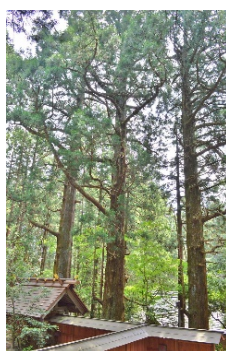
三夜沢赤城神社の参道にある惣門



三夜沢赤城神社鳥居（神明型）



三夜沢赤城神社拝殿



俵杉



三夜沢神社本殿



三夜赤城神社参道から見た富士山

2018年5月5日、剣術の新陰流を開いた戦国時代の兵法家 上泉伊勢守信綱の木像が、信綱顕彰団体から三夜沢赤城神社へ奉納されました。この像は剣を自然に下向きにした新陰流独特の「無形の位」の構えをしたもので、上泉町の住民で彫刻が趣味の大嶋輝夫氏によって制作されたものです。

なお、三夜沢赤城神社は少年時代の信綱が剣を修行した場所と伝わり、毎年5月5日に奉納武道大会が開催されます。



三夜沢神社の奉納武道大会

6-3. 櫃石

三夜沢赤城神社から北方向に約 1km 登ると、荒山から噴出した溶岩流の尾根上に、櫃石（ひついし）と呼ばれる、巨大な安山岩の自然石があります。周囲から、ヒスイ製の勾玉（日本最大）をはじめ、5 世紀後半から 6 世紀前半頃の手捏（てづくね）土器、滑石製の模造鉄剣、玉類など、古墳時代の儀式に使われた品物が多数出土しました。

櫃石は、天上の神が降臨するときに目印となり、その場で祭祀を執り行う磐座（いわくら）信仰の場所と考えられています。

赤城山南麓にある丸山、石山観音、七ツ石など、孤立丘の頂上にある巨石でも、磐座信仰と関連した祭祀遺跡の存在が想定されています。



櫃石（磐座信仰の場）

6-4. 二宮赤城神社

前橋市二之宮町に二宮赤城神社があります。この地域は、かつては名前の由来が赤城山の南とする城南村で、崇神天皇の第一皇子である豊城入彦命の末裔である上毛野氏の支配地域の中心であったと考えられています。その傍証に、西大室町には墳丘長 100m クラスの 3 基の大規模前方後円墳（築造順に、前二子古墳（6 世紀初頭）、中二子古墳（6 世紀前半）、後二子古墳（6 世紀後半））の存在があげられます。

興味深いことに、現在の二宮赤城神社の祭神は大己貴命、他多数ですが、上毛野氏の始祖である豊城入彦命が社伝に書かれていながら、主祭神として祀られていません。その理由として、三夜沢赤城神社の東宮と西宮の影響が考えられています。赤城山南麓の赤城神社の祭神は、1868(明治元)年の『群馬県神社明細帳』によると、三夜沢赤城神社からみて、南東側の赤城神社には大己貴命が、南西側の赤城神社には豊城入彦命が祀られ、赤城山の中心軸を境として東西で異なる分布をしています。二宮赤城神社には三夜沢赤城神社東宮の影響が強く及んでいたため、大己貴命が主祭神の 1 つとなり、豊城入彦命が外れたと考えられています。ただし、二宮赤城神社は赤城山または三夜沢赤城神社から見ると南南西方向にあることから、後世に移転したことが考えられます。

二宮赤城神社を里宮、三夜沢赤城神社を山宮とする関係は、毎年 4 月と 12 月の初辰日に御神幸の神事、すなわち御神体の往復が行われることからうかがえます。

境内の構造を見ると、土塁、堀で囲まれ、横矢掛かりがあるので、中世の城郭を神社の

敷地に転用した可能性があります。境内には仏教関連の塔心礎跡や梵鐘があり、神仏習合の形式も備えています。

二宮赤城神社の北東には、磐座信仰に始まり、二宮赤城神社の発祥地（三夜沢赤城神社のほぼ南方向）と考えられる産泰神社（主祭神は木花佐久夜毘売命：このはなさくやひめのみこと）が、孤立丘（流れ山）の上にあります。荒山に浅間神社の神が降臨したとの伝説があり、産泰神社との関連が想定されます。



二之宮赤城神社の鳥居



拝殿



本殿

6-5. 大洞赤城神社（赤城神社元宮）

大沼の小鳥ヶ島に鎮座し、大洞赤城神社（あるいは赤城神社元宮）の名で親しまれています。祭神は、赤城大明神、大国主命（大穴牟遲神＝大己貴命）、豊城入彦命、徳川家康、他で、拝殿には「赤城大明神」の神額が掲げられています。

大洞赤城神社は、小沼端の豊受神社（本地仏は虚空蔵菩薩）、小鳥ヶ島の巖島神社（本地仏は千手観音）、黒檜山山頂の高於神神社をはじめ、赤城山山頂域内の各峰神社を合祀して、現在に至っています。つまり、大洞赤城神社の祭神は、三夜沢赤城神社と二之宮赤城神社の祭神と共通点がありますが、根本的なルーツは異なり、後に述べるように神仏習合に由来しているといえます。なお、地藏岳山頂の六地藏石像は、明治時代初期の廃仏毀釈で、頭が切り落とされてしまいました。

小鳥ヶ島に鎮座する現在の朱塗りの社殿は、大沼南湖畔にあって約 350 年前に建てられた旧社殿が老朽化したことと、東武鉄道が旧大洞赤城神社境内近くでホテル建設を計画したため、1970（昭和 45）年に遷座され、新たに建設されたものです。湖畔から続く参道の朱色の橋は、啄木鳥（きつつき）橋です。

大洞の名前は、806（大同元）年、「神庫山（ほくらやま：地藏岳）の中腹にあった地藏尊を大沼湖畔に移して社殿を建て替えた」という『神道集』の記述に由来します。なお、平安時代の始まりは、大同年間からです。

大洞赤城神社の初代神官は猪谷（いがや）米雄で、その長男の春雄は、赤城神社のすぐ南で猪谷旅館（すでに廃止）を開業しました。旧赤城神社境内には石製の明神型鳥居が残り、猪谷旅館や青木旅館の銘を記した石柱や、空母「赤城」銘の石柱があります。旧境内の西には御神水が湧き出し、裏手の大沼湖畔には弁財天が祀られています。

前橋市富士見町小暮にある、明神型の大洞赤城神社一の鳥居（小暮一の鳥居）は、赤城山南面有料道路（赤城白樺ライン：現 県道 4 号）の開通に合わせて 1965（昭和 40）年に建て替えられたもので、高さ 21.3m あり、建設当時は日本一でした。額東に書かれた「赤

城山」は、江戸時代の書家 角田無幻の書を模したものです。現在の額束は 2 代目で、初代額束は山頂の県立赤城公園ビジターセンターに展示されています。

初代の一の鳥居は、いったん小鳥ヶ島に遷座した大洞赤城神社に移設された後、小暮の公民館敷地内（赤城神社境内）に再移設され、現存しています。



小暮一の鳥居



小暮一鳥居額束(初代)



小暮一の鳥居(初代)



旧大洞赤城神社社殿



小鳥ヶ島に鎮座する大洞赤城神社の拝殿



啄木鳥橋（大洞赤城神社の参道）

赤城山のメイン登山道の 1 つであった水沼－鳥居峠ルート（鳥居峠越え：柏山通り）の途中（桐生市黒保根町下田沢）にも、石製明神型の二の鳥居があります。その手前、県道 62 号（沼田大間々線）と県道 70 号（大間々白井線）の分岐点（桐生市黒保根町下田沢）に

は一の鳥居跡がありましたが県道拡幅で撤去され、バス停に名前が残っているだけです。

6-6. 赤城大明神

『神道集』（文和・延文年間：1352～1361年）に記述がある「赤城大明神縁起」では、信仰の対象となっていたのは、大沼（巖島神社／千手観音）、小沼・小地藏岳（豊受神社／虚空蔵菩薩）、神庫山（地藏岳：地藏菩薩）で、この3つを赤城山三明神と言ひ、赤城大明神につながっています。大洞赤城神社拝殿には「赤城大明神」の神額が掲げられています。また、『神道集』には、美濃（岐阜）出身の天台宗高僧「覚満」が赤城山山頂で法会を行ったとの記述があります。言うまでもなく、覚満淵の名前は、覚満に由来します。

法会の後、覚満は神庫山（地藏岳）山頂に留まり、覚満大菩薩になりました。そして、神庫山を覚満大菩薩、大沼は赤城姫＝赤城大明神を赤城明神、小沼は高野辺の大將家成を小沼明神とする赤城山三所明神が、日本の神（垂迹神）とされています。

これら『神道集』の記述は、赤城山における山岳信仰から天台宗に移行する過程や、大洞赤城神社における神仏習合の歴史を示しているといえます。

6-7. その他の赤城神社

●赤城神社（老神温泉）：沼田市利根町老神に鎮座し、主祭神は赤城大明神です。老神温泉には赤城山の神が大蛇に、二荒山の神が大ムカデ（赤城山の南面とは逆）に変身して戦い、傷ついた赤城山の神が湯治をして二荒山の神を追い返したという開湯伝説があります。老神には大蛇が祀られ、5月には大蛇祭が盛大に行われます。

●赤城神社（流山市）：千葉県流山市流山にあり、主祭神は大己貴命で、鎌倉時代の創建とされています。市内を流れる江戸川左岸（東岸）の平坦な土地に盛り上がった標高約13m、周囲約350mの小山の上に鎮座しています。この小山には、かつての洪水の際、赤城山山体の一部が流れてきてここに流れ着いたものという伝承があります。別説には、赤城神社のお札が流れつき、里人たちが祀ったのが当社の始まりともされています。

10月上旬の日曜日に開催される例大祭に先立つ宮薙（みやなぎ）の大しめ縄行事では、氏子たちが大きな藁製しめ縄（長さ約10m、重量約500kg）を作り、入口門に取り付けます。

●赤城神社（新宿区赤城元町）：東京都新宿区赤城元町にあり、主祭神は岩筒雄命、赤城姫命です。赤城姫命は一説によると神社を創建した大胡氏の息女と伝わり、別当寺の東覚寺の本地仏でした。

鎌倉時代の1300（正安2）年、赤城山山麓から牛込に移住した大胡彦太郎重治により、牛込早稲田の田島村に創建されたと伝わっています。1460（寛正元）年、江戸城を築城した太田道灌によって牛込台に移され、1555（弘治元）年、大胡宮内少輔により現在地に移されました。江戸時代には、江戸幕府によって江戸大社の1つとされ、明治維新までは赤城大明神や赤城明神社と呼ばれ、以後、牛込の鎮守として信仰を集めています。

6-8. 宮田の不動堂

宮田の不動堂は渋川市赤城町宮田にあり、石製不動明王立像（国重要文化財）は鎌倉時

代の 1252（建長 2）年作の凝灰岩製仏像で、利根川左岸の段丘崖をくり抜いた洞窟の中に安置されています。

御開帳は毎年、1 月 28 日の 1 回だけです。

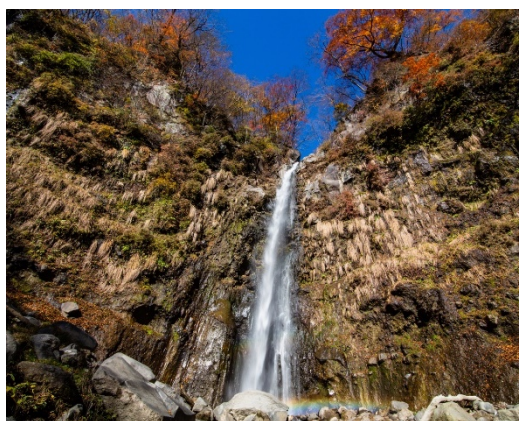
6-9 滝澤不動堂

滝澤不動堂は前橋市粕川町中之沢にあり、溶結凝灰岩の巨大な洞穴の軒下を借りて本堂が建っています。不動堂の創建は平安時代とされ、安置されている不動明王像（不動尊）は 1406（応永 13）年、上野国佐貫の庄司 藤原道広が奉斎したと伝えられています。

近くに、群馬県指定文化財名勝の滝沢の不動滝（落差 32m）や忠治の岩屋（忠治の隠れ岩屋）があります。岩屋は追っ手を逃れた忠治がしばらく隠れていたと伝えられ、その中には、国定忠治とその手下 2 人の人形が置かれていました。岩屋内は崩落の危険があるため、現在、立ち入り禁止となっています。



滝澤不動堂



滝沢の不動滝

6-10. 珊瑚寺

石井山 珊瑚寺は前橋市富士見町石井にあり、807（大同 2）年、男体山（日光二荒山）を開山した勝道上人によって開創された天台宗の古刹で、東国花の寺百ヶ寺、群馬十三番札所、上州七福神 恵比寿尊天、関東百八地蔵尊霊場三十五番札所になっています。

境内には、乳房の銀杏、赤面観音、鏡池、不動の滝、穴薬師、涙の梅、臥牛石の七不思議が伝えられています（詳細は 8 章に記述）。春は桜の名所になります。



珊瑚寺

6-11. 雲昌寺

赤城山 雲昌寺は昭和村川額（かわはけ）にある曹洞宗の禅寺で、前住職の故中村一雄氏は、竹山道雄著『ビルマの豎琴』の水島上等兵のモデルとされています。

境内には、群馬県指定天然記念物の大ケヤキ（樹高 18m、目通り幹囲 8.5m、推定樹齢 700 年）があります。

6-12. 医光寺

涌丸山 医光寺は桐生市黒保根町上田沢にある高野山真言宗の古刹で、嵯峨天皇の弘仁年間（810～824 年）に弘法大師によって開基されたとされ、上州三十三観音霊場（本尊 千手観世音菩薩）、関東九十一薬師霊場（本尊 薬師如来）の札所です。

虚空蔵菩薩像（群馬県指定重要文化財）が安置され、紺紙金泥虚空蔵菩薩経（群馬県指定重要文化財）も所蔵されています。また、地元出身で、数々の彫刻を手がけ、上州の左甚五郎と称された彫物師 関口文治郎有信が彫ったと伝わる彫刻欄間（桐生市指定重要文化財）も見事です。

虚空蔵菩薩像は 1558(永禄元)年造立の銅製で、元は虚空蔵岳（小地藏岳）山頂のお堂に安置されていましたが、明治末年、お堂の荒廃によって破損するのを恐れて医光寺に納めたといわれています。また、医光寺には、小沼に受水した赤堀道元の娘が使っていたと伝えのある帯が保存されています。

境内には、上泉伊勢守信綱に師事した武芸者で、「法神流」の剣祖の榎本法神の墓もあります。



医光寺の欄間

6-13. 養林寺

無量山 養林寺は前橋市堀越町にあり、鎌倉時代、大胡太郎実秀が浄土宗宗祖 法然上人に帰依して草庵を建てたことに始まり、1590（天正 18）年、徳川家康家臣の牧野康成が 2 万石で大胡城主となった際に菩提寺として創建されました。境内には牧野家墓地（前橋市指定史跡）があり、江戸時代初期に造られた桃山時代の特徴を残した山門があります。

なお、康成の子 牧野忠成は 1616（元和 2）年、5 万石で越後国頸城郡長峰（現 新潟県上越市）に、1618（元和 4）年に 6 万石で越後長岡（現 新潟県長岡市）に転封となり、牧野家は明治維新まで長岡藩を治めました。7 月の最終土曜日開催の「大胡城・牧野氏まつり」では、養林寺から大胡城址まで武者行列が行われます。



養林寺からの武者行列

6-14. 木曾三社神社

木曾三社神社は渋川市北橘町下箱田にあり、主祭神は須佐之男尊、彦火火出見尊、豊田

姫尊、宇気母智神です。旧県社で、滝の宮、木曾明神とも称され、全国的に珍しい下り参道の神社です。

案内板には、1184（元暦元）年、木曾義仲が近江国 栗津（現 滋賀県栗津町）で源義経に討たれた後、その遺臣であった今井、高梨、町田、小野沢萩原、串渕、諸田氏等が、義仲が崇敬した信濃国（長野県）の延喜式内社である筑摩郡の三座「岡田、沙田、阿礼神社」をこの地に勧請して創建したと記されています。その後は、関東管領上杉氏や白井城主長尾氏、歴代の前橋城主の崇敬が厚く、神田の寄進や社殿の修復等が行われました。

境内にある「涌玉」は、赤城山の伏流水が1日1万トン以上湧き出ています。湧玉の名前は、水と一緒に気泡がでてくることによります。



木曾三社神社

6-15. 貴船神社

貴船（きぶね）神社は、みどり市大間々町塩原の渡良瀬川左岸の断崖上に鎮座し、20万人もの初詣参拝者が訪れ、その数は群馬県内一です。境内から赤城山の勇姿を仰ぎ見ることができます。主祭神は、高麗（たかお）大神、大山祇（おおやまねず）大神、大穴牟遲（おおなむち）大神で、956（天暦10）年、関東地方が早魃に襲われた際、山城国（現 京都市左京区）の貴船神社から神霊を勧請し、降雨と五穀豊穰を祈願して祀ったのが創まりとされています。1668（寛文8）年、渡良瀬川上流の山地にあった社を、大間々扇状地の扇頂の現在地に遷座したとされ、早魃から守る水神として、篤く信仰されてきました。

現在の本殿、幣殿、拝殿は1971（昭和46）年に造替されたもので、境内社に天狗の宮（大天狗、烏天狗を祀る）、赤城神社などがあります。

第7章．赤城山麓の遺跡・城跡

群馬県（上野国）には、旧石器時代から人々が住み着き、多くの遺跡が残されています。

平安時代末期には平将門や藤原秀郷の流れをくむ多くの武将（東国武士団）が群雄割拠し、鎌倉時代～戦国時代は相模・北条氏、甲斐・武田氏、越後・長尾（上杉）氏、新田氏・由良氏・横瀬氏、信州・真田氏らの領地争いの場所となりました。そのため、防御に最適な赤城山の孤立丘上や河川による段丘崖周辺には、多くの城や砦が築かれました。

7-1. 旧石器（無土器）時代

考古学を趣味とする青年の相澤忠洋が1946年、みどり市笠懸町阿左美のローム層内で旧石器（最初の発見は、石器製造時にでる破片）を発見したことから、我が国でも旧石器（無土器）文化の存在が証明されました。発見場所は国指定の岩宿遺跡として整備保存され、岩宿博物館（みどり市笠懸町阿左美）が設置されています。また、桐生市新里町奥沢には相澤忠洋の記念館があり、旧石器として初めて発見された黒曜石製の槍先形尖頭器をはじめ、赤城山麓の赤土に賭けた執念によって発見された21か所の遺跡から出土した多数の石器のうちから選ばれた約300点の石器や、縄文早期の土器片、自筆原稿、共同研究者の芹沢長介との往復書簡、遺跡の復元図、パネル図版、写真、表彰関係品、書籍、カメラを始め愛用の遺品等が展示されています。館内では岩波映画社作製の「太古への夢、岩宿遺跡」をVTRにて放映しています。

赤城山南麓では、不二山遺跡（桐生市新里町新川）、権現山遺跡（伊勢崎市豊城町）、桐原遺跡（みどり市大間々町桐原）、岩宿遺跡（みどり市笠懸町阿左美）、下触遺跡（伊勢崎市下触町）など、前期旧石器時代の石器や遺跡が発見されています。これらの遺跡から出土する石器は多くがナイフ型で、約1.5万年前に製作が終了しました。

これ以降の旧石器時代の石器は、細石刃（長さ2～3cm、幅3mm程度）を並べて骨や木に埋め込み、組み立て式の槍を作るものが主流になりました。細石器の出土を主とする代表的な遺跡は、①群（鳥取福蔵寺II遺跡：前橋市鳥取町、荒子頭無遺跡：前橋市荒子町）、②群（枅形遺跡：前橋市苗ヶ島町、柏倉芳見沢遺跡：前橋市柏倉町）、③群（市之関前田遺跡：前橋市市之関町）に分類され、①群と②群は北方系、③群は南方系で、赤城山付近が2つの文化圏の接点であったことを示しています。

7-2. 縄文時代

●**縄文前期**：約8,000年前の縄文時代早期の遺跡が、標高550mの大畑遺跡（前橋市苗ヶ島町）から標高100mの荒子頭無遺跡（前橋市荒子町）にかけての広い範囲に分布し、住居跡とともに動物を捕まえる落とし穴が多数みつかっています。穴はシカ猟用の狭い溝状のTピットと、イノシシ猟用の小判型があります。縄文人は動物の習性を利用して、捕獲用の穴を造っていました。

荒子頭無遺跡と隣接する柳久保遺跡（前橋市荒子町）では、縄文早期中葉～後半の石斧が配置された遺構が発見され、石斧は赤城山に向けられていました。この頃にはすでに、赤城山に対する畏敬の念があったことを裏付けています。

●縄文中期：鼻毛石中山遺跡（前橋市鼻毛石町）や五代伊勢宮遺跡（前橋市五代町）、渋川市の房谷戸遺跡（渋川市北橋町下箱田）や道訓前遺跡（渋川市北橋町上箱田）などでは縄文中期の住居跡が調査され、出土土器、石器の石材から東北、北陸、南関東、中部地方との交流が確認されています。

滝澤石器時代遺跡（渋川市赤城町滝澤）では、1926（大正15）年に、住居跡や配石遺構が発見され、数多くの縄文土器や石匙（いしさじ）、石錐、石皿などの石器の他、長さ110cm、重さ60kgの石棒が出土し、これらは赤城歴史資料館（渋川市赤城町勝保沢）に展示されています。滝澤石器時代遺跡の発掘では、岩澤正作が中心メンバーに名を連ねています。ここには、赤城山の湧水（涌玉）があり、渋川市の水道用水に利用されています。

7-3. 古墳時代

古墳時代になると、5～6世紀にかけて、赤城山南麓では最大で5世紀中頃に築造されたお富士山古墳（全長125mの前方後円墳で、長持型石棺が出土：伊勢崎市安堀町）や、大室古墳群（前橋市西大室町・東大室町）など多くの大型古墳が造られました。なかでも、6世紀初頭から後半に築造された大室古墳群は3基の大型前方後円墳（前二子古墳：94m、中二子古墳：111m、後二子古墳：85m）と、数基の小型前方後円墳、帆立貝式前方後円墳、円墳からなり、上毛野氏との関連が想定されています。中二子古墳が最大なので、上毛野氏の最大勢力は6世紀中頃と推定されています。

前二子古墳の東約300mの日本キャンパック大室公園内には、被葬者の居住館跡と推定される梅木遺跡（一辺85m）が存在します。

大室古墳群の東、多田山丘陵上にある赤堀茶臼山古墳（全長59mの帆立貝式前方後円墳：伊勢崎市赤堀今井町）は、5世紀中頃の築造と考えられ、1929（昭和4）年の発掘調査で出土した家形埴輪8棟は、古墳時代の豪族の建物や埴輪祭祀を知る上で重要な資料となっています。



大室古墳群案内図



前二子古墳

7-4. 宇通遺跡

前橋市粕川町中之沢のサンデンフォレスト入口で国道353号から分かれて大猿川沿いを登った標高約650mの場所には、広さ約4.5haの範囲にわたって12棟分の建物礎石跡や50

棟を超える竪穴住居跡があり、この大規模な伽藍配置を持つ寺院跡は宇通（うつう）遺跡と呼ばれています。創建は平安時代で、10～11世紀にかけて順次建物が建設され、12世紀に廃絶された山岳仏教寺院と考えられています。

宇通遺跡が発見されるきっかけとなったのは1965(昭和40)年にこの地域であった山火事で、その後始末のとき、礎石が発見されたことによります。群馬大学の尾崎教授による発掘調査では、寺院は火災で焼け落ちたことが示唆され、吾妻鑑（鏡）の建長3(1251)年4月26日の条に、「上野国の赤木嶽焼、…兵革の兆あり」とあることから、この宇通遺跡の火災を物語っているという考えが一時期主流を占めていました。

しかし、すでに述べたように、赤木嶽焼は噴火を記述したものであり、さらに、その後の調査によって寺院の火災については否定的となり、鍛冶場の跡を火災跡と誤認した可能性を指摘する意見が確定的となっています。この地域では、中世に「たたら製鉄」が行われていたことが、玉鋼の出土から確認されています。宇通遺跡は三夜沢赤城神社の旧地とされる元三夜沢としても注目されています。

宇通遺跡は前橋市重要文化財に指定され、発掘調査で得られた資料の一部は、粕川歴史民俗資料館（前橋市粕川町膳）で展示されています。しかし、宇通遺跡についてはまだ認知度が低いため、詳細の調査とともに、県や市による広報活動にも期待したいものです。

7-5. 城跡

●**長井坂城（昭和村川額・渋川市赤城町棚下）**：西側は利根川の断崖、北側は永井川が造る深い谷の自然地形を利用し、東側は二の丸、三の丸が取り囲むように築かれた囲郭式の崖端城です。1560（永禄3年）、上杉憲政を奉じて関東へ攻め入った長尾景虎が陣を敷いたことに始まると伝わっています。近くには津久田城跡があります。

長井坂城は長尾氏（北条方）の居城する白井城の支城の1で、同勢力の最北端にあたります。現在の遺構は、北条氏の真田領への侵攻が激しくなった1582（天正10）年頃、北条氏による沼田攻略の前線基地として整備され、永井川を挟んで対峙する真田氏（武田方）との間で争奪が繰り返されました。北条氏は沼田城を攻撃するため、利根川西（右）岸は中山城、利根川東（左）岸は長井坂城、赤城山東麓は根利道を経由して深沢城（後述）を利用しました。

1590（天正18）年、真田氏持ち分の名胡桃城（みなかみ町下津）を、沼田城を本拠とする北条方が攻撃したことをきっかけに、豊臣秀吉の攻撃を受けた北条氏は小田原城の落城とともに滅亡し、長井坂城も廃城になりました。

関越自動車の建設にあたり長井坂城跡を保存するため、当初は切通しにする計画であったのが、トンネルに変更されました。

●**白井城（渋川市白井）**：利根川と吾妻川の合流点に北から突き出した台地の先端に築かれ、自然の要害を利用した、東西830m、南北1,050mの梯郭式平城です。「しらいじょう」と呼ばれることがありますが、地元では「しろいじょう」と呼んでいます。

1430～1450年の間に、長尾景仲（員賢）により本格的に築城され、景信・景春・政景と受け継がれました。長尾氏は、滝川氏（織田方）、北条氏などの配下となりましたが、1590（天正18）年、豊臣秀吉の小田原攻めの際、前田利家に攻略されて滅亡しました。

その後を徳川家康の譜代・本多広孝・康重父子が2万石で封ぜられ、康重の三河・岡崎移封後、松平康長・井伊直孝・西尾忠永・本多紀貞と続き、1624（寛永元）年、紀貞の死去とともに廃城となりました。

●**箱田城（渋川市北橋町下箱田）**：赤城山の孤立丘（流れ山）の1つである箱田山の丘上にある平山城で、西側は利根川の断崖、北側と南側は小河川による谷で守られています。築城年は不明ですが、白井城の支城として、箱田地衆（木曾義仲の旧臣を称する半農半士）が守っていたとされています。長尾氏の滅亡（1590年）とともに、廃城になりました。

箱田城跡は現在、温泉施設「たちばなの郷」となっています。天守閣風の宿泊施設がありますが、当時はこのような天守閣は造られていませんでした。近くに、木曾三社神社、真壁城（単郭式）、八崎城（梯郭式の崖端城）があります。

●**前橋城（前橋市大手町1丁目）**：厩橋（まやばし、うまやばし）城とも呼ばれていました。1534（天文3）年、利根川右岸にあった石倉城が利根川の氾濫によって崩れ去り、城主の長野賢忠によって残った三の丸を中心に、利根川左岸に築城した平城が始まりといわれています。

1560（永禄3）、上杉政虎（謙信）が越後から進出し、関東管領の権限で厩橋城を関東進出の足掛かりとしました。1582（天正10）年、織田信長によって武田氏が滅亡すると関東管領に任ぜられた滝川一益が入城しましたが、本能寺の変で信長が倒れた直後にあった神流川の戦いで北条氏直に破れ、北条氏の支配下に置かれました。

1590（天正18）年の豊臣秀吉の攻撃で北条氏が滅んだ「小田原の役」の後、3.3万石で平岩親吉が、関ヶ原の戦い後の1601（慶長6）年に酒井重忠が15万石で入城しました。1749（寛延2）年、酒井忠恭が播磨国姫路に転封となり、替わって松平朝矩が入封しましたが、1768（明和5）年、利根川の浸食によって三層の天守閣を持つ本丸が崩れ落ちてしまったため前橋城は廃城となり、松平氏は川越城に移ってしまいました。

1863（文久3）年、下村善太郎などの前橋生糸商人達の出資で前橋城が再築され、1867（慶応3）年に松平直克が入封しましたが、わずか1年で明治に至りました。再築された前橋城は土塁上に砲台が多数置かれ、要塞城郭の形態をしていました。

前橋城本丸は群馬県庁の敷地で、現在でも高土塁が残されています。本丸を取り巻くように二の丸、その外側に三の丸と続き、一部は前橋公園、市役所、群馬会館、裁判所、検察庁などとして利用されています。空堀跡には遊園地（ルナパーク）や臨江閣（1885（明治17）年に、初代群馬県令 楫取素彦（かとり もとひこ）や前橋市内の有志らの協力と募金により建築された近代和風建築の迎賓施設。本館、別館、茶室は国重要文化財指定）があります。

●**上泉城（前橋市上泉町）**：南側を桃木川（かつての利根川の流域）の河岸段丘崖で、東側・西側を小河川の谷で守られている、囲郭式の平城です。城域は、東西600m、南北400mに達し、県指定の「郷蔵」付近に、本丸と二の丸の跡が残っています。西林寺付近は一の郭、玉泉寺付近は出丸跡と推定されています。

大胡城の支城として築かれ、一族の上泉氏が在城していました。剣術「新陰流」の祖で、日本剣道史上の最高峰として、また剣聖として剣道史に名を残した上泉伊勢守信綱は1508（永正5）年、上泉城で誕生し、居城していたと伝えられています。

本丸跡にある「郷蔵」は、江戸寛政期（1789～1801 年）に非常時の食料備蓄を目的に建立された建物です。

●大胡城（前橋市河原浜町）：赤城山の孤立丘上に築かれた、南北 670m、東西最大幅 310m の規模を持つ並郭式の平山城です。城郭は本丸を中心に二の丸を囲部的に配し、北に北城（越中屋敷）、近戸曲輪、南に三、四ノ曲輪があり、東側は荒砥川が流れ、その間に根小屋、西には西曲輪の平坦部が附加され、枡形門、水ノ手門虎口、空濠、土塁等の跡が良好に残っています。

中世における上野国の名族である大胡氏の本拠地でしたが、1590（天正 18）年、徳川家康の関東入部により牧野氏が大胡領 2 万石に封ぜられ、康成、忠成二代の居城となりました。牧野氏が 1616（元和 2）年に越後国頸城郡長峰（上越市）へ転封した後は前橋藩領となり、酒井氏時代には城代が置かれました。1749（寛延 2）年、酒井氏の姫路転封に際し、廃城となりました。

牧野氏にちなんで、7 月の最終土・日曜日に、「大胡城・牧野氏まつり」と「大胡祇園まつり・暴れ獅子」が開催されます。大胡城・牧野氏まつりでは、牧野康成公の功績を称えるとともに、演武、武者行列、牧野氏にゆかりの歴史観光ガイド、歴史講演などが行われます。



大胡城・牧野氏まつり

●大室城（前橋市西大室町）：神沢川と東神沢川の合流地点にある囲郭式の平城で、現在の大室神社が本丸跡で、その東が二の丸跡で、当時の濠も残されています。付近には、城の名残をとどめる北曲輪、南曲輪などの地名が残っています。

大室城は、12 世紀中頃まで大室氏の居城で、当初は北西 500m の本城と呼ばれる地区にあったものを、白井城の長尾氏に属した牧弾正の時代に現在地に移ったと考えられています。その後は、戦国武将が交代して城主となり、酒井氏が前橋城主になると、家臣であった石川氏がこの城を守りました。酒井氏の姫路転封に伴い、大室城の管理は最善寺に委任されました。

付近には毒島（ぶすじま）城跡など見所のある城が点在し、東には古墳群で有名な日本キャンパック大室公園があります。

●膳城（前橋市粕川町膳）：西・南側を兎川に面し、東側を兎川支流の童子川に面する棚状丘陵地に造られた紡錘形の並郭式平山城で、城域は東西 250m、南北 500m に広がって

います。本丸や堀、土塁はかなり良好に残されています。

三善康信の子孫である善氏（後に改称して膳氏）の居城でしたが、幾多の歴史を経て、1578（天正 6）年には北条氏に属し、河田備前守が城主、大胡民部左衛門が城代となりました。1580（天正 8）年、平服の武田勝頼が率いる武田軍が膳城付近を通過した際、城内では酒宴が行われている最中で、武田軍を見た一部城兵が激昂して攻撃したため、武田勝頼軍の反撃を受けて膳城は落城してしまいました。これを「膳城素肌攻め」と言い、この戦による落城後、廃城となりました。北郭跡には粕川歴史民族資料館があります。

●女淵城（前橋市粕川町女淵）：並郭式の縄張りを持つ平城で、北から北曲輪、本丸、二の丸、三の丸、竜光寺曲輪が並び、土橋を渡って西側に西曲輪が設けられています。この城の大きな特徴は、周囲が沼沢地であったことから、赤城山南面では珍しい最大幅 90m にもなる水濠によって囲まれた水城である点です。

天文年間（1532～1555 年）に築かれたとされますが、築城者は明確ではありません。1561（永禄 4）年、上杉謙信が女淵城を占領して長尾景長に与え、景長の家臣新居長重が城代となりました。その後、矢場城主 横瀬繁勝の持城となり沼田景義が城主となっていました。1574（天正 2）年、再び上杉謙信によって攻略されました。1582（天正 10）年、武田勝頼滅亡後、武田氏の属城となっていた女淵城は北条氏の支配下となり、北爪氏が守将となりました。1590（天正 18）年、豊臣秀吉による小田原の役の際に秀吉の軍勢に攻められ、小田原城落城とともに落城し、廃城となりました。

●山上城（桐生市新里町山上）：赤城山南麓の低い舌状丘陵に築かれた平山城で、平端丘陵地の館の防御を強化して、城郭に移行するようになった初期タイプのものと考えられています。北から笹郭、北郭、本丸、二の丸・三の丸、南郭の順に一直線に並び、周囲に腰郭・帯郭を配し、西に空堀を隔てて帯郭が付く並郭構造で、川や谷などの自然を要害とした平丘城です。空堀は南北方向に長さ 400m あり、北から南に標高が減じる赤城山南麓の地形を利用した、傾斜地に築造される城郭の特徴を踏襲しています。

山上城は藤原秀郷の子孫 山上五郎高綱によって築城され、その後は北条氏、上杉氏、由良氏の持ち城と、転々と変わりました。1582（天正 8）年、上杉謙信の死後、北条氏邦が山上城を攻めましたが、攻略したか否かは不明です。戦国時代末期に武田勝頼に攻められた後、廃城となりました。

●赤堀城（伊勢崎市赤堀今井町）：粕川と鐺木川に挟まれた自然地形を利用した平城で、方形の主郭を中心に二の郭が主郭の三方を囲み、さらに主郭の北側と南側にも曲輪を配した、赤城山南麓に特徴的な囲郭式と並郭式を併せ持っています。

赤堀氏は足利教綱を祖とする善（膳）氏の子孫で、戦国期は赤堀親綱の時に新田金山城を本拠とする横瀬氏の配下となり、その子 景秀まで赤堀城に在城しました。その後、赤堀城は北条氏の配下に入り、家臣 小菅氏が赤堀城に入城しましたが、豊臣秀吉の小田原征討で北条氏の滅亡とともに廃城となりました。

●天幕城（伊勢崎市磯町）：南北 400m、東西 120m の規模をもつ自然地形を利用した平山城で、西側は蕨沢川が流れ、北と東側は蕨沢川の旧河道の低地で城外と隔てられています。本丸の北・西面には高さ約 4m の土塁を残し、本丸の周囲には腰曲輪、水の手曲輪、堀切り、矢払いなどの構造が見られます。

天幕城は那波氏、桐生氏の持ち城となり、由良氏に攻略されるなど、戦国時代の動乱期を経て1590（天正18）年、後（小田原）北条氏滅亡とともに廃城となりました。

天幕城の外堀を利用した「天幕城趾」あかぼり蓮園は、中国蓮（日中平和友好大使蓮）を植え付け、2004年6月開園した花の名所で、毎年7月中旬には「あかぼり蓮園まつり」が開催されます。近くに、あかぼり小菊の里や桐生市新里温水プール カリビアンビーチ（桐生市新里町野）があります。

●**桐生城（桐生市梅田町城山）**：赤城山からは大分離れていますが、桐生市街地の北約5kmにあり、桐生川上流に添った形で聳える城山頂上に築かれた山城で、先端の山頂部に1郭を置き、その北側に2郭、さらにそこから北東に派生する尾根に4または5郭を置く構成となっています。柄杓山城とも呼ばれています。

1350（南朝 正平5、北朝 貞和6）年、桐生国綱によって築かれたとされます。1572（元亀3）年、太田金山城の由良成繁が柄杓山（桐生）城を攻め、桐生親綱は下野 佐野に逃走しました。その後、由良成繁は新田金山城を子に譲り、本拠を桐生城に移しました。1590（天正18）年、北条氏の滅亡により由良氏は牛久（現 茨城県牛久市）に領地代えとなり、廃城となりました。

●**深沢城（桐生市黒保根町宿廻）**：渡良瀬川右岸の河岸段丘の台地縁にあり、神梅（かんばい）城とも呼ばれています。本丸と、堀を隔てて東側に2郭を持つ囲郭式の平山城で、この2郭の前面下には腰曲輪があります。

永禄年間（1558～1570年）に、平安時代から同地を支配していた黒川郷士の阿久沢氏によって築かれたとされます。1566（永禄9）年、武田軍が西上野に進出したため、上杉家は厩橋（まやばし：前橋）と越後間の往来に支障が生じ、「根利道」を利用せざるを得なくなりました。その際、根利道に精通し、權益を握っていた阿久沢氏の協力が必要でした。

阿久沢氏は北条氏に通じていたため、豊臣秀吉により北条氏が滅ぼされると帰農して家名を保ち続けました。その後、城地に天台宗・正円寺が築かれ、阿久沢氏代々の菩提寺となりました。

●**沼田城（沼田市倉内）**：利根川と薄根川の合流点、河岸段丘の台地上に築かれた崖端城（北側と西側の崖の標高差は約70m）で、梯郭式の城域は東西800m、南北750mに及びます。「加沢記」によると桓武平氏の子孫の沼田景泰による築造としていますが、沼田顕泰が1530（文禄3）年から1532（天文元）年の間に築城したとも言われています。

戦国時代は、北条方、上杉方、武田（真田）方、織田方、真田方へと支配が変遷しました。1589（天正17）年、利根川を境に、東の沼田城は北条氏のもの、西の名胡桃城（1590（天正18年）廃城）は真田氏のものと決定されましたが、沼田城主の北条氏家臣 猪俣邦憲が約束を破って名胡桃城を奪ったことから秀吉の怒りをかい、1590（天正18）年の小田原の役による北条氏滅亡の原因になりました。

1590（天正18）1590年、徳川家康が関東に入部した際、秀吉の申し入れがあり、沼田城は真田昌幸に返され、長男 信幸が城主となりました。1600（慶長5）年の関ヶ原の天下分け目の戦では、真田昌幸と次男 信繁（幸村）は西軍に、長男 信幸は東軍に分かれ、それに関連する「犬伏の別れ」と小松姫の逸話は有名です。

昌幸が没落した後、上田・沼田などの真田氏領は信之（信幸から改名）が継承し、沼田

城主は信之の長男信吉、熊之助（信吉長男）、信政（信吉の弟）、信利（信吉次男）と続きました。しかし、1681（天和元）年、信利の代に暴政と両国橋架け替えの用材調達の遅延を理由に改易され、沼田藩は廃藩になり、天領となりました。その後、江戸幕府の命により、五層の天守閣を持った沼田城は破壊され、堀も埋められました。

20 年余の天領の時代を経て、1703（元禄 16）年に本田正永が 2 万石で入封し、沼田藩が再興されました。以降、本田氏（3 代）、黒田氏（2 代）、土岐氏（12 代）で明治の廃藩置県に至りました。

現在、本丸北側の西櫓台の石垣と石段本丸跡が当時の名残が残っているだけで、本丸跡には鐘楼が建設され、真田信吉が鑄造させた鐘は時鐘（ときのかね）として親しまれています。本丸跡と二の丸跡は沼田公園として利用され、また、沼田小学校や沼田女子高等学校の敷地も、沼田城の一部を利用しています。また、敷地内には、国指定重要文化財である旧生方家住宅や国登録有形文化財である旧土岐邸洋館が移築され、見学（有料）できます。

2017 年、（公益財団法人）日本城郭協会により、沼田城は「続日本 100 名城（116 番）」に選定され、近辺では、名胡桃城（みなかみ町下津：115 番）、岩櫃城（東吾妻町原町：117 番）も同時選定されました。これらの城は、選定基準である（1）優れた文化財・史跡であること、（2）著名な歴史の舞台であること、（3）時代・地域の代表であることの 3 点を満たしています。

第 8 章．赤城山をめぐる伝説

8-1. 赤城山の神と二荒山（日光男体山）の神の争い

赤城山と日光二荒山（男体山）の神が土地や水をめぐって争ったとの伝説は、群馬県内、栃木県内に数多くあり、遠くは福島県会津地方にもあって、いくつかのバリエーションがあります。これらの伝説は、古墳時代に毛野国が上毛野国（群馬県）と下毛野国（栃木県）に分割されたときに争いがあり、伝説となって語り継がれていると考えられます。

●**戦場**：争いの場所はいくつか伝えられていますが、日光 戦場ヶ原で戦い、勝負がついた場所が中禅寺湖畔の菖蒲ヶ浜、戦で血を流した場所が赤沼、二荒山の神が勝利を祝った場所が歌ヶ浜という伝説があります。

●**勝敗**：赤城山の神が勝ち、二荒山の神が流した血で山が赤くなった（桐生市新里町）、逃げるときに目を傷めて細くなった（片品村）という地元びいきの伝説を除くと、二荒山の神が勝って、赤城山の神が流した血で赤城山が赤くなったとの伝説が優勢です。

争いの原因は、土地争い、水の奪い合いが多くみられます。それには、赤城山山麓が火山地帯のため慢性的な水不足であり、かつ古墳時代に毛野国が上毛野国と下毛野国に分割されたことが関係しているようです。

土地争いの伝説では、鹿島の神の仲立ちで弓の名人であった岩代国（現 福島県）の小野猿麻呂（猿丸）が二荒山の神を加勢したとあり、下毛野国と常陸国（現在の茨城県）との協力関係がうかがえます。両国は、毛野川（鬼怒川：江戸時代初期に利根川本流へと流路切替え）で結ばれていました。

面白いことに、明治時代末に道府県数を減らして 28 にする案があり、その案では群馬県、栃木県の全域と茨城県の一部を 1 つにして宇都宮県の名前にすることになっていました。古墳時代の毛野国とそれに関連した常陸国の合併ということになります。

毎年 1 月 4 日には、中禅寺湖畔の二荒山神社中宮境内で、赤城山に向かって矢を射る武射祭が行われます。

●**化身**：赤城山の神の化身は大ムカデ、二荒山の神の化身は大蛇とされている場合が多くみられます。桐生市新里町板橋には、赤城山へ登る東南麓の参道入口として、1782（天明 2）年に建てられた安山岩製の赤城の百足（ムカデ）鳥居（高さ 4.4m、笠木長 6.25m）があり、鳥居の島木には長さ 1.3m の百足が陽刻されています。

一方、赤城山北麓の沼田市利根町の老神温泉では、赤城の神を大蛇としています。老神温泉は、赤城の神が戦で負った傷を癒し、年老いるまで滞在したことに由来するといわれ、近くには二荒山の神を追い返した「追貝（おっかい）」の地名があります。この伝説にちなんで、老神温泉では毎年 5 月の第 2 金・土曜日に、老神温泉大蛇祭が開かれます。2013 年（巳年）の祭りでは、全長 108m、重量約 2 トンの大蛇みこしが登場し、ギネス世界記録に認定されました。ギネスブックの記録名は『最も長い祭り用の蛇』(Longest festival snake)です。

この大蛇みこしは、12 年ごとの巳年に、数百人の担ぎ手とともに登場することになっています。通年の大蛇祭では、長さ 18m の子ども大蛇みこしと、22m の若衆大蛇みこしが温泉街を練り歩きます。二荒山神社中宮の武射祭に対抗して、2014 年の大蛇祭から、祭りの

2 日目に、日光に向けて鐙（かぶら）矢を射る、魔障退散の儀式「墓目（ひきめ）の儀」が行われます。2018 年は都合により中止されましたが、2019 年は実施されました。



日光二荒山神社（中宮）の武射祭



老神温泉の大蛇みこし

8-2. 淵名姫と赤城姫

南北朝時代に編纂された『神道集』の記述によれば、高野辺大将家成には 3 人娘（淵名姫、赤城姫、伊香保姫）と 1 人の息子がいました。大将は後妻を信濃国から迎えましたが、その後妻は自分の弟の更科次郎兼光をそそのかして長女の淵名姫を殺害しました。次女の赤城姫は赤城山に逃げ込んで赤城大明神となり、末の伊香保姫は伊香保太夫の居城に護られました。都で出世していた家成の息子は、軍勢を率いて上野国に戻って兼光を殺し、継母らを捕らえて、信濃国へ追放しました。追放された継母は、姨捨山に捨てられました。

平安時代の荘園 淵名荘は、佐位荘（伊勢崎市東部）の北側、早川右岸にあり、早川を農業用水に利用していました。淵名姫・赤城姫の伝説は、早川の水争いと関係すると考えられます。あるいは、かつての出雲系（長野県諏訪）の神から天照系（三重県伊勢）の神への信仰を強めるため、古代における毛野国の歴史的変遷をルーツにした逸話との説もあります。

8-3. 赤堀道元の娘

佐波郡赤堀村（伊勢崎市と合併した旧赤堀地区）の長者 赤堀道元には 1 人の娘がいましたが、16 歳になったとき赤城山に登り、小沼に入水して竜になりました。娘はもともと、小沼の主だったのです。お供の腰元はカニとなって小沼に住み着いて竜となった娘を探しており、腰元ガニと呼ばれています。登山道中、休息のために立ち寄った月田（前橋市月田町）の近戸神社境内の石に、乗っていた馬の鞍を掛けました。これが「鞍掛石」です。

桐生市黒保根町の医光寺には、赤堀道元の娘が、沼に入水する前に置いていったとの伝えのある「道元娘の帯」が保管されています。

小沼を源流とする粕川が、麓の農業用の水源として大切だったことを示す伝説といえます。

8-4. 巨人・鬼・天狗・ダイダラボッチ

●**巨人**：桐生市相生町には、巨人がやって来て、赤城山に腰を掛けて一休みし、大きな足跡を残したという伝説があります。両足の間の地は足仲（あしなか）団地（現在は相生町二丁目）として名前が残っています。この巨人は、雷雲と関連づけた伝説といえます。

●**赤城のへっぷり鬼**：力の強い赤鬼と青鬼 2 匹が、互いに自分の力を自慢していて、毎年、晩秋になると相撲の勝負をしていました。ある年は、いつになく山芋がたくさん採れたので、鬼たちはたらふく山芋を食べて力をつけ、いつもの通り勝負に挑みました。いざ相撲が始まって力を入れたところおならを吹き出し、その反動で 2 匹とも空高く舞い上がってしまい、赤鬼は尻から落ちて大沼を、青鬼は頭から落ちて小沼を造りました。2 匹の鬼の勝負は今でも続いている、大きなおならを吹き鳴らしているそうです。それが「赤城の空っ風」です。

●**大天狗・杉の坊**：赤城山には多くの天狗がいて、それを取り仕切るのは杉の坊という大天狗だったそうです。上野国の歴史を書き記した『前上野国史』には、「飛鳥社（天狗を祀る社）」との記載があります。

杉の坊は、弘法大師（空海）が赤城山で霊場を開くため百谷を探しているのを妨害したとの伝説があり、山岳仏教の修験道者が真言密教の布教を快く思わなかったと考えられます。

また、手下の天狗とともに、和歌山県由良町の興国寺（旧名 法燈寺）を一晩で再建したそうです。赤城山が修験道場で、各地から人々が集まったことを示す伝説といえます。

●**ダイダラボッチ**：ダイダラボッチは『常陸風土記』に登場する、山を造るのが大好きで、やや飽きっぽく、癪しゃくを起こしやすい性格の大男で、赤城山に腰を掛けたり、利根川で足を洗ったりしたそうです。キセルを叩いた灰が丸山（太田市丸山町）で、太田市吉沢町にあった池（現在は埋め立てられて消失）が足跡だそうです。

ダイダラボッチは、西国では酒造りやたたら製鉄と関連づけられています。

8-5. 洪水

利根川は、上越国境の大水上山（1,834m）直下の三角雪田を水源とし、群馬県のほとんどの水を集めて関東平野を流れて千葉県銚子市・茨城県神栖市で太平洋に注ぐ、全長 322km（信濃川に次いで日本第 2 位）、流域面積 16,840 km²（日本第 1 位）の大河です。

江戸時代以前は、現在の江戸川が利根川本流で、江戸（東京）湾に流れ込んでいました。現在の利根川の流路は、江戸の洪水防止と水運改善のため、関宿（現 千葉県野田市関宿）で鬼怒川の流路を利用し千葉県銚子市・茨城県神栖市で太平洋に流入するよう付け替えられたものです。

大河である利根川下流は洪水の被害が頻繁に発生しやすいことから、洪水と上流にある赤城山とを関連づける伝説があります。

●**おおみ堂の釣り鐘**：渋川市赤城町溝呂木（みぞろぎ）にあるおおみ堂の「みぞろヶ池」には主の大蛇がいました。大きくなったので赤城山小沼に移りました。そのとき、嵐が起こって水が溢れておおみ堂の鐘も流されてしまい、筑波山麓に流れ着きました。今もこの鐘を突くと、「溝呂木恋しやゴーン」と鳴るそうです。

●**流山**：千葉県流山市には、江戸川（かつての利根川）が流れています。約 750 年前の

洪水のとき、赤城山が崩れて流れ着き、小山が突如姿を現したという伝説があります。これが「流山」の地名の由来の1つで、江戸川左岸に標高約13m、周囲約350mの、お椀を伏せたような台地上に赤城神社があります。

流山は、大洪水で台地が浸食され、一部が取り残されて小山ができたと考えるのが妥当のようです。

8-6. 俵杉と俵藤太

俵藤太(藤原秀郷)は弓矢の名手で、大ムカデを退治して琵琶湖の龍神を助け、東国で兵をあげて一時期、常陸・下野・上野国府を占拠した「平将門の乱」を鎮圧し、神仏への崇敬篤い英雄として描かれています。三夜沢赤城神社境内の俵杉は、平将門の乱を平定するために上野国に来た俵藤太が献木したものと伝えられています。

鎌倉時代の東国武士団は「秀郷流」と称し、その中でも三夜沢赤城神社への信仰が篤かったのが大胡氏で、実際に俵杉を植えたのも大胡氏だったことが有力です。



三夜沢赤城神社境内の俵杉

8-7. 赤城神社の社格について

平安時代に編纂された『延喜式神名帳』では、赤城神社は貫前(ぬきさき)神社(富岡市一ノ宮)に次いで上野国二之宮で、その社格について以下のような伝説があります。

赤城神社は初めのうちは上毛野国一之宮でしたが赤城神が機織りをしたとき、「くだ」(絹糸)が足りなくなってしまう、貫前神に借りてようやく織り上げることができました。それに感謝して、貫前神社に一之宮を譲りました。また、財力に富んだ貫前の女神を他国に渡してはならないと、赤城神が貫前の女神に一之宮を譲りました。

これらの伝説は、上毛野氏より信濃国から移ってきた帰化集団の貫前氏の方が財力・技術力に優れていることを示しています。

8-8. 徳川埋蔵金

幕末に、徳川幕府の勘定奉行だった小栗忠順(小栗上野介)が、大老 井伊直弼の命で軍資金(360万両:現在の価値に換算すると、当時の1両は約10万円に相当するので約3,600億円)を赤城山山麓(渋川市赤城町)に埋めたとの伝説があります。しかし、江戸時代末期の徳川幕府は財政ひっ迫していたので、隠すほどの大金はなかったようです。

8-9. 珊瑚寺の七不思議

石井山 珊瑚寺（前橋市富士見町石井）には、乳房の銀杏、赤面観音、鏡池、不動の滝、穴薬師、涙の梅、臥牛石の七不思議が伝えられています。

1. **乳房の銀杏**：地蔵堂参道右側のイチョウ巨径木。乳の不足する母親が、この木の枝で作った箸を食事に用いると、乳の出がよくなると伝えられています。イチョウ巨径木の多くは幹の途中から気根が出てきて、乳房のように太く垂れ下がります。

2. **赤面観音**：鏡池の真ん中に祀られている如意輪観音半跏思惟像（によいりんかんのんはんかしゆいぞう）。一心に願をかけながらそのお顔に池の水をかけ、顔が赤くなると願いがかなうと伝えられています。鉄を含む赤城山由来の安山岩でできており、水をかけると赤味が強くなります。

3. **鏡池**：地蔵堂東にある湧水池。湧水量は降水量に関係なく一定で、常に澄んだ清水を湛えていると伝えられています。赤城山の伏流水が湧き出しており、石井の地名の由来とも考えられます。

4. **不動の滝**：本堂裏手に流れ落ちる滝。昔、三代吉という者が、珊瑚寺境内に滝を造るべしという不動様のお告げの夢を見て早速工事に取りかかりましたが、難航して思案にくれていたところ、不動明王が現れ、瞬く間に滝を完成させてしまった伝えられています。落差数 m の滝上に石製不動明王像が安置されています。

5. **穴薬師**：地蔵堂左手、スギ巨径木の根本にある薬師像は弘法大師の作で、石穴の中に祀られていて他の場所に移しても、その夜のうちに必ず石穴の中へ戻ってしまったと伝えられています。弘法大師（空海）の九十九谷・鍋割山伝説との関係が推察されます。

6. **涙の梅**：稲荷神社鳥居横にある梅の木。源景時の妾であった女が、杖として携えていた梅の枝を挿したものが根付いたと伝えられています。月の澄んだ晩、和尚が根元で一心に禅定に入っていると梅の木から露がしたたり落ち、以後涙の梅と呼ばれるようになった。念仏を唱えながら三廻りすると露がしたたるといふ。秋の晴れた夜は放射冷却のため気温が下がり、結露が起こります。

7. **臥牛石**：珊瑚寺石門の左側にある安山岩の巨石。人々がこの石に願いごとをすると、石が牛に姿を変え、その人にかわり善光寺にお参りをしたと伝えられています。長野市善光寺は天台宗と浄土宗の共同管理で、文明時代（1469-1486 年）に天台宗に改宗して珊瑚寺に名を改めたことのアピールがルーツと考えられます。

8-10. 血の池

昔、赤城の原に老夫婦と一人娘が住んでいました。娘はたいそう綺麗だったので、言い寄る男が沢山いましたが、娘はそれを嫌がり、「この空き地に井戸を掘り、もし水が出たら嫁になりましょう」と言いました。ある男が毎日休まずに掘って、ついに水が出ると分かったとき、娘は急死してしまい、血がその井戸に入りました。それで血の池と呼ぶよ



小沼（左）と血の池（右）

うになったそうです。

血の池は小沼火山脇にある直径約 80m の小噴火口跡で、普段は水がありませんが、降水が続くと浅い池になり、プランクトンの増殖で水が赤くなるとの説がありました。しかし、血の池の水は周囲からの湧水で供給されるので栄養価が低く、プランクトンが短時間で大量増殖するとは考え難く、湖底の砂が赤みを帯びていることが、名前の由来になっていると考える方がよさそうです。

8-11. すずり石

前橋市富士見町山口の北方、赤城広域農道（通称、第二南面道路あるいは空っ風街道）沿いの、前橋市富士見町赤城山と渋川市北橋町南赤城山の境界近くに「すずり石」と呼ばれる安山岩の巨石があり、窪みに水がたまっています。昔、親鸞聖人が近くを通ったときこの水を硯に受けて経文を書いたので、すずり石と呼ばれるようになりました。

8-12. 田島の大石

前橋市富士見町田島には天狗の足跡石の伝説があります。天狗が飛んできてこの石に止まったとの伝えがあり、大きな足跡がついていて、この石の上で子供が遊んでいて落ちて、けがをしなかったそうです。田島の大石が、現在はどこにあるのか不明です。

8-13. 鈴ヶ岳の名前の由来

豊城入彦命が赤城山山麓に御殿を造って祭りで舞い、この時使った鈴を頂上に納めたので鈴ヶ岳と名付けられたとの伝えがあります。鈴ヶ岳の溶岩ドームの形を鈴に見立てた伝説です。

山体全体が溶岩ドームであるため、岩穴や巨岩が積み重なっています。代表的な岩穴におこもり洞があり、かつては 5 月 8 日の赤城山山開き祭りの前日、若者がここに籠もって一夜を過ごしたそうです。

山頂には鈴嶽山神、赤城山大神、愛宕山大神の 3 つの大きな石碑があり、かつての信仰の対象であった形跡が残っています。

8-14. 鍋割山の名前の由来

弘法大師が修行の霊場を開山するため、一山百谷存在の霊場を求めて赤城山を訪れて山中を探しましたが、杉の坊（荒山）に隠れて九十九谷しか見つからなかったのが、諦めて下げていた手鍋を投げ捨てて赤城山を去ってしまいました。その鍋が割れて覆いかぶさったのが鍋割山だそうです。鍋を伏せたような形状と、弘法大師を結びつけた伝説です。

この伝説の由来については、前橋方面から赤城山を見ると黒檜山や地藏岳が荒山に隠れて見えないこと、あるいはすでに述べたように、山岳仏教の修験道者が新しい真言密教の布教を妨害したことなどが関係していると思われます。

なお、弘法大師は新たな百谷を探しに赤城山の東にある足尾山地に向かいましたが、結局探し当てることができず、嘆き悲しんで着ていた袈裟を脱ぎ捨てて立ち去ったところが袈裟丸山だそうです。



渋川市から見た赤城山西面：右から、鍋割山、荒山、地蔵岳

8-15. 荒山の別名（浅間山）

『赤城神社年代記』に、1569（永禄 12）年、富士浅間神社の神（木花佐久夜毘売命）が荒山山頂に降臨し、ここに浅間神社を祀るとの記述があります。荒山の前に位置する小ピークを前浅間山というのはそのためです。この伝説は、富士山の火山活動の活発化と、鎌倉時代末期にあった荒山噴火の恐れが結びついていると考えられます。

一般に、富士山に似たピラミッド型の山は、〇〇富士や浅間山（せんげんやま、あさまやま）と呼ばれる例が多くあります。赤城山を南側から見ると、荒山はピラミッド型に見えます。

8-16. 百足鳥居

藤原秀郷（倭藤太）があるとき、大猿の地（現 前橋市粕川町室沢）の大猿川で、橋だと思って渡ったところ、それが大ムカデで、赤城様の化身だったそうです。その大ムカデをかたどって、鳥居にきざみつけたのが「板橋の百足鳥居」（桐生市新里町板橋）と伝えられています。かつて板橋では、ムカデを見たとき「ムカデは赤城へ行け」といえば、赤城に向かって登っていくと信じられていたそうです。



百足鳥居

8-17. 橘山と日本武尊

前橋市北部（前橋市田口町）にある橘山は、約 20 万年前にあった赤城山南西斜面の山体崩壊で生じた橘山岩雪崩が堆積した孤立丘群の 1 つです。

蝦夷征伐のため東国にやってきた日本武尊（やまとたける）は、相模湾を航行中に嵐に遭遇してしまい、嵐を鎮めるため妻の弟橘姫（おとたちばなひめ）が入水しました。蝦夷征伐を終えた日本武尊は帰途の途中で小山に登って山頂にあった石に腰かけ、はるか彼方の相模湾の方向を向いて「橘媛恋し、吾妻恋し、妻恋し」と嘆いたので、この小山を橘山と呼ぶようになったそうです。

その後、腰かけた石が利根川に転がり落ち、流されて前橋に着きました。この石をご神体にしたのが小石神社です。小石神社の名前の由来は、「恋し」が「小石」になったともいわれています。小石神社は、当初は前橋市街地（前橋市横山町、現 千代田町 4 丁目）にありましたが、1971（昭和 46）年、前橋市敷島町に遷座されました。境内には、小石神社のシンボルである縁結びの石「淤能碁呂石（おのごろいわ）」があります。

群馬県内では、日本武尊関連の妻恋しの伝説は嬭恋村と草津町にあり、日本百名山の武尊山（ほたかやま：2,158m）の名前も日本武尊に由来しています。



橘山（右）と箱田山（左）

第9章．赤城山の行事

9-1. 山開き祭り

赤城山の開山は807（大同2）年で、男体山（日光二荒山）を開山した勝道上人によるとされています。赤城山山麓で農作業が本格的に始まる頃の旧暦4月8日、「山の神」と「里の神」が交替するとの伝承があり、これにちなんで新暦5月8日に大洞赤城神社で山開き祭りが行われます。赤城神社で神事を行った後、黒檜山、駒ヶ岳、薬師岳、地藏岳、鈴ヶ岳、荒山、鍋割山の7峰に梵天を奉納します。

かつて、赤城山東麓（旧 黒保根村）の人たちは、赤城山の山開きのとき、過去1年間に亡くなった人のいる家では神庫山（地藏岳）に登り、賽の河原とも呼ばれる山頂の露地で石積みをして供養したそうです。



9-2. レンゲツツジ祭り

赤城山山開き祭り

6月初旬から下旬にかけてレンゲツツジの開花に合わせ、赤城山 新緑&つつじ WEEK が開催され、スタンプラリーなどが行われます。

9-3. 三夜沢赤城神社例大祭

5月5日、三夜沢赤城神社例大祭が開かれ、長年にわたって継承されてきた太々神楽（前橋市無形文化財）が奉納されます。当日は、新陰流開祖の剣豪 上泉伊勢守信綱にちなんで、武道大会も開かれます（第6章で既述）。



三夜沢赤城神社例大祭



三夜沢赤城神社太々神楽

9-4. 大洞赤城神社 夏の例大祭

大洞赤城神社 夏の例大祭（8月8日）に合わせて、8月の第1土曜日に、大沼湖畔で赤城山夏まつり開かれます。大洞赤城神社では前橋市観光キャンペーンレディの淵名姫・赤城姫が登場する神事のほか、夜には大沼湖上での灯ろう流しと花火の打ち上げがあります。翌日の日曜日には、赤城神社の境内で川越藩火縄銃鉄砲隊奉納演武と武者行列も行われます。

大沼湖畔ではジャズコンサート、手漕ぎボート大会などが開催され、ツリーイング(木登り体験)なども楽しめます。



淵名姫・赤城姫による火おこしの神事



ジャズコンサート



灯籠流し



花火大会

9-5. 大洞赤城神社 秋の例大祭

毎年10月の体育の日（第2月曜日）に、大洞赤城神社 秋の例大祭が行われます。

10時から始まる神事に続いて、武者行列、流鏝馬（やぶさめ）や居合抜刀術、郷土芸能などの奉納行事が行われます。



流鎭馬

9-6. あかぎ大沼・白樺マラソン大会

8月の最終日曜日、大沼湖畔でマラソン大会が開かれます。種目は1.5km（大沼1/3周）から20km（大沼4周）です。標高が1,300mを越え、酸素濃度が平地の約90%なので、走りはかなりつらいそうです。



あかぎ大沼・白樺マラソン大会

9-7. まえばし赤城山ヒルクライム大会

2011年から始まったまえばし赤城ヒルクライム大会は、前橋市上細井町から赤城山山頂新坂平までの標高差1,313m、走行距離20.8kmで、国内でも屈指の標高差を持つ自転車ロードレースです。



まえばし赤城山ヒルクライム大会

9-8. 赤城山雪まつり

大沼は12月下旬頃に全面結氷し、1月に入ると積雪量が増えてきます。2月の第1土曜日には、赤城山雪まつりが開催されます。全面結氷した大沼でのワカサギ釣り体験や第1スキー場（日本一小さいスキー場と言われている）でのジュニアスキー教室、雪上宝探しなどの楽しいイベントが行われます。

以前は、赤城山雪まつりの翌日に、関連行事として「赤城山の中心で愛をさけブー：略して赤チュー」がありました。これは、赤城山にヤドリギが多く、北欧ではこの樹木の下で男女が愛を語りあうと成就するという「ヤドリギ伝説」と、2月14日のバレンタインデーをからめて、赤城神社拝殿で女性が相手への言葉を叫ぶイベントでした。現在は行われていません。



第1スキー場のイベント



氷穴開け大会



ワカサギ釣り体験

9-9. 電力中央研究所赤城試験センターの一般公開

5月の日曜日、前橋市苗ヶ島町にある（財）電力中央研究所赤城試験センターが一般公開されます。深夜電力の有効利用を考えた野菜の促成栽培、ヒートポンプ装置、超伝導実験、人工雷実験、100万ボルト送電試験鉄塔・送電線などが見学できます。

9-10. 赤城南面千本桜まつり

前橋市苗ヶ島町には、長さ約1.5kmに及ぶ赤城南面千本桜の桜並木があり、4月上旬～中旬に桜まつりが開催されます。このソメイヨシノ並木は、1956年から3年間かけて地域住民が植えたもので、下部と上部で標高差が約150mあって開花時期に差があるので、長く

桜を鑑賞することができます。

赤城南面千本桜は日本さくらの会認定「さくら名所 100 選の地」に選ばれています。



赤城南面千本桜

9-11. 老神温泉・雪ほたる&冬のイルミネーション

赤城山北麓の老神温泉（沼田市利根町老神）では、1月の第1土曜日～2月の第4土曜日、およびこの間の祝日前日に、幻想的な雪や氷の灯籠が温泉街をやさしく照らす「雪ほたる&冬のイルミネーション」が開催されます。

9-12. 望郷ライン・センチュリーライド

8月の最終日曜日に実施される、最短18km、最長110kmのサイクリイベントです。昭和村総合運動公園（昭和村糸井）をスタート・ゴールとし、群馬県利根沼田地域の谷川連峰や武尊山、苗場山・白砂山などの上越国境の山並み、日本有数の片品川河岸段丘などの山岳景観を愛でながら、赤城高原のレタス畑や美しい農村風景の中を、参加者一人ひとりが思い思いのペースで楽しく走るイベントです。サイクリングを楽しむことが目的であるため、タイム計測や順位表彰はありません。

9-13. 菌原湖堰堤まつり

菌原ダムの点検大放流に合わせて、2018年から、5月の第3土・日曜日に菌原湖堰堤まつりが開催されます。ダム堰堤上では、地元の農産物やご当地グルメなどたくさんの飲食ブースが出店し、老神温泉グッズや大吟醸ソフト、ビール、お焼き、肉類など地元の美味しいグルメが味わえます。

第 10 章． 観光

10-1. テーマパーク

国道 353 号沿いには、世界の名犬牧場、群馬県馬事公苑、大胡ぐりーんふらわー牧場（オランダ式風車あり）、カネコ種苗ぐんまフラワーパーク、ぐんま昆虫の森など、テーマパークがたくさんあります。かつて、赤城クローネンベルク（ドイツ村テーマパーク）もありましたが、2017 年 11 月で閉園となりました。

渋川市赤城町南赤城山には赤城自然園があり、広大な敷地の中に、造園とは違う自然を活かした散策コースが張り巡らされ、森の中を自由に散歩することができます。当園は森林セラピー・ステアリングコミッティより、「森林セラピー基地」に認定されています。

10-2. ワカサギの穴釣り

9 月 1 日から 3 月 31 日まで、大沼のワカサギ釣りが解禁になります。11 月まではボート釣りですが、全面結氷する 1 月から 3 月の間は、氷上で穴釣りができます。



ワカサギの穴釣り

10-3. ローラースライダー

県道 4 号沿いの箕輪地区にある赤城ふれあいの森（2018 年 4 月 1 日より、SUBARU ふれあいの森 赤城）にあるローラースライダーは長さ 380m で、2018 年時点では、ボブスレー式を含めたすべての滑り台では全国第 5 位、ローラースライダーとしては静岡県日本平動物園の 390m に次いで全国第 2 位です。無料で利用できるのは嬉しいことです。

ただし、老朽化のため 2018 年 9 月から休止中です。

10-4. 日本の 100 選

●赤城山：多くの人や団体によって、「日本百選」、「日本百名山」、「花の百名山」・「新・花の百名山」、「日本の自然 100 選」、「女性のための百名山」、「人と自然の織りなす風景 100 選」、「日本百景」などに選ばれています。

田中澄江著の『花の百名山』（1980 年）では、黒檜山のクサタチバナ、地蔵岳のアツモリソウが、新たに選定し直した『新 花の百名山』では、赤城山のクサタチバナがあげられています。

地蔵岳は、一等三角点研究会が風格や眺望、登り甲斐などを基準に選定した「一等三角点百名山」に名を連ねています。

●棚下不動の滝：渋川市赤城町棚下の溶結凝灰岩の崖を流れ落ちる棚下不動の滝（雄滝、落差 37m）は「日本の滝百選」に選ばれています。

●草木湖：草木ダム（みどり市東町座間）で造られた草木湖は、(財)ダム水源地環境整備センター選定の「ダム湖百選」に選ばれています。

●赤城南面千本桜：前橋市苗ヶ島町にある赤城南面千本桜は、日本さくらの会認定「さくら名所 100 選の地」に選ばれています。

●前橋市粕川町室沢の棚田：「にほんの里百選」に選定されています。

●沼田市利根町赤城原の森林：「水源の森百選」に選ばれています。

●沼田市利根町根利：沼田市利根町根利には「日本の山水発祥の地」とされている場所があります。ちなみに、「山水の地」の定義は、山、川、水、道、橋があり、東西南北 50m 以内に他の建物がない場所だそうです。

●三夜沢赤城神社と参道の松並木：約 3km 続くアカマツ・クロマツ、ヤマツツジの並木は「美しい日本の歴史的風土準 100 選」に選ばれています。

●赤城山山麓の鉄道：JR 上越線（高崎駅－宮内駅）、両毛線（新前橋駅－小山駅）、渡瀬溪谷鐵道（桐生駅－間藤（まとう）駅）が「ローカル線 100 選」に選定されています。

●日本キャンパック大室公園：大室公園には大規模な前方後円墳 3 基と複数の小規模古墳があり、「日本の歴史公園 100 選」に選定されています。

●赤城山中腹の大パノラマ夜景展望台：サンシャイン峠展望台とも呼ばれることがあり、「夜景 100 選」に選定されています。

●荒山高原：「日本の自然 100 選」に選定されています。

●横室の大カヤ：赤城山南西麓の前橋市富士見町横室の大カヤ（国天然記念物）が「新日本名木百選」に選定されています。

●群馬用水：利根川の綾戸ダムから取水し、赤城山の南西麓～南麓、榛名山の東麓を灌漑する群馬用水は「疏水百選」に選定されています。

●赤城山麓の養蚕ムラ：「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されています。

●沼田城：「続日本 100 名城」に選定されています。

●ぐんまフラワーパーク(2018 年 4 月 1 日より、カネコ種苗ぐんまフラワーパーク)：2015 年、「日本夜景遺産」に認定されています。



カネコ種苗ぐんまフラワーパークのイルミネーション

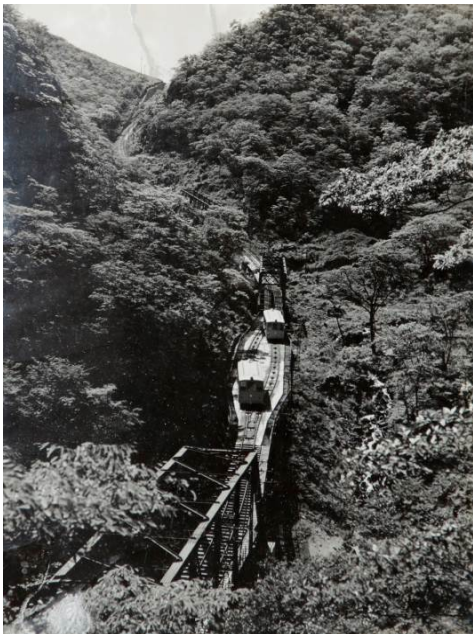
10-5. 観光開発

1950年代、赤城山の観光開発にあたり、西武鉄道と競争して勝利した東武鉄道は、1957年、自社の鉄道路線（東武鉄道 伊勢崎線・桐生線）を利用して東京からアクセスする大間々・黒保根ルート整備の一環として、利平茶屋（利平茶屋駅）と鳥居峠（赤城山頂駅）の間に赤城登山鉄道（赤城山鋼索鉄道：全長約 1,100m、標高差約 360m）を開設しました。車両には愛称はつけられていませんでした。

赤城登山鉄道の開業当初は多いに賑わいましたが、赤城駅ー利平茶屋駅間はバス利用、鳥居峠ー大洞間は徒歩またはバス利用のため不便であったこと、また、1966年には、前橋・富士見ルート（赤城白樺ライン、現県道4号）が整備されてほとんどの観光客がバスや自家用車を利用するようになったため、大間々・黒保根ルートの利用者が激減し、開業からわずか10年後の1967年11月5日に全面休止、翌年6月1日に完全廃止されました。現在、赤城登山鉄道の赤城山頂駅跡は赤城山頂駅記念館サントリーピア・バーベキューホールとして利用され、内部に登山鉄道施設の資料が展示されています。鳥居峠からは、登山鉄道の路線跡が見られます。2018年には、赤城山頂駅舎跡と赤城山頂駅プラットホーム跡が国登録有形文化財（建造物）に登録されました。

地藏岳山頂までは、スキー兼用のリフトと、下駅を赤城平駅、上駅を地藏岳展望台駅とするロープウェイ（全長586m、ゴンドラ名は「やしお」と「れんげ」）を開設して容易に登れました。しかし、利用者減のため1998年に、リフトとロープウェイとも廃止されました。第一スキー場から旧大洞赤城神社に向かって降りる階段の横に、ロープウェイ記念の石碑があります。地藏岳には現在も、ロープウェイ跡が直線にくっきりと残っています。八丁峠にはスキーリフトの支柱が残されています。

なお、赤城山の観光開発当時は、「和服で登れる赤城山！」の観光キャッチフレーズで宣伝されていました。



赤城山鋼索鉄道（廃止）



赤城山ロープウェイ（廃止）

10-6. 温泉

火山というと温泉を連想します。昭和初期まで地蔵岳直下に地獄谷温泉の旅館がありましたが、現在は、赤城山山頂域には温泉施設はありません。1989年にオトギの森で温泉試掘が行われ温泉水は出ましたが、有毒ガスの噴出や温泉水中の有毒成分が基準値を超えたこと、また、自然保護の観点から、1999年をもって温泉開発は中止されました。



赤城温泉

赤城山山麓で火山活動と直接関係する温泉は、南麓にある赤城温泉（炭酸水素塩泉、泉温 44℃）だけで、かつては湯之澤温泉と呼ばれ賑わいました。初代群馬県令の榎取素彦が二人目の妻 文（後に美和子と改名）と婚前旅行に出かけたこと、高村光太郎、与謝野鉄幹他、多くの文人が宿泊した記録もあります。鎌倉時代末期の武将新田義貞が入湯したり、かくれ湯として利用したとの伝えもあります。赤城温泉（赤城温泉ホテル、御宿 総本家、湯之沢館、旅籠 忠治館）、滝沢温泉（滝沢館）を合わせて赤城温泉郷と呼び、赤城高原温泉（山屋蒼月）を加えることがあります。

赤城山周辺には、梨木温泉（桐生市黒保根町宿廻）、水沼駅温泉センター せせらぎの湯（桐生市黒保根町水沼、源泉は猿川温泉：桐生市黒保根町宿廻）、赤城高原温泉（前橋市苗ヶ島町）、粕川温泉（前橋市粕川町月田）、荻窪温泉（前橋市荻窪町）、富士見温泉（前橋市富士見町石井）、北橋温泉（渋川市北橋町下箱田）、敷島温泉（渋川市赤城町敷島）、昭和温泉（昭和村糸井）、南郷温泉（沼田市利根町日影南郷）など多数ありますが、泉質は梨木温泉が含食塩炭酸泉で火山性あることを除くと、いずれもナトリウム・カルシウム塩化物泉（食塩泉）で、温泉水は 2,000～500 万年前に海水が閉じ込められたもので、地下約 1,500m から汲み上げています。赤城温泉と梨木温泉は地下水の補給があるのでこれからも湧泉は続きます。一方、それ以外の塩化物泉は地下水の補給がないので、そう遠くない将来、温泉水は枯渇するでしょう。

10-7. 青木旅館

赤城山頂大沼湖畔（沼尻）にある青木旅館は、1875（明治 8）年創業の老舗旅館で、明治～昭和中期まで、多くの文人が宿泊しました。2018 年 9 月現在、赤城山山頂で営業している旅館は、青木旅館と青木旅館別館（大沼南湖畔）のみです。



青木旅館

10-8. 猪谷旅館（廃業）

猪谷六合雄の父・春雄が 1873（明治 6）年、大洞に開業した旅館で、六合雄に引き継がれて間もなく、姉の大熊千代（ちよ）に売却されました。その後はホテル赤城と改名し、長男の大熊勝朗が経営していましたが、現在は廃業しています。

なお、猪谷六合雄は赤城山山頂付近で生まれた初めての人物と呼ばれています。

かつて、赤城山山頂の大沼湖畔にはみやま山荘、大沼山荘、グリーン荘、高原荘今西、青雲荘 OKI、赤城保養所 赤城大沼荘、国民宿舎 緑風荘といった宿泊施設もありましたが、いずれも廃業しています。さいたま市立赤城少年自然の家、東毛林間学校も廃止となり、残っているのは前橋市赤城少年自然の家だけとなりました。

10-9. 県立赤城公園ビジターセンター

県立赤城公園ビジターセンターの展示室には、赤城山ジオラマの（立体模型）、赤城山山域に生息する動物の剥製、植物や大正時代～昭和初期の赤城山頂の生活の様子の写真などが展示され、赤城山を構成する代表的な溶岩標本も置いてあります。

注目すべき展示物は、赤城山で育ち、1956 年にイタリアのコルティナ ダンペッツォで開催された冬季オリンピックのスラロームで銀メダルを獲得した猪谷千春が使っていたスキー板です。

ビジターセンターは路線バスの終点（バス停名は、赤城山ビジターセンター）で、目の前には第 3 スキー場のゲレンデ（営業はしていませんが、利用可能）があり、覚満淵入口がすぐ近くです。



県立赤城公園ビジターセンター

10-10. 阿久沢家

前橋市柏倉町にあり、群馬県内でも最古の部類に入る茅葺き屋根の中規模古民家で、17 世紀末頃の建築と伝えられています。阿久沢家は、江戸時代には名主や組頭を務めていました。建物は 1970（昭和 45）年、国重要文化財に指定されました。

二宮赤城神社を里宮、三夜沢赤城神社を山宮として、毎年 4 月と 12 月の初辰日に御神体が往復する神事「御神幸」が行われます。かつては、赤城神社の御神体を乗せた神輿は三夜沢赤城神社までの 12km を徒歩で担ぎ、途中、大胡神社（旧近戸神社：前橋市堀越町）と「お輿懸（阿久沢一家）」（前橋市柏倉町）の 2 か所で休憩し、接待を受けることになっ

ていました。



赤城神社の神事「御神幸」



阿久沢家住宅（国指定重要文化財）

10-11. 南郷の曲屋（旧鈴木家）

南郷の曲屋は 2002（平成 16）年、沼田市重要文化財として指定された茅葺き屋根の旧鈴木家住宅で、南郷温泉しゃくなげの湯の敷地内（沼田市利根町日影南郷）に移築したものです。

鈴木家の先祖は、当地に熊野神社を建設するため神官として来村して定着し、代々名主を務め、政治家などを輩出してきました。当家は検地等で訪れる役人の逗留施設でもあり、主屋の上段の間には、付け書院、帳台構えを設け、武家の好んだ正式な書院造りをしています。主屋は東北地方でよく見られるものの群馬県内では珍しい、突起部分が馬屋（厩）となっている曲屋形式です。

建物の正確な建造年代は不明ですが、敷地内の稲荷社の側壁に「天明 5 年 10 月大吉日」とあることや、建築手法の面から検討した結果、1785（天明 5）年に竣工されたと推測されます。



南郷の曲屋（旧鈴木家：沼田市重要文化財）

10-12. スキー場

赤城山頂にはスキー場が 1 か所（地藏岳東斜面の第 1 スキー場）あり、自称「日本一小さいスキー場」と言っています。赤城公園ビジターセンター前の小沼火山（北山）北面に第 3 スキー場があり、営業はしていませんが利用可能です。

かつては青木旅館脇の見晴山東斜面に第 2 スキー場がありましたが、現在は使われてい

ません。



赤城山第1スキー場

10-13. 中之沢美術館

前橋市粕川町中之沢にある「自然の中の芸術」というテーマを具現化した NPO 法人として運営されている美術館で、企画展が中心となっています。

毎年5月末には、約1週間にわたって粕川町アートフェスティバルが開催され、中之沢美術館を中心に粕川町全体を美術館に見立てて、展示やイベントが行われます。

10-14. 相澤忠洋記念館

相澤忠洋記念館（桐生市新里町奥沢）は、日本の歴史を塗り変えた「岩宿遺跡」の発見者 相澤忠洋の旧石器をテーマにした記念館です（7章で紹介済み）。

10-15. 群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館

渋川市北橘町下箱田にあり、群馬県内で発掘・調査された縄文時代～江戸時代の資料を研究・保存しており、テーマを絞って逐次展示を行っています。

ここでの見どころは、渋川市の東金井裏遺跡（渋川市金井）で出土した、6世紀初頭の榛名山 ニッ岳の噴火で発生した火砕流で埋まった「鎧を着た武人」に関連する資料です。頭蓋骨の形状から、夫（武人）は長野県飯田市付近、妻は地元群馬県の出身で、両地域間での密接な交流の存在が示されました。

10-16. みどり市大間々博物館（コノ Dont 館）

みどり市大間々博物館（コノ Dont 館）はみどり市大間々町大間々にあり、大間々地域の資料を展示する総合博物館（旧称・大間々町歴史民俗館）として、1988（昭和63）年4月に開館し、この地域に残る貴重な資料の調査・研究・収集・保管のための活動を行うとともに、分かりやすい常設展示やタイムリーな企画展などを通して、「楽しめる博物館」をコンセプトに、気軽に歴史の知識を得るための施設です。この博物館の展示室は、1921（大正10）年に建築された旧大間々銀行の営業所本館と倉庫を改修・利用したもので、大

正期の洋風建築として群馬県内でも貴重な近代化遺産です。

コノドントとは、古生代カンブリア紀～中生代三畳紀（6億年～1億8,000万年前）の地層から発見される歯状の微化石（0.2～1mm）で、その正体は動物体その物なのか、一部なのか長く謎のままでした。最近の研究により、胴体の骨はサメのように軟骨でできた細長い動物体の歯であることが判明しました。ドイツで発見された化石の研究から、動物本体の骨はサメのように軟骨なので残っていませんが、コノドントの並びが、顎の形と同じだったのです。コノドントは世界中で発見され、示準化石（地質時代の特定時期だけに生息し、年代決定に利用される）となっています。日本では1958（昭和33）年、旧大間々町在住の林信悟によって、みどり市北部の足尾山地 三畳紀地層の岩石中で最初に発見され、足尾山地の岩石年代の確定が進みました。

みどり市大間々博物館の近くには、高津戸溪谷、高津戸（要害山）城址、1937（昭和12）年建設の直径約6.3mの廻り舞台や花道、2階席を持つ、歌舞伎座を模した木造2階建て劇場「ながめ余興場」（みどり市指定重要文化財）があります。

10-17. スローシティ

スローシティ国際連盟（本部はイタリア・オルビエート市）は、ゆとりある質の高い生活や食文化と環境を尊重した都市の実現を目的としており、2017年5月12日に同協会に、前橋・赤城地域（宮城・富士見地区、芳賀・大胡・粕川地区の一部）の加盟が認定されました。国内では宮城県気仙沼市に続き、2例目です。

第 11 章．赤城山の雑学

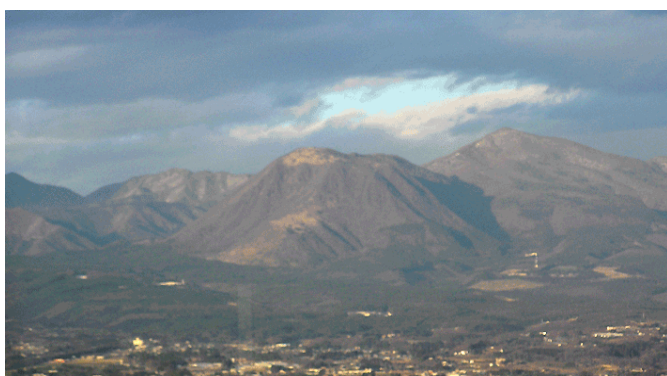
11-1. 鍋割山は犬の顔

前橋市街地から赤城山を眺めると、正面に鍋割山が見えます。その姿は、鍋割高原が鼻で、頂上から左右に延びる斜面が大きく垂れた耳のようで、ゴールデンレトリバーやビーグル犬の顔に似ています。伊勢崎市や太田市方面から見ると、鍋割山はイヌの横顔になります。鍋割山の正面をウシの顔に似ているとすることもあります。

なお、鍋割山山頂(1,332m)の二等三角点は設置から 120 年余が経過し、埋められていた花崗岩製標柱が露出して倒れる危険があるため、2017 年 12 月に撤去され、国土地理院の地図でも三角点マークと標高表示は削除されました。標柱がなくなったことで表示できなくなったのです。

11-2. 赤城の影牛

西日が当たる頃、前橋市東部～伊勢崎市から赤城山を見ると、鍋割山～荒山間の谷に映る鍋割山の影が、右を向いた牛の横顔に見えます。そして、鍋割山を牛の胴体と見立てて、赤城の影牛または寝牛と呼ばれています。



鍋割山と影牛

11-3. 一等三角点本点

一等三角点本点は平均で約 45km の間隔で置かれ、全国をカバーして地図作成の基本となっています。群馬県内の一等三角点本点は地藏岳山頂だけで、一等三角点間の見通しの悪い箇所をカバーする一等三角点補点（約 25km 間隔：一等三角点としてリストされている）は、群馬県内に 8 か所あります。2019 年 4 月 1 日現在の三角点数は、一等（本点＋補点）974 点、二等 5,009 点、三等 31,754 点、四等 71,746 点が設置されています。三角点

は位置（緯度、経度）の測定のためのもので、その表示位置は地図上ではマーク「」中の点、標柱では「+」の交点で、必ずしもピークの最高点に設置されているわけではありません。頭の「+」は東西南北を示し、南側面には三角点の等級が書かれています。

標高は東京湾（三浦半島油壺湾の検潮所で観測）の平均海面を 0m とし、日本水準原点（24.3900m、東京都千代田区永田町 1 丁目 1 番地）をもとにした測量値が示されています。全国の水準点数は、基準水準点 84 点、一等 13,634 点、二等 16,808 点あります。

すでに述べたように、地蔵岳は一等三角点研究会が風格や眺望、登り甲斐などを基準に選定した「一等三角点百名山」に名を連ねています。

国土地理院は三角点に代わって、地殻変動を常時監視する精度と迅速性の高い測量システムとして 2004 年 3 月に GNSS 連続観測システム (GEONET: GNSS Earth Observation Network System) を構築し、2019 年 4 月 1 日現在、全国に 1,318 か所の電子基準点を設置しています。群馬県内には 17 基準点があり、赤城山付近では、赤城 (設置場所 渋川市赤城総合運動自然公園、局番号 960752、コード番号 EL05439604401) と群馬利根 (設置場所 旧根利小学校、局番号 020953、コード番号 EL05439712801) の 2 か所あります。

その他の地点でも、国土地理院が WEB 上に発行している地図上の「+」に目的地点を合わせれば、標高が示されます。



地蔵岳山頂の一等三角点本点

11-4. 大沼、小沼の正しい読み方

赤城山山頂にあるカルデラ湖の大沼は「おの」、小沼火山の火口湖の小沼は「この」と読みます。しかし最近は、「おおぬま」、「こぬま」と読むことが多くなっています。

11-5. スバル 360 のテスト走行

太田市に製造工場がある富士重工業 (現 SUBARU:スバル) が開発した軽自動車の名車スバル 360 (通称テントウムシ) は、排気量 356cc、16 馬力の小型ながら 4 人乗りで、伊勢崎ー赤城山山頂間の砂利道でノンストップ往復テストを実施し (1957 年 8 月または 1958 年 2 月)、新坂平直下の一杯清水の急坂も難なく登り切り、高性能が確認されました。



スバル 360 (通称テントウムシ)

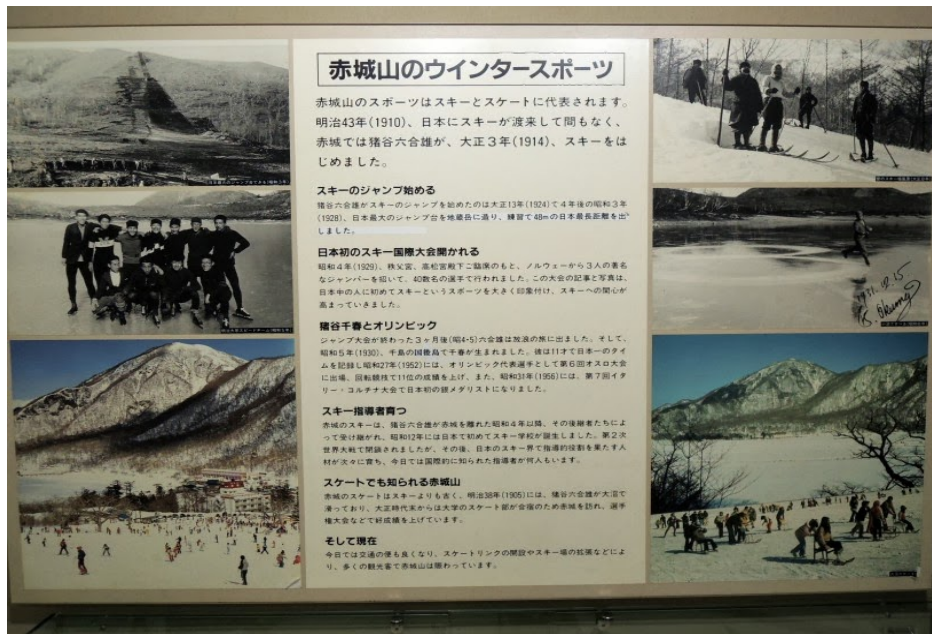
11-6. スキージャンプの日本記録

猪谷六合雄は、大正末期から昭和初期にかけて、赤城山頂にいくつかの小型スキージャンプ台（ジャンツェ）を造っていました。1928（昭和3）年には、猪谷六合雄が中心となって地蔵岳の東面中腹に、日本で最初の本格的スキージャンプ台（60m級）が造られました。翌年の1929（昭和4）年2月には、このジャンプ台を使った赤城ジャンプ大会が開催され、伴素彦が当時の日本記録（46m）を打ち立てました。この大会に招待参加したノルウェーのヘルセットは、軽々と50m超を飛びました。六合雄の3人目の妻 定子は、日本初の女性ジャンパーでした。

第二次世界大戦が終わって間もなく、六合雄は地蔵岳北面に全長約600mのスラロームバーンも造りました。

なお、猪谷六合雄は、1956年開催のイタリアのコルティナ・ダンペッツォ冬季オリンピックにおけるスラローム種目の銀メダリスト 猪谷千春の父親であり、また赤城山を訪れた多くの文人が著書の中に描いている千代（ちよ）の弟です。

スキーと並行して大沼や小沼におけるスケートも盛んになり、1930（昭和5）年には、明治大学スケート部が合宿地として赤城山を指定し、毎年訪れて練習に励みました。



赤城山のウィンタースポーツ（1930年代～1960年代）

11-7. 赤城スキー学校

猪谷六合雄の甥の大熊勝朗は、パラレル・クリスチャニアを日本人として初めてマスターし、1937（昭和12）年には、日本で初めてスキー学校「赤城スキー学校」を開設しました。

1961（昭和36）年、勝朗は日本スキー連盟の代表としてヨーロッパに滞在し、イタリアで見たデモンストレーションを取り入れ、帰国後、教育部長となって日本におけるデモンストレーション制度を創設しました。赤城山は、スキーバジジテストの発祥地ともいわれています。

昭和初期には、青木旅館の青木源作は旅館前にスキー場を造り、さらに貸しスキーを思いついて柏山（現 桐生市黒保根町宿廻）の大工 児玉福松に約 30 台のスキーを作ってもらいました。これが貸しスキーとしては我が国初とされています。1929（昭和 4）年、赤城スキークラブが発足し、源作が初代会長となりました。

11-8. 赤城山の行政区分

赤城山本体の行政区分は、南側から反時計回りで、前橋市、桐生市、みどり市、桐生市、沼田市、昭和村、渋川市になります。山頂カルデラ内は全て前橋市の行政区分ですが、最高点の黒檜山山頂は桐生市と沼田市の市境で、前橋市ではありません。

前橋市、桐生市、沼田市が一点で交わる場所は御黒檜山大神の祠・鳥居（標高 1,819m）です。また、前橋市、沼田市、渋川市が一点で交わる場所は薬師岳山頂西の薬師如来石碑の設置場所（野坂峠：標高 1,503m）です。

沼田市、昭和村、渋川市が一点で交わる場所は、薬師岳から北方の船ヶ鼻山（1,466m）に至る尾根のほぼ中間点（標高 1,456m）です。

11-9. 前橋市富士見町赤城山 1 番地

前橋市富士見町赤城山 1 番地は、鳥居峠から県立赤城公園ビジターセンター間です。鳥居峠が赤城山 1 番地であることは、かつての赤城山登山のメインルートが、桐生市黒保根町から鳥居峠に至るルートであったことを示しています。

11-10. 地方版図柄入りナンバープレート

2018 年 10 月から交付が始まった、自動車の地方版柄入りナンバープレートでは、前橋版に、市街地から見た赤城山の図柄が入っています。

11-11. 直線の行政区境

鈴ヶ岳から箕輪の北北西約 1km の 1,247m ピーク間は、地形に関係なく約 4.2km にわたって、前橋市富士見町赤城山と渋川市赤城町北赤城山・南赤城山の境界が直線になっています。同様の直線状の境界は、前橋市富士見町赤城山と渋川市北橋町赤城山間、前橋市粕川町中之沢と桐生市新里町赤城山の間にもあります。

現在はすべて前橋市になっていますが、富士見町皆沢、金丸町、東金丸町（旧 大胡町金丸）にも直線の地区境があり、これら 3 つの地区に加えて柏倉町（旧 宮城村柏倉）の 4 地区が 1 点（鶉（うずら）山）で交わっています。

このような直線の境界ができたのは、いずれも以前はほとんど人が住んでおらず、入会地として共同利用されていた場所です。境界の確定に当たり、それまで曖昧だったところを人為的に直線で分けたことを物語っています。

11-12. 群馬県内で一番

●権現山：伊勢崎市豊城町にある八寸（はちす）権現山は標高 91m、直径約 200m で、赤城山の孤立丘の 1 つで、標高が記載されている山の中では群馬県内で最も低い山です。

周囲の標高は約 70m なので標高差は 20m しかなく、登山道は約 100m で頂上に達します。

豊城町の名前は豊城入彦命に由来し、権現山はその墓であると伝えられたことがありましたが古墳ではなく、すでに述べたように赤城山の山体崩壊で形成された孤立丘です。

●月田近戸神社の狛犬：前橋市粕川町月田にある近戸神社の拝殿脇にある狛犬は室町時代の作で、群馬県内で最古です。この狛犬は頭部が小さく扁平で、巻き毛も丸みがあって、親しみのある童顔をしています。なお、片方の狛犬の顔は欠けています。

8月の最終土・日曜日開催の近戸神社秋例大祭で行われる獅子舞（月田のささら）は約600年の歴史があります。2日目（日曜日）の「本祭り」では、粕川温泉元気ランド隣の外宮に御輿が渡って獅子舞が行われるほか、粕川の地名の由来と言われる、粕川に濁り酒を流す「御川降（おかおり）神事」の儀式が行われます。そして、御輿が外宮から近戸神社に戻ると、雌獅子をめぐって2匹の雄獅子が激しく闘う祭り最大の見どころである「雌獅子隠し（めじしかくし）」（文化庁表彰、群馬県重要無形民族文化財）が奉納されます。



月田近戸神社



狛犬



御川降（おかおり）神事



獅子舞：雌獅子隠し（めじしかくし）

11-13. ゾロ

赤城山山頂域で、樹木がなく岩礫や砂がむき出しになっている露地は「ゾロ」と呼ばれています。色によって赤ゾロ（鉄分を含む安山岩質が中心）と白ゾロ（角閃石安山岩やデイサイトが中心、または噴気による変質）と呼ばれています。

第 12 章．文学・芸術

赤城山は東京から約 100 km で 1 日の行程で到着でき、しかも関東平野に面して聳えているため、箱根山、榛名山、日光、軽井沢などとともに明治時代から多くの文人・芸術家が訪れ、そのときの滞在記や滞在中の出来事を小説や随筆の形で執筆したり、短歌などで表現したりしています。

ちなみに、自宅から 100 km 以上離れると、気分転換やストレス軽減となる「転地効果」が得られるそうです。

12-1. 萩原朔太郎

前橋市出身の近代詩家の萩原朔太郎は、1929 年発表の『帰郷』で、「わが故郷に帰れる日・・・・・・まだ上州の山は見えずや・・・・・・」の詩を発表しています。名前は出ていませんが、東京（上野駅）から前橋に向かう高崎線の右側車窓から見える赤城山を指していることは間違いありません。

12-2. 与謝野鉄幹・晶子

与謝野鉄幹・晶子夫妻は、赤城山を 1905（明治 38）年と 1934（昭和 9）年の 2 回訪れ、2 度目の旅の翌月号の歌誌『冬柏』に、鉄幹は 89 首、晶子は 69 首の赤城を詠んだ短歌を発表しました。

12-3. 幸田露伴

1890（明治 23）年、地獄谷温泉に 2 週間滞在して『一口剣』を完成させ、滞在中の経験を『地獄溪日記』に著して、後世の赤城を訪れる文人たちに影響を与えました。

12-4. 志賀直哉

1915（大正 4）年 5 月から 9 月まで、心を病んだ康子夫人と、猪谷六合雄が建てた大洞の山小屋に住んでいました。その滞在経験をヒントに著した短編小説が『焚火』で、小鳥ヶ島の大洞赤城神社境内には、小説の末尾文章「船に乗った。蕨取りの焚火はもう消えかけて居た。船は小鳥島を廻って、神社の森の方へ静かに滑って行った。鼻の聲が段々遠くなった。」が刻まれた文学碑があります。志賀直哉は自身の文学碑の設置を好まなかったため、自著の署名がある赤城山の碑は貴重なものです。

志賀直哉文学碑の脇には万葉歌碑もあり、それには「上毛野 くらほの嶺の くずはがた愛しけ児らに いや離り来も」（万葉集 巻 14（東歌）、3431）が、万葉仮名で書かれています。

志賀直哉を始めとする文人集団「白樺派」の名称は、赤城山の白樺に由来するとされています。これにちなんで、2009 年 4 月 10 日、新坂平の赤城山総合観光案内所に、白樺の森文学コーナーが開設されました。

この建物は、1983 年にエネルギー資料館として群馬県が設置し、当初は風力発電の風車が建物上にありました。2001 年には旧富士見村に譲渡され、赤城山総合観光案内所として

利用されてきました。そして、案内所内のエネルギー資料館部分を白樺の森文学コーナーとしてリニューアルし、赤城山の歴史（猪谷旅館レプリカ、赤城山年表など）、赤城山ゆかりの人々（猪谷六合雄、猪谷千春、今井善一郎）、赤城山関連の文学（赤城山の文学碑マップなど）、文人たちの赤城（志賀直哉、高村光太郎、与謝野晶子、芥川龍之介など）、赤城山ゆかりの書物展示（岩澤正作、水原秋桜子、志賀直哉、川端康成）、赤城山模型、その他が展示されています。



小鳥ヶ島の志賀直哉文学碑（右）と万葉歌碑（中央）

12-5. 高村光太郎

1904（明治 37）年に赤城山を 2 回訪れて、夏を通して 50 日余りを過ごし、赤城の自然や風物を絵に描き（赤城画帖）、小説『赤城相聞歌』や散文『赤城山の歌』を発表しました。『赤城山の歌』のなかで代表的な記述に「あゝこれ山そらを劃りて立てるもの 語らずおろかさびてたつもの」があります。

また、小説『毒うつぎ』の中で、猪谷六合雄の姉 猪谷千代を描いています。千代については、水野葉舟著の小説『おみよ』にも記述があります。

12-6. 深田久弥

『日本百名山』の著者で有名な深田久弥は、1926（大正 15）年に赤城山に登り、その品格について、「見事なのは、のびのびと裾野へ引いた稜線であって、…胸がすくようである」、「人を暖かく包み込んでくれる山の代表」と述べています。

日本百名山のうち、標高が最も高い山は富士山（3,776m）で、赤城山（1,828m）は 78 位です。なお、群馬県内の百名山は 11 座（32 位 日光白根山 2,578m、33 位 浅間山 2,568m、41 位 四阿山（あずまやさん） 2,354m、46 位 至仏山 2,228m、48 位 草津白根山 2,171m、49 位 武尊山 2,158m、51 位 皇海山（すかいさん） 2,144m、52 位 平ヶ岳 2,141m、66 位 谷川岳 1,977m、67 位 巻機山（まきはたやま） 1,967m、78 位 赤城山 1,828m）で、これらの中で、赤城山は最も低い山です。

12-7. 岩澤正作

神奈川県出身ですが、群馬県内の中学校(現在の高校)で博物学を教えるかたわら、自然科学、郷土史、考古学と幅広い分野で研究を行い、群馬における考古学の礎を築いた人物です。

代表的な著書『赤城山』の中で、上毛三山はそれぞれ魅力があるが赤城山が一番であるとして、「殊に茫漠たる平野に向かって、特趣の裾野を長く曳けるは一層人目を惹きて、上毛名山の月桂冠を得たる所以ならむ」と記述しています。

12-8. 今井善一郎

渋川市北橋町で生まれた民俗学者で、文人というわけではありませんが、『赤城の神』を執筆し、赤城山を「魂の故郷」と感じ、「心の頼り所を与えてくれる山」と強調しています。そして、貴重な赤城山の自然の保護について、研究者として本来あるべき方法を提言しました。

12-9. その他の代表的文人

赤城山について、芥川龍之介は『赤城の山つつじ』に、関口泰は『山湖随筆』に記述しています。

正岡子規は、赤城山の夏について「上毛三山は群馬を代表する山々である。毎日見ている山である。朝な夕な私たちの体の中に溶けこみ、刻みこまれている懐かしい風景である」と書き、「赤城は幽邃(ゆうすい)なり、榛名は温順なり、妙義は奇警斬新なるが如し」と表現しています。また、「榛名笑ひ赤城泣き妙義怒るかな」、「榛名春 赤城夏 妙義を秋の姿かな」と詠んでいます。

室生犀星は詩集『赤城山』を、東宮七男は詩集『冬の赤城山』を、高橋元吉は詩集『赤城嶺』を発表しています。

草野心平は『わが青春の記』で、猪谷旅館に宿泊した際の様子の中で、酒がなくなって赤城神社のお神酒を調達したことを記しています。

12-10. 文学碑・レリーフ

すでに述べたように、小鳥ヶ島には志賀直哉文学碑、万葉歌碑があります。

覚満淵入口には、昭和天皇が1983(昭和58)年10月に赤城山を訪れた際に詠んだ和歌「秋くれて 木々の紅葉は枯れ残る さびしくもあるか 覚満淵は」の歌碑があります。

新坂平から大洞に向かう「句碑めぐりの道」には、水原秋桜子、大友華亭、松野自得、富田うしお、相葉有流、須藤泰一郎の句碑が設置されています。

鳥居峠には、東海林太郎が歌った「赤城の子守唄」(作詞:佐藤惣之助、作曲:竹岡信幸)、「名月赤城山」(作詞:矢島龍児、作曲:菊地 博)の歌碑があります。

大沼南湖畔の覚満川沿いには、江戸幕府の追手を逃れて赤城山に隠れたとされる博徒 国定忠治のレリーフがあります。この像は、忠治の伝記を記した和綴紙本の小冊子『赤城録』の口絵として描かれている、崎草雲筆作の肖像画(縦27.2cm、横19.5cm)を模したものです。

小暮一の鳥居脇には、松尾芭蕉の句碑があります。



「赤城の子守歌」、「名月赤城山」の歌碑（鳥居峠）

12-11. 演劇

赤城山を有名にしたのは、島田正吾や辰巳柳太郎が出演した新国劇 極付『国定忠治』における「赤城の山も今宵限り・・・」の台詞です。

12-12. 舞踊

深山幸三郎が踊る股旅物の新舞踊に、「赤城残月」、「名月赤城山」があります。

第 13 章．赤城山の名前の引用

13-1. あかぎ号（ＪＲ東日本）

あかぎ号は、1950 年 3 月 24 日、高崎経由の快速として桐生駅－上野駅間（桐生駅－高崎駅間は普通列車）として誕生し、1960 年 3 月 15 日には、電車化されて前橋駅－上野駅間の準急に、さらに 1966 年 3 月 5 日に急行に格上げされました。

1982 年 11 月 15 日より新特急に格上げされ、1986 年 11 月 1 日以降は特急として、前橋駅－上野駅間を連絡していました。

1995 年 12 月 1 日より、利便性を考慮して、土・日には前橋駅－新宿駅間に特急ウイークエンドあかぎ号も走りはじめました。さらに、2014 年 3 月 15 日より、前橋駅・高崎駅（一部本庄駅）－上野駅・新宿駅間に全席指定席のスワローあかぎ号が運行されています。「スワロー」の意味は「座ろう」に由来します。

13-2. あかぎ号（流鉄 流山線）

千葉県にあるローカル私鉄の総武流山電鉄（現在名は流鉄）流山線（流山駅－馬橋駅間 7.5km）で、2001 年 5 月 20 日まで走っていた 1300 形電車はあかぎ号と呼ばれ、当然のことながら、車体の色は赤でした。

流山駅の一つ手前の平和台駅は、かつては近くの赤城神社にちなんで赤城駅でしたが、平和台団地の造成により改名して一時期赤城台駅になり、団地の完成に伴って現在名に変更されました。

13-3. 赤城駅（上毛電気鉄道 上毛線・東武鉄道 桐生線）

赤城駅はみどり市大間々町大間々にある、上毛電気鉄道と東武鉄道が共用する駅で、管理は上毛電気鉄道が行っています。

東武鉄道 桐生線の終着駅でもあり、浅草駅から太田駅まで東武鉄道 伊勢崎線を通して、特急「りょうもう」号が始発・終着します。

この駅は、1928 年 11 月 10 日、上毛電気鉄道の新大間々駅（しんおおままえき）として開業し、1957 年 7 月 21 日の赤城登山鉄道（ケーブルカー）の運行開始にともない、1958 年 11 月 1 日に赤城駅と改称されました。赤城登山鉄道は、1968 年 6 月 1 日に廃止されました。

13-4. 軍艦

●赤城（航空母艦）：1927 年 3 月 25 日、呉工廠で竣工した、基準排水量 36,500 トン、公式排水量 41,300 トン、全長 261.2m、最大幅 29.0m、最大速度 31 ノット、航続距離 16 ノット・8200 海里、出力 133,000 馬力の、当時は世界的に最大規模の航空母艦でした。

帝国海軍における航空母艦の艦名は、空を飛ぶ伝説の動物名が原則でした。赤城は元々、88 艦隊（正式戦艦 8 隻、装甲巡洋艦 8 隻）の装甲巡洋艦（後には巡洋戦艦と呼ばれた）として建造され、命名のルール（正式戦艦は旧国名、巡洋艦は山名）に従って山の名前が付けられました。しかし、建造途中でワシントン軍縮条約締結の結果、巡洋戦艦から制限対

象外の航空母艦へと艦種が変わり、名前がそのまま引き継がれました。

第一航空艦隊兼第一航空戦隊の旗艦となりましたが、1942年6月5日、ミッドウェー海戦で、米空母エンタープライズから発艦した急降下爆撃機の爆弾が命中し、大火災を起こして航行不能になり、翌日、見方の魚雷で沈没しました。



空母 赤城（上：建造時、下：改装後）

●赤城（砲艦）：1890年、小野浜造船所神戸工場で竣工した日本初の全鋼製軍艦（基準排水量699トン、公式排水量914トン、全長56.7m、幅8.3m、巡航速度8.3ノット、390馬力）で、日清戦争や日露戦争で使われました。

1911年4月1日に除籍となり、1912年3月22日、川崎芳太郎氏に売却され、川崎汽船の貨物船 赤城丸に改造されました。

13-5. 巡視艇・巡視船

●あかぎ（あかぎ級巡視艇：PS40）：1965年3月24日に竣工した海上保安庁の特務救難用巡視艇（総トン数83トン、全長26.0m、最大幅5.4m、最高速度29.1ノット、2,200馬力）で、同型艇の第1号艇です。

●あかぎ（130型巡視船：PS101）：1980年3月26日に竣工したあかぎ型巡視船（総トン数188.7トン、全長35.0m、最大幅6.3m、最大速度28ノット、4,400馬力）の第1号船です。12.3mmの機関銃を搭載し、機動性を重視した小型高速巡視船で、第3管区海上保安本部那珂湊海上保安部（常陸那珂湊港）に配備されていました。2009年3月に退役しました。

●あかぎ（180巡視船：PS14）：130型巡視船 あかぎの退役にともない、2009年3月に竣工・就役したらいざん型巡視船の14号船（総トン数209トン、全長46.0m、最大幅7.5m、最大速度35ノット、9,400馬力）で、20mm機関砲を装備しています。現役中で、第3管区海洋保安本部 茨城海洋保安部（常陸那珂湊港）に配備されています。



巡視船 あかぎ（PS-14）

13-6. 商業船

●赤城山（あかぎさん）丸（三井物産、貨物船）：玉造造成所で、国産初のディーゼル貨物船（総トン数 4,631 トン、全長 114.3m、最大幅 15.2m、速度 12.18 ノット、1,726 馬力）として 1924 年 7 月 18 日に竣工し、北太平洋航路に就航しました。

●赤城丸（日本郵船、貨物船）：三菱重工業長崎造船所で、1935 年 9 月 10 日に竣工した A クラス（名前の最初に「あ」がついている）高速ディーゼル貨物船（総トン数 7,367 トン、全長 141m、最大幅 19m、18.9 ノット、8,771 馬力）で、同系統（A 船）の第 1 船です。北ヨーロッパ航路（日本ードイツ・ハンブルグ）に就航しましたが、第 2 次世界大戦が始まったため、南アメリカ航路に転用されました。

1941 年、海軍が徴用し、同年 12 月 10 日、特設巡洋艦に改造され、1942 年 2 月 17 日、米国空母バンカー・ヒルなどからなる米国第 9 任務部隊搭載機による直撃弾を受け、トラック島北水道付近で沈没しました。

●赤城山丸（三井物産、貨物船）：三井造船で 1951 年 9 月 28 日に竣工し、ニューヨーク航路に就航した貨物船（総トン数 7,012 トン、16.5 ノット、9,500 馬力）で、初代赤城山丸にちなんで命名されました。

13-7. 赤城型民家

赤城山南麓地方に多くみられる茅葺きの民家で、2 階や屋根裏を養蚕に利用するため、前面の 2 階中央部分を採光用に凹型に切り落とした形式をしています。

群馬昆虫の森(桐生市新里町新川)や日本キャンパック大室公園(前橋市西大室町)には、赤城型民家が移設保存されています。



赤城型民家（日本キャンパック大室公園）

13-8. 赤城村

赤城山の西麓には、2006 年 2 月 19 日まで、赤城村がありました。この村名は、1889 年 4 月 1 日の町村制施行に伴って誕生した横野村と敷島村が、1956 年 9 月 1 日の昭和の大合併の際、赤城山にちなんで命名されました。

2006 年 2 月 20 日、平成の大合併に伴い、隣の渋川市を中核都市とし、周辺の北橋村、伊香保町、子持村、小野子村とともに対等合併し、新たな渋川市となりました。旧赤城村全域は、渋川市赤城町となりました。

地区内には、上三原田歌舞伎舞台（国重要有形文化財）、宮田の石造不動明王立像（国重

要文化財)、滝沢石器時代遺跡、日本の滝百選に選ばれている落差 37m の棚下不動の滝(雄滝)などがあります。

13-9. 赤城根村

1956(昭和 31)年 9 月 29 日まで赤城山北麓に赤城根村があり、30 日に利根郡東村と合併して利根村となり、さらに 2005(平成 17)年 2 月 13 日、利根村は沼田市に編入され、全域が沼田市利根町になりました。旧赤城根村地域には、赤城川が北に向かって流れ、片品川に合流しています。

13-10. お酒・食料品など

●**お酒**：清酒(赤城山、名峰赤城、赤城のしずく)、赤城の恵(焼酎)、赤城(ワイン)などがあります。

●**赤城の恵**：前橋市が認定した飲食物で、赤城山周辺で生産されるか、その加工品が対象で、品目は年々増加しています。

●**リンゴ**：沼田地域で開発されたリンゴの品種に「あかぎ」があります。酸味が弱く甘味があり、この品種から「陽光」が生み出されました。さらに、「あかぎ」の雌蕊に「ふじ」の花粉を受粉させた「ぐんま名月」、「ふじ」の雌蕊に「あかぎ」の花粉を受粉させた「新世界」もあります。

●**まえばしの水 アカギノメグミ**：前橋市水道局が販売しているペットボトル入りの水で、前橋市金丸町の 2 号水道用井戸(地下約 200m)から汲み上げた水が使用されています。

この飲用水のオリジナルは、1983 年開催のあかぎ国体の際に、前橋市が配布した 200ml 入り缶入り飲用水です。

●**赤城乳業(株)**：埼玉県深谷市に本社を置く氷菓(アイスクリームなど)専門メーカーで、代表的商品に「ガリガリ君」があります。1964 年には「赤城しぐれ」を発売し、大ヒットしています。

13-11. 道の駅

●**赤城の恵**：県道 34 号(渋川大胡線)沿いにある前橋萩窪温泉あいのやまの湯に併設して、道の駅「赤城の恵」(前橋市萩窪町)があります。併設されている萩窪公園には、約 16,000 株のアジサイが植えられています。

●**ふじみ**：国道 353 号沿いに、富士見温泉見晴らしの湯ふれあい館に併設の道の駅「ふじみ」(前橋市富士見町石井)があり、全国の行ってみたい温泉のある道の駅の第 1 位に選ばれたことがあります。



ふじみ

●ぐりーんふらわー牧場・大胡：国道 353 号沿いの道の駅「ぐりーんふらわー牧場・大胡」（前橋市滝窪町）は、オランダ風車が特徴づけられる大胡ぐりーんふらわー牧場に併設されています。

●くろほね やまびこ：国道 122 号沿いには、道の駅「くろほね やまびこ」（桐生市黒保根町下田沢）があります。

●あぐりーむ昭和：関越自動車道の昭和 IC 付近から始まる利根沼田望郷ライン沿いに、道の駅「あぐりーむ昭和」（利根郡昭和村森下）があります。



ぐりーんふらわー牧場・大胡

●南郷温泉：県道 62 号沿いに日帰り温泉施設の南郷温泉 しゃくなげの湯（沼田市利根町日影南郷）があり、併設施設は道の駅に認定されていませんが、ほぼ同等の設備が整っています。

●道の駅 白沢：国道 120 号線沿の片品川河岸段丘上にある道の駅（沼田市白沢町平出）で、日帰り温泉施設（望郷の湯）を併設しています。露天風呂から、河岸段丘を越えて見る赤城山は絶景です。

●道の駅 こもち：国道 17 号・353 号沿いにある道の駅（渋川市白井）で、近くに白井宿、白井城址、白井温泉 こもちの湯（渋川市吹屋）があります。

13-12. 力士

●赤城山晃：藤岡市出身で、時津風部屋に所属していた大相撲力士で、最高位は東十両 10 枚目でした

●栃赤城雅男：沼田市出身で、春日野部屋に所属していた大相撲力士で、最高位は東関脇でした。柔道出身だったため取り口が多彩で、サーカス相撲と言われていました。

12-13. AKGIDAN（群馬のご当地アイドルグループ）

かつて AKG48 と呼ばれた群馬県発のご当地アイドルグループで、AKG は群馬を代表する赤城に由来します。また、キャッチコピーは、A「あかるく」、K「かわいく」、G「げんきよく」です。

13-14. 赤城の輝き（バラ品種）

前橋市オリジナルのバラ品種で、2010 年 3 月に品種決定、同年 9 月に登録されました。花の色が蕾の段階から、黄、オレンジ、赤の三段階に変わるのが特徴です。

13-15. 超速戦士 G-FIVE

アカギレッド、ハルナブルー、ミョウギイエロー、上州源龍、上州源仙の 5 つのキャラクターで構成されています。戦いは一切しないのが特徴です。

13-16. 国民体育大会（あかぎ国体）・身体障害者スポーツ大会（愛のあかぎ大会）

1983年、群馬県下において、冬季・夏季・秋季のうち、ヨット競技を除く全種目が開催された第38回国民体育大会は「あかぎ国体」の愛称で呼ばれ、キャッチフレーズは「風に向かって走ろう」でした。

また、秋季大会に続いて行われた第19回身体障害者スポーツ大会は、「愛のあかぎ大会」の愛称がつけられました。

13-17. 群馬県地域共同リポジトリ AKAGI

Academic Knowledge Archives of Gunma Institutes（群馬県地域共同リポジトリ）の略で、群馬大学図書館が主幹となり、群馬県内にある大学等の学術研究成果および県立図書館が所蔵する郷土関係資料等の知的文化財をデータベース化し、WEBを通して県内外・海外に広く公開する学術情報システムです。

第 14 章．湖・河川・用水・滝

火山の裾野は水の浸透性が高く、そのような場所はいつも水不足に悩まされます。赤城山山麓でも例外ではなく、古くから農業用水の確保に苦勞したようで、南側山麓には多数の溜池があり、その密度は讃岐平野に次いでいます。また、農業用水確保のために多くの用水が作られました。

14-1. 湖

●大沼：赤城山山頂の大沼は、水面標高 1,341m のカルデラ湖です。現在の大沼は、面積約 88 万 m² (88ha)、湛水量約 880 万トン、周囲約 4.5km、最大水深約 16.5m とされていますが、発表文献によって多少の相違がみられます。沼尾川の源流であるとともに、長さ約 1.7km の導水トンネルで赤城白川に水を流し、赤城大沼用水として利水されています。

大沼には年間約 1,000 万トンの水が流入し、ほぼ入れ替わるのに約 2 年 4 か月かかるといわれています。

●小沼：小沼火山の火口に湛水した火口湖で、そのサイズは直径約 350m、水深約 8m です（資料によって差があり）。水面の標高は 1,474m で、粕川の源流です。

●覚満淵：古大沼湖の水位が下がって取り残された湿地帯で、水深約 1m の小池の北東側の半島部分は高層湿原への移行状態となっており、ミズゴケなどの植物が腐敗せずに堆積した厚さ 2.5～3m の泥炭層が確認されています。覚満淵は、関東地方で最も南に位置する高層湿原であるとされています。

かつての覚満淵は、中心部を周囲からの湧水が集まった小川が流れる湿地帯で、明治時代以降、1945 年頃まで牧場として利用されていました。1920 年代（大正時代）、放牧家畜の水確保のために北西部に堰堤が築かれ、現在の小池ができました。

小池の底で、円形に白くなっている部分は、周囲に降った雨水が地下を浸透して湧き出しているところです。覚満淵から流出した水は覚満川を通過して大沼に流入していますが、途中で大きく蛇行しているのは、かつて大沼の湖面がこの付近まで高かったことを示しています。覚満川ではウグイの産卵が見られます。

●古大沼・オトギの森湖・新坂平湖：3 万年以上前は、山頂カルデラ内全体に水が溜まって楕円形の大きな湖がありましたが、その後の小沼火山・地蔵岳・見晴山といった中央火口丘の出現によって、古大沼（面積約 180ha）、オトギの森湖、新坂平湖の 3 つに分断されました。さらに、粕川、沼尾川によってカルデラ壁が破られ、オトギの森湖、新坂平湖は消失し、古大沼は縮小して、大沼と覚満淵に分断されました。

14-2. 河川

赤城山では山頂から山麓に向かって放射谷がよく発達しており、それらの深さは 100m を越えるものがあります。放射谷は赤城山の主成層火山の形成から今日に至るまでの活動歴、山頂や山麓の地形、特に山麓扇状地の発達と密接に関係しています。

●赤城川：黒檜山北西面から北に向かって流れ、沼田市利根町青木で、片品川に合流します。

●**赤城白川**：新坂平直下を源流とし、山頂カルデラ壁を破って南西に流れ、前橋市北代田町・下細井町で桃木川に合流する、赤城山では最大の河川です。比較的大きな山麓扇状地を形成し、前橋市青柳町～下細井町・北代田町にかけては、川床が周囲より高い天井川になっている部分があります。

1947年のカスリーン台風による大雨で、富士見地区で大規模な土石流が発生し、大きな被害が発生しました。

●**沼尾川**：大沼の沼尻から流出し、山頂カルデラ壁を破って西に向かって流れ、渋川市赤城町津久田で利根川に合流します。

赤城白川と同様、1947年の大雨による大規模な土石流で、深山・津久田地区で甚大な被害が発生しました。

●**粕川**：小沼から小沼火山の火口壁と山頂カルデラ壁を破って南に流出し、下流に山麓扇状地を作り、伊勢崎市下蓮町・境上武士町で広瀬川に合流します。粕川が小沼火山の火口壁を破ってオトギの森に達した先には小滝があり、ここではオトギの森湖の湖成層が見られます。粕川が山頂カルデラ壁を破るところが銚子の伽藍で、ここから滝沢の不動滝までの間はガラン沢と呼ばれ、両側が切り立った絶壁となり、錦の滝、夫婦滝、かめ割の滝、修行の滝などが連続しています。冬季は氷柱や氷瀑が見られます。

●**荒砥川**：荒山直下から南に向かって流れ、伊勢崎市安堀町で広瀬川に合流します。山麓扇状地を作り、一部は天井川となっています。

●**片品川**：群馬県・栃木県・福島県境の黒岩山(2,163m)を源流とする片品川は、沼田市利根町南郷地区まで南流し、ここから90°方向を変えて西流し、昭和村森下で利根川に合流します。南郷地区から森下間には数段に及ぶ見事な河岸段丘が見られ、教科書に載ったことがあります。もし赤城山がなかったら、片品川はそのまま南流を続け、伊勢崎市東部（早川の流路）を流れて利根川に合流していたことでしょう。

●**根利川**：赤城山の東麓を北流し、沼田市利根町日影南郷で片品川に合流します。赤城山がなかったら、沼田市利根町根利で、南流してくる片品川に合流していたでしょう。

●**鳥居川**：鳥居峠直下から東流し、利平茶屋を経て桐生市黒保根町水沼で渡良瀬川に合流します。

●**小黒川**：小黒檜山を源流として南流し、桐生市黒保根町水沼で渡良瀬川に合流します。この川の流路が赤城山と足尾山地の境界となります。小黒川と小出屋峠を越えた根利川は紅葉の頃は見事です。

14-3. 用水

●**赤城大沼用水**：前橋市富士見町出身で、江戸時代末期～明治時代初期の農業研究家 船津傳次平の構想を基に、木村與作、樫沢政吉、須田惇一らの努力によって1957年に完成した、全長11.2kmの用水です。大沼の沼尻から新坂平下を通過して地獄谷に至る約1.7kmのトンネルを掘って赤城白川に導水し、箕輪地区で取水して358haを灌漑しています。この用水の完成により、富士見村（現 前橋市富士見町）では本格的な稲作ができるようになりました。沼尾川流出口横にある大沼用水取水水門脇には、用水建設に尽力した樫沢政吉の顕彰碑が建っています。

前橋市富士見町赤城山 大河原地区には、2基のサイホン式円筒分土工があります。2018年には、用水を利用した2つの小水力発電所（赤城大沼用水発電所、前橋赤城山小水力発電所）が稼働を始めました。

●**大正用水**：渋川市北橋町真壁で利根川から取水し（現在は佐久発電所の放水を利用）、伊勢崎市香林町の早川に至る用水で、赤城南麓の標高160～100mの地域を灌漑しています。

●**群馬用水**：利根川上流の八木沢ダム（奥利根湖）と奈良俣ダム（ならまた湖）に貯水した水を綾戸ダム（昭和村大字川額・沼田市岩本町）から取水し、赤城山南麓と榛名山東麓を、自然流下（標高250m以下）とポンプアップ（標高約450mまで）して灌漑するとともに、一部は水道水・工業用水としても利用しています。

●**赤城西麓農業用水**：県営畑地帯総合整備事業として建設された用水です。赤城山東麓を北流する根利川から取水し、赤城山北麓～西麓の沼田市利根町、昭和村、渋川市赤城町・北橋町、前橋市富士見町地域1,635haを畑地灌漑しています。未完成ですが、受水している地区は野菜の大産地となり、特に、昭和村のレタス栽培は有名です。

昭和村で面白い点は、道路が赤城山に向かって直線状に伸び、それに直行する道路で長方形に区割りされていることです。赤城高原の原野を開拓して畑地にする際、計画的な区割りが行われたことを示しています。

●**溜池群**：赤城山南麓の水不足を解消するため、香川県讃岐平野に次ぐ密度で、多数の溜池が造られました。赤城山南麓の現存の溜池は湧水利用のものが多く、2015年時点で153個が点在し、最大の溜池は1952年完成の寺沢ダム（高さ15.5m、貯水量13.7万m³、有効貯水量11.5万m³）です。

●**女堀**：赤城南麓の前橋市上泉町で取水して伊勢崎市西国定町までの約13kmにわたる、古代末期～中世初期の未完成用水遺跡です。幅15～20m、深さ3～4mの掘削跡が残され、一部は1983年に国指定史跡となりました。伊勢崎市下触町では、女堀跡の整備保存の一環で赤堀しょうぶ園として利用されています。

14-4. 滝

赤城山山中にある滝の多くは、火山活動で形成された溶結凝灰岩や角礫凝灰岩・集塊岩の岩壁を流れ落ちています。溶結凝灰岩や角礫凝灰岩・集塊岩は場所によって硬軟が異なっていて浸食の速度が違うため、滝が形成されやすいのです。

●**小中大滝**：赤城山山体域に含まれてはいませんが、小中大滝（みどり市東町小中）は小中川に懸かる赤城山周辺では落差最大（96m）の滝です。小中大滝に行く登山道にある「けさかけ橋」は、最大斜度44%の超傾斜つり橋（珍百景認定）であることが特徴です。

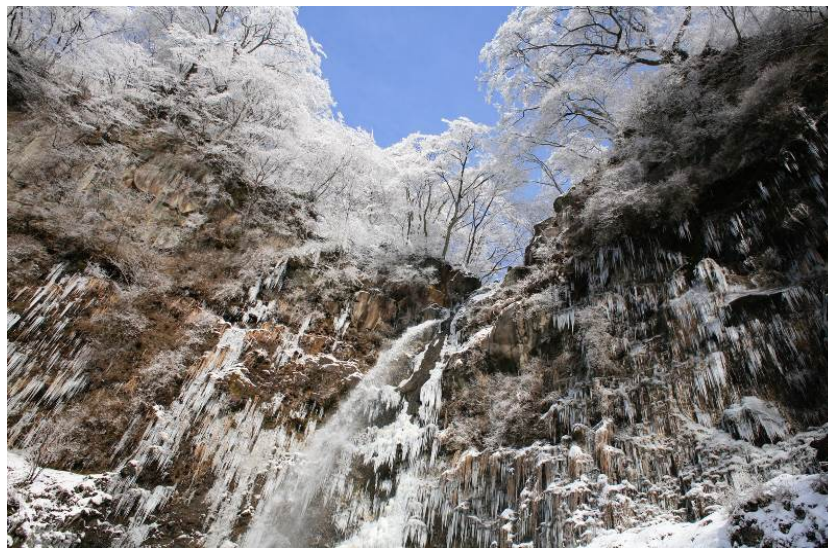
●**棚下不動の滝**：渋川市赤城町棚下にある落差37mの滝（雄滝）で、溶結凝灰岩の崖を落下しています。崖の下部は未溶結の軽石層のため大きな空洞になり、以前は裏側から滝を眺めることができました。しかし、2011年3月11日の東日本大震災で崖の一部が崩落したため、滝の裏側に行くのは禁止されています。2018年、新たな道が左岸に整備されて滝の近くまで安全にアクセスできるようになりました。

雄滝の北側に雌滝がありますが、歩道がなく、アクセスは不可能です。

●**滝沢の不動滝**：粕川に懸かる落差 32m の滝で、溶結凝灰岩の壁を一気に流れ落ちていきます。冬季になると氷結し、大きなツララが垂れ下がります。滝澤不動尊から滝沢の不動滝間の廊下状地形（川の両側が崖となって狭くなっている地形）は、滝沢の不動滝が溶結凝灰岩の岸壁を侵食しつつ後退したことによってできました。15（13）万年の溶結凝灰岩の堆積から現在まで間に、相当侵食が進んでいることを示しています。



棚下不動の滝



滝沢の不動滝

●**旭の滝・乙女の滝・大猿の滝**：前橋市粕川町中之沢から大猿川沿いを登るとおおさる山乃家があり、さらに登ると南に旭の滝、北に登ると乙女の滝、大猿の滝があります。乙女の滝は、滝の半分から上が細い溝状になっており、そこを勢いよく下った水は、滝の中央部で噴水のように跳ね上がります。このタイプの滝ははね滝やヒョングリの滝とも呼ばれます。



旭の滝



乙女の滝



大猿の滝

●玉簾の滝・朝日の滝・亀割の滝：荒砥川に懸る滝で、いずれも落差約 10m です。玉簾の滝は赤城温泉、朝日の滝は忠治館のすぐ近くにあり、露天風呂に浸かりながら見られます。

●三崖の滝：鳥居川に懸かる落差約 40m の滝で、利平茶屋から約 15 分登った所にあります。

●三段の滝：猿川の上流にある滝で、水量は少ないですが 3 段になって、約 130m の落差で流れ落ちています。

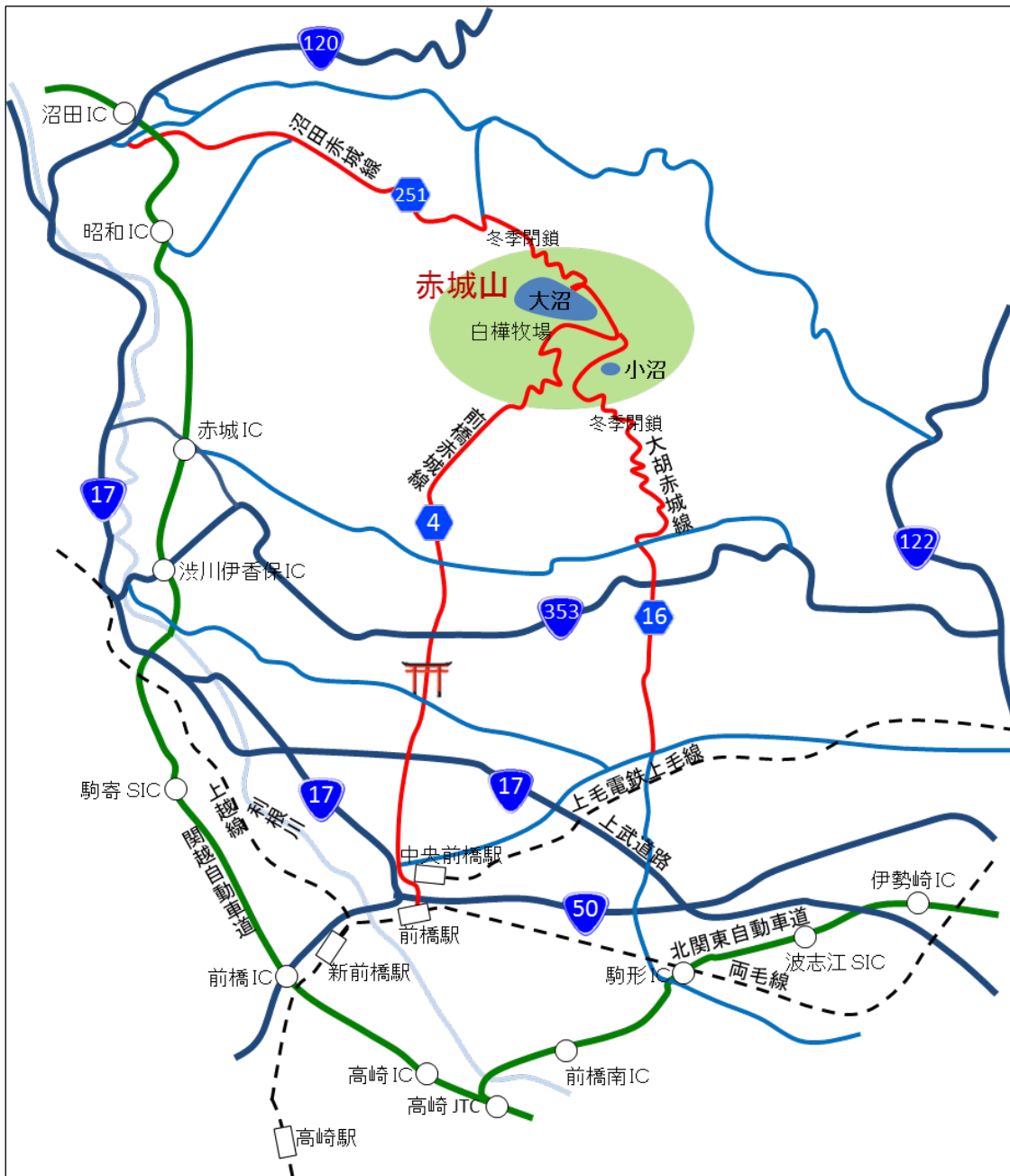
●赤城川の四滝：赤城山の北面を流れる赤城川には、下流から砂川大滝（落差 30m）、ゴロスの滝（落差 8m）、中滝（落差 20m）、銚子の滝（落差 12m）があり、これらは総称して赤城川四滝とも呼ばれています。赤城川の完全踏査はベテランの案内が必要です。

●沼尾川の滝：大沼から流出する沼尾川には、下流部から潜上の滝（落差 5m）、スズラン滝（落差 15m）、トマの滝（落差約 8m）、スズランの滝（落差 20m）が続きます。この沢登りルートはベテラン向けなので、沢登り用の完全装備をしたうえで、沼尾川をよく知る方の案内が必要です。

第 15 章. 交通・インフラ

15-1. 自動車通行可能な登山道路

赤城山頂への自動車道路は 3 本あり、前橋方面からの県道 4 号（前橋赤城線）は「赤城白樺ライン」、南面を登る県道 16 号（大胡赤城線）は「赤城南面登山道」、「赤城サンダーボルトライン」、「スカイボルトライン」、北面から登る県道 251 号（沼田赤城線）は「赤城北面道路」の愛称で呼ばれています。県道 4 号の前橋市富士見町赤城山新地～大河原付近の両側には、蕎麦屋が多くあるのでそば街道とも呼ばれ、また、夏にはトウモロコシの販売店が立ち並びます。



赤城山山頂へのルート

県道 4 号は、1920（大正 9）年に黒保根前橋線として前橋市連雀町（現 前橋市本町 2 丁

目五差路)－鳥居峠(現 前橋市富士見町赤城山1番地)間が県道指定され、起点 前橋市本町2丁目五差路、終点 鳥居峠は変わらず、前橋赤城線として現在に至っています。

1966(昭和41)年、前橋市富士見町小暮－前橋市富士見町赤城山間が県営の赤城山南面有料道路(愛称:赤城白樺ライン)として整備され、1995(平成7)年に無料化されました。

県道251号は、1959(昭和34)年に沼田赤城線として利根郡利根村(現 沼田市上沼須町交差点)－勢多郡富士見村大字赤城山(現 前橋市富士見町赤城山－大間々上白井線交点)間が県道指定されました。1982(昭和57)年、県営の赤城山北面有料道路として整備されましたが、1995(平成7)年、赤城山南面有料道路と一緒に無料化されました。

県道16号は、1920(大正9)年に大胡赤城線として勢多郡大胡町(現 前橋市堀越町交差点)－同郡宮城村大字三夜沢(現 前橋市三夜沢町)－赤城神社間が県道指定されましたが、その後、赤城神社以北が赤城温泉を経て勢多郡富士見村(現 前橋市富士見町赤城山)の前橋赤城線交点まで延長され、1959(昭和34)年に指定されました。しかし、赤城温泉－八丁峠間は、道幅も狭くカーブも多いため、通年にわたって大型車、大型特殊車、特定中型車(マイクロバスを含む)の通行は禁止され、中型車の通行も困難です。また、12月下旬～4月上旬の間は冬季閉鎖となります。

県道251号の沼田市利根町砂川(旧有料道路料金所)から大沼周遊道路交差点の間も、1月上旬～3月下旬の間は冬季閉鎖となります。県道16号と県道251号が冬季閉鎖の間は、赤城山山頂へのアクセス可能な道路は県道4号の1本だけとなります。

赤城山山頂域にはその他に県道70号と157号が指定されていますが、県道70号(大間々上白井線)は、起点 みどり市大間々町6丁目交差点、終点 渋川市上白井国道17号交差点で、鳥居峠－新坂平(赤城山白樺牧場)間は県道4号と重複しており、また、利平茶屋－鳥居峠間、赤城山白樺牧場－渋川市赤城町溝呂木(赤城自然園から東へ約1km先)間は通行不能区間です。

県道157号(赤城山敷島停車場線)は、起点 前橋市富士見町赤城山1番地2号(大洞方面・沼尻方面三差路)、終点 渋川市赤城町敷島(JR敷島駅)で、赤城山大沼沼尻－渋川市赤城町深山(赤城キャンプ場)間は通行不能区間です。

15-2. 赤城山への登山バス

●**直通バス**：土日祝日には、関越交通バスが、前橋駅－赤城山ビジターセンター間の直通バスが運行されています。「ようこそ赤城山へ」の言葉と、黒檜山、レンゲツツジの花、小暮一の鳥居、ぐんまちゃんがラッピングされたバスでは、車内案内の際、前橋市出身の作曲家 井上武士の「チューリップ」が流れていました。6月～10月の直通バスのうち第1便は、赤城自然塾の赤城山環境ガイドボランティアの皆さんがガイドを行っています。

●**一般路線バス**：前橋駅－富士見温



直通バス(前橋駅－赤城ビジターセンター間)のラッピング

泉は、関越交通バスと日本中央バスが運行しています。富士見温泉－赤城山ビジターセンター間は関越交通バスが運行しているので、乗り換えて赤城山の山頂まで行くことができます。

15-3. 国道 17 号（上武道路）

熊谷渋川連絡道路は鴻巣市～渋川市間を結び、国道 17 号（東京都中央区日本橋－新潟県新潟市：長岡市－新潟市間は国道 8 号と重複）の交通混雑を緩和するバイパスの役割を果たすために造られた地域高規格道路で、その一部区間（埼玉県熊谷市西別府の上武 IC～前橋市田口町の田口南交差点）40.5km が上武道路に該当します。上武国道とも呼ばれます。全通は 2017 年 3 月ですが、深谷と前橋地内で一部片側 1 車線部分があるため拡幅工事が継続して行われています。

上武道路の北半分は赤城山南麓を通過しており、伊勢崎市境上湊名町で県道 291 号（境大間々線）および県道 2 号（前橋館林線）、伊勢崎市西小保方町で県道 68 号（桐生伊勢崎線）、伊勢崎市三和町で JR 両毛線、伊勢崎市五目牛町で北関東自動車道（E50：高崎 JCT－ひたちなか IC（岩船 JCT－栃木都賀 JCT 間は東北自動車道と重複）、145.2km（東水戸道路 10.2km を含む）、国道 462 号・県道 73 号（伊勢崎大間々線）、前橋市二之宮町で県道 74 号（伊勢崎大胡線）、前橋市今井町で国道 50 号（前橋市－水戸市）、前橋市富田町で県道 40 号（藤岡大胡線）および県道 76 号（前橋赤堀線）、前橋市亀泉町で上毛電鉄・上毛線および県道 3 号（前橋大間々桐生線）、前橋市上細い町・富士見町時沢で県道 4 号（前橋赤城線）、前橋市青柳町で県道 151 号（津久田停車場前橋線）、前橋市日輪寺町で県道 161 号（南新井前橋線）、前橋市田口町で国道 17 号と立体交差します。また、伊勢崎市三和町で北関東自動車道と接続（伊勢崎 IC）しています。前橋市田口町以北は吉岡バイパス（国道 17 号）となり、渋川市半田で国道 17 号（旧道）に合流します。

上武道路と吉岡バイパスは全線にわたって赤城山のビュースポットが続き、その姿の変化が楽しめます。

15-4. 国道 353 号

国道 353 号（桐生市－新潟県柏崎市）は東国文化歴史街道の愛称で呼ばれる道路の一部で、赤城山南面道路ともいわれ、この道路が作られた昭和初期には、前橋市富士見町（当時は富士見村）では開拓道路と呼んでいました。路線には夜景スポットが随所にあります。

前橋市柏倉町－三夜沢町間で国道 353 号が蛇行しているのは、赤城山南面の山体崩壊のデブリが堆積しているからです。さらに、一部で道路が U 字型に急カーブを描くのは、小河川によって作られた谷を越えるためです。カーブがきつい場所では、緩くするための工事が行われています。

前橋市嶺町の嶺公園付近の国道 353 号を時速 40km 程度で東進すると、道路の舗装面に刻んだ細かい溝から発せられる音が、前橋市出身の井上武士が作曲したチューリップのメロディーとなります。このような道路構造をメロディーラインといいます。

なお、国道 353 号は、群馬県中之条町四万温泉と新潟県湯沢町三国の間が未開通です。

15-5. 関越自動車道

関越自動車道（E17：練馬 IC～長岡 JCT、246.3km）は NEXCO 東日本の高速道路（高速自動車国道）で、渋川伊香保 IC から沼田 IC 間は赤城山の西麓を通り、この間の最高速度は時速 80km です。渋川伊香保 IC から沼田 IC 間には、IC が 2 ヶ所（赤城 IC、昭和 IC）、サービスエリアが 1 ヶ所（赤城高原 SA）、パーキングエリアが 1 ヶ所（赤城 PA：赤城 IC に併設）、長さ 500m 以上の橋が 3 本（利根川橋、沼尾川橋、片品川橋）、トンネルが 1 本（長井坂トンネル：543m）あります。

関越自動車道の路線中で、赤城 IC～昭和 IC 間の永井川に架かる永井川橋（橋長 480m）の橋梁高 75.7m は日本で、昭和 IC～沼田 IC 間の片品川に架かる片品川橋（橋長 1,034m、橋梁高 70m）はトラス構造の道路橋としては、最長主径間（168.9m）が日本一の長さです。これらの橋は、赤城 IC～昭和 IC 間にある沼尾川橋とともに 1985 年、土木学会田中賞を受賞しました。これらの橋の橋梁高が大きいのは、赤城山西麓では火砕流堆積層が厚く積もっており、放射谷が深く刻まれているためです。

なお、関越自動車道は利根川の水面より 100m 以上も高い場所に建設されており、沼田ダム（建設中止）の計画で水没することになっていた国道 17 号、JR 上越線の付け替え路線とほぼ一致しています。この地区は、梅雨時になると南から湿った気流が入り込み、利根川と赤城源流の支流の水が冷たいため冷やされて霧が発生しやすいところです。1998 年の関越自動車道開業からしばらくの間は濃霧による交通止めが頻発しましたが、照明設備の改善、霧除けネットの設置などにより、交通止めはほとんどなくなりました。

冬季に強力な寒波がやってくると、渋川伊香保 IC から先は、冬用タイヤやチェーンの装着規制が行われます。

15-6. その他の道路

●**東国文化歴史街道**：旧石器時代から江戸時代における歴史文化を巡る観光ルートです。赤城山山麓では、国道 353 号（みどり市大間々町大間々ー前橋市富士見町小暮・畜産試験場交差点間）、県道 4 号前橋赤城線（前橋市本町 2 丁目交差点（起点）ー前橋市富士見町小暮・畜産試験場交差点間）が含まれています。

●**上毛三山パノラマ街道**：上毛三山（赤城山、榛名山、妙義山）を眺める街道の愛称です。県道 251 号（沼田赤城線：沼田市上沼須町ー前橋市富士見町赤城山間）、県道 4 号（前橋赤城線：前橋市富士見町赤城山ー前橋市富士見町小暮間）、県道 34 号（渋川大胡線：前橋市富士見町小暮ー渋川市下郷間）が含まれています。

●**利根沼田望郷ライン**：赤城西麓広域農道、県道 251 号（沼田赤城線）、県道 62 号（沼田大間々線）の一部が、利根沼田望郷ラインに含まれています。望郷ライン・センチュリーライドは、18～110 km を自転車でするイベントで毎年 8 月の最終日曜日に開催されます。

●**奥利根ゆけむり街道**：県道 251 号（沼田赤城線）と県道 255 号（下久屋渋川線）の一部は、奥利根ゆけむり街道に含まれています。

●**赤城南麓広域農道**：渋川市赤城町溝呂木から桐生市新里町赤城山間の赤城南麓広域農道は、第二赤城南面道路や空っ風街道と呼ばれています。広域農道が開通する以前は、三夜沢赤城神社参道松並木を空っ風街道と呼んでいました。

●**関東ふれあいの道**：東京都八王子市 梅の木平を起終点に、高尾山、奥多摩、秩父、妙義山、榛名山、赤城山、太平山、筑波山、霞ヶ浦、九十九里浜、房総、三浦半島、丹沢などを結んで関東1都6県を一周する、総延長1,799kmの長距離自然歩道です。

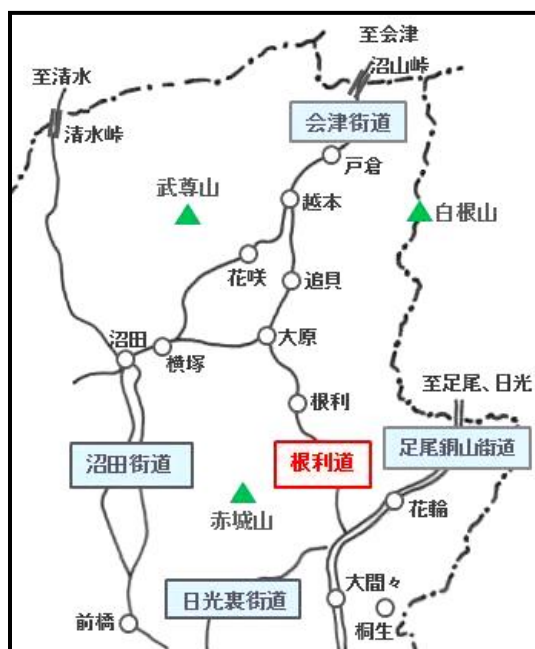
赤城山周辺のコースでは、いにしへの文化のみち（10.1km、渋川市赤城町華蔵寺バス停－渋川市赤城町深山）、カラマツと熊笹のみち（11.8km、渋川市赤城町深山－前橋市富士見村赤城山）、ツツジのみち（12.0km、前橋市富士見町赤城山－赤城温泉：前橋市苗ヶ島町甲）、山里のいで湯のみち（2.6km、赤城温泉－忠治温泉：前橋市苗ヶ島町）、赤城南面陽光のみち（8.0km、前橋市三夜沢町－桐生市新里町上板橋）、梨木へのみち（12.2km、桐生市新里町上板橋－桐生市黒保根町本宿）、雑木の山路（水沼駅：桐生市黒保根町水沼－桐生市黒保根町本宿）、花見ヶ原高原ハイキングコース（花見ヶ原キャンプ場：桐生市黒保根町下田沢－桐生市黒保根町麦久保）があります。

15-7. 旧街道

●**沼田街道**：赤城山西麓には、厩橋（前橋）と沼田を結ぶ沼田街道があり、江戸時代は交易だけでなく、沼田藩の大名行列に利用されました。前橋街道や清水越往還、利根川東通りなどとも呼ばれていました。現在もルートの手前を辿ることができ、米野（こめの）、溝呂木（みぞろぎ）、南雲（なぐも）、森下では宿場の面影を見ることができます。

沼田街道の西街道が通る渋川市赤城町津久田でも、宿場の名残が見られます。

●**根利道**：銅山街道の黒保根から分かれ、小出屋（こでや、こじや）峠を越えて根利を通過してコムギ峠（コモギ峠、小吹峠、小蓬峠とも呼ばれる）を経て穴原に至り、大原で会津（沼田）街道と一度交わり、さらに金精峠を越えて日光東照宮に至る日光裏街道です。沼田市利根町根利では、道路の形状が宿場の面影を残しています



赤城山周辺の旧街道

●**銅山街道**：会津街道のさらに東側には、渡良瀬川に沿って、平塚河岸（伊勢崎市境平塚町）まで足尾の銅を運んだ銅山街道（あかがねかいどう）が走っていました。

●**大胡道**：日光例幣使街道の柴宿（伊勢崎市柴町）から分かれて大胡を通り、神梅で銅山街道に至る街道で、日光東照宮参りのための裏街道の1つでした。

15-8. 赤城山山頂の峠

自動車道が整備される以前は、山麓から徒歩で赤城山に登り、山頂カルデラを取り囲む外輪山の峠を越えて、大沼湖畔の大洞に至りました。代表的な峠越えの道には次のものがあります。

●**前橋道**：前橋市（富士見町）方面から赤城白川沿いに箕輪、一杯清水を経て、新坂平（新坂峠）を越えました。一杯清水からテンヤ坂を登って軽井沢峠に至り、八丁峠を越えて大洞に至るルートもありました。

●**鳥居峠越え（柏山通り）**：みどり市、桐生市（黒保根町）方面から鳥居川沿いに水沼ー利平茶屋を経て鳥居峠に達する、かつての赤城山山頂へのメインルートでした。水沼道とも呼ばれました。

鳥居峠から見た覚満淵、大沼、五輪峠などの景観は、極楽浄土に例えられたそうです。

●**渋川道**：渋川市（赤城町溝呂木）方面から桜沢沿いに登り、桜沢の大ゾロを経て姥子（うばこ）峠を越えました。大洞に至るには、さらに新坂平（新坂峠）または出張（でばり）峠を越えました。

●**敷島道**：渋川市（赤城町敷島）方面から溝呂木を通り、六道辻を経て楢柄（くわがら）峠を越えました。大洞に至るには、さらに新坂峠または出張峠を越えました。前橋道の箕輪から六道辻に行く道もありました。

●**深山道**：渋川市（赤城町）方面から沼尾川沿いに深山（みやま）を通り、出張峠を越えました。

●**沼田道**：沼田市（沼田）・昭和村方面から船ヶ鼻（山）を経て野坂峠を越えました。

●**二本檜道・根利道**：沼田市（利根町追貝・根利）方面から赤城川沿いに登り、古五輪峠・新五輪峠を越えました。

●**梨木道**：桐生市（新里町）から梨木を通して深沢川沿いに登り、茶の木畑峠を越えました。大洞に至るには、さらに八丁峠を越えました。

●**小峰通り**：桐生市（新里町奥沢）から赤城山に登る古道で、梨木道を併せて茶の木畑峠を越えました。

●**湯ノ沢道**：前橋市（大胡地区）から赤城温泉（旧名は湯之澤温泉）を経て、粕川に沿った尾根に登り、牛石峠を越えました。大洞に至るには、さらに八丁峠を越えました。

●**三夜沢道**：前橋市（大胡地区）から三夜沢を経て荒砥川に沿った尾根に登り、軽井沢峠を越えました。大洞に至るには、さらに八丁峠を越えました。

15-9. 鉄道路線

●**JR 東日本路線（上越線・両毛線）**：赤城山西麓の利根川に沿って JR 上越線（高崎駅～宮内駅）が走っています。敷島駅～津久田駅駅間の利根川左岸の灰白色の崖は、赤城山から流れ下った棚下火砕流の溶結凝灰岩です。ただし、津久田駅と岩本駅間の津久田トンネルは、古子持山の溶岩（安山岩）を掘削したものです。上越線の高崎駅～水上駅間には、土曜・日・祝日、観光シーズンになると、蒸気機関車 D51-498 号機や C61-20 号機が牽引する列車が運航されます。

赤城山南麓には JR 両毛線（新前橋駅～小山駅）が走っています。両毛線が前橋駅～桐生駅間を最短距離で結ばず、伊勢崎駅を通っているのは、伊勢崎の物産を運ぶためだけでなく、途中の前橋市城南地区に赤城山の山体崩壊の堆積物があって傾斜がきついため、蒸気機関車ではパワー不足で運航に支障があるため、南に迂回させたとの説もあります。

●**上毛電気鉄道 上毛線**：赤城山南麓、中央前橋駅と西桐生駅間を、私鉄の上毛電気鉄道 上毛線（通称 上電）が結んでいます。このローカル鉄道の車両は東急 井の頭線を走っていた電車を譲り受けたもので、混雑時を除くと、無料で自転車を持ち込むことができます。

荒砥川橋梁（前橋市茂木町～大胡町）、粕川橋梁（前橋市粕川町女淵～西田面）、渡良瀬川橋梁（桐生市堤町～相生町）、大胡駅舎・電車庫・変電所（前橋市茂木町）、西桐生駅（桐生市宮前町）は、国登録有形文化財に登録されています。



上毛電気鉄道の「デハ 101 号」と荒砥川橋梁

上毛電気鉄道が所有している「デハ 101 号」は、1928 年製造の日本一古い現役電車で、マスコット車両として大胡駅の車庫で大切にメンテナンス・保存されており、

今でもイベント運行や貸切り運行が行われています。赤城駅には東武鉄道 桐生線（太田駅～赤城駅）が乗り入れており、浅草駅から特急「りょうもう号」が直通運転しています。

●**わたらせ渓谷鐵道**：かつて、足尾の銅を輸送するために敷設された鉄道路線で、銅輸送が終了した後も国鉄足尾線として運行されていました。しかし、採算が悪く、1987（昭和 62）年の国鉄分割民営化によって誕生した JR 東日本は業務引継ぎを断念して廃線を計画しましたが、第 3 セクターの運営として継続となり、名称も足尾線からわたらせ渓谷鐵道となりました。赤城山東麓の桐生駅と間藤（まとう）駅間を渡良瀬川に沿って結び、通称は「わ鐵」です。あえて旧漢字の「鐵」を使ったのは、「鉄」は金を失うと書くからだそうです。わ鐵の 38 施設が国登録有形文化財に登録されています。

かつての赤城山登山のメインルートの出発点の 1 つであった水沼駅には、ホーム上に日帰り温泉施設が併設されています。

15-10. JR 東日本送電線

赤城山の西麓を通り、前橋市富士見町時沢で県道 4 号と交差する送電線（15.4 万ボルト）は、新潟県小千谷市にある JR 東日本の信濃川発電所（小千谷、新小千谷、千手の 3 発電所を一括。総出力約 45 万 kW）から首都圏に電力を送る送電線で、JR 東日本の電力消費量の約 25% をカバーしています。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の際に電力不足になっても、首都圏の JR 線で電車が走れたのは、この送電線から送られた電力の寄与が大きかったためです。

15-11. 東京電力東群馬変電所

赤城山の北面や東面には巨大な送電線があり、いずれも 1999 年に完成した 50 万ボルト対応の東群馬変電所（沼田市利根町根利）に接続しています。東京電力は、関東圏を取り

囲む 50 万ボルトの基幹送電線の外側に、新たに 100 万ボルト設計の基幹送電線系統の建設をすすめ、新潟県と福島県の原子力発電所（2019 年現在では、福島第一原子力発電所と福島第二原子力発電所は廃止、柏崎刈羽原子力発電所は休止中）で発電した電力を首都圏に送る拠点変電所としての役割を担うために東群馬変電所を建設しました。東群馬変電所は当面の間は 50 万ボルトで運用し、将来的には設備を拡充して、世界初の 100 万ボルト変電所として運用する計画となっています。

この変電所に入出する送電線は、榛名山北山麓の西群馬開閉所へ続く東群馬幹線（50 万ボルト）、南いわき開閉所へ続く南いわき幹線（50 万ボルト）で、この 2 線は 100 万ボルト用に設計されています。さらに、新新田変電所（太田市新田市町）へ続く新赤城線（50 万ボルト。新田変電所（太田市別所町）へ続く J パワーの 27.5 万ボルトと併用）と奥只見発電所・田子倉発電所へ続く J パワーの奥只見線（27.5 万ボルト）が接続しています。

東群馬変電所は、所在地が赤城山の北東側標高約 1,100m で、50 万ボルト変電所としては日本で一番標高の高いところに位置しています。

15-12. ダム

●**綾戸（あやど）ダム**：沼田市岩本町・昭和村大字川額で利根川を堰き止める、東京電力所有の発電用重力式コンクリートダム（堤頂高 14.5m、堤頂長 118.6m）で、左岸で取水した水は佐久発電所に送られます。また、群馬用水は右岸で取水しています。

●**菌原（そのはら）ダム**：沼田市利根町菌原で片品川を堰き止める、国土交通省関東地方整備局が管理する特定多目的（洪水調節、不特定利水、発電）の重力式コンクリートダム（堤高 76.5m、堤頂長 127.6m）で、利根川水系 8 ダムのうち 3 番目に建設されたダムで、1965 年に完成しました。ダム湖は「菌原湖」と呼ばれ、片品川だけでなく根利川からも取水しています。



菌原ダム

●**平出（ひらいで）ダム**：沼田市白沢町平出で片品川を堰き止める、群馬県企業局所有の発電用重力式コンクリートダム（堤高 40.0m、堤頂長 87.0m）で、ダム湖は「みさと湖」と呼ばれています。完成は 1964 年です。

●**真壁（まかべ）ダム**：渋川市北橘町真壁にある重力式コンクリートダム（堤高 20.1m、

堤頂長 535.6m) で、赤城山西麓の傾斜地に佐久発電所用の調整池（真壁調整池、真壁湖）を造るために建設されました。堤高が低く幅が広いのが特徴で、綾戸ダムで取水した水を湛水し、発電量に応じて佐久発電所へ送水しています。

●寺沢（てらざわ）ダム：前橋市滝窪町にあり、寺沢川を堰き止めるアース式ダム（堤高 15.5m、堤頂長 140m）で、農業用水確保のために 1952 年に造られました。天端を国道 353 号が通っているため、ダムと気づきにくいです。

●早川ダム：みどり市大間々町桐原にあり、早川を堰き止めるアース式ダム（堤高 26.0m、堤頂長 241.8m）で、灌漑用水用に 1941 年に造られました。早川の他に、上流の深沢川、利根川（群馬用水）から取水しています。上流側からはロックフィルダムのように見えます。

●高津戸（たかつど）ダム：みどり市大間々町高津戸にあり、渡良瀬川を堰き止める、群馬県企業局所有の発電用重力式ダム（堤高 29m、堤頂高 92m）で、上流の草木ダムの逆調整池の役割をしています。完成年は 1973 年です。下流は高津戸溪谷の景勝地で、歩行者専用の「はねたき橋」（全長 120m）が架かっています。

●草木（くさき）ダム：みどり市東町座間にあり、渡良瀬川を堰き止める（独法）水資源機構が管理する重力式の多目的ダム（堤高 140m、堤頂長 405m）で、完成は 1976 年 11 月です。人造湖は草木湖と命名され、2005 年、（財）水資源環境整備センター選定のダム湖百選に選ばれています。草木湖湖畔には、富弘美術館があります。

9 月の敬老の日前後の 3 日間、草木湖カヌーツアー（NPO 法人ユニバーサルスポーツ協会）が開かれます。



草木ダム



草木湖

●沼田ダム・岩本ダム（計画中止）：沼田ダムは利根川を綾戸溪谷（渋川市赤城町棚下・上白井町）で堰き止め、利根川下流の治水、赤城山・榛名山麓の大規模開拓計画に対する灌漑、東京都への水道水供給、最大 130 万 kW の揚水式発電を目的に計画された多目的ダム（堤高 125m、堤頂長 633m、湛水面積 2,700ha、総貯水量 8 億 m³）です。しかし、水没する沼田市や群馬県議会の猛反対により、1972（昭和 47）年に計画中止となりました。沼田ダム計画の前には、ほぼ同一場所に、利根川の洪水調節を目的とする岩本ダム（堤高 75m、総貯水量 1 億 2,000 万 m³）の建設構想がありました。

沼田ダム、岩本ダムの建設予定地は、12 万年前の赤城山の噴火で発生した棚下火砕流の堆積場所のすぐ北側にある古子持火山の溶岩（安山岩）を利根川が浸食した場所で、古沼田湖の再現と言われていました。近くには、子持火山の側火山の児子岩（ちごいわ）があります。

15-13. 水力発電所

●**佐久発電所**：渋川市北橋町分郷八崎に位置する東京電力の水力発電所（認可最大出力 76,800kW）で、運転開始は 1～3 号機（利根川の綾戸ダム、沼尾川から利水）が 1928 年、4 号機（吾妻川の渋川発電所から利水）が 1938 年です。完成当時は東洋一の水力発電所とされ、最初の所有者が関東水力であったことから、関水（かんすい）とも呼ばれます。



佐久発電所

放流された水は大正用水、広桃用水、天狗岩用水として農業に利用されています。さらに、広桃用水は群馬県企業局所有の田口発電所（認可最大出力 6,000kW）、関根発電所

（認可最大出力 7,800kW）、小出發電所（認可最大出力 8,400kW）、柳原発電所（認可最大出力 7,500kW）、東京電力所有の前橋発電所（認可最大出力 1,600kW）、日本カーリット所有の広桃発電所（認可最大出力 3,360kW）が利水し、天狗岩用水は群馬県企業局所有の天狗岩発電所（認可最大出力 540kW）が利水しています。

発電所にそびえ立つ巨大なサージタンクは近隣のランドマークで、真壁調整池から発電所に至る水圧鉄管（全長 1,344m）の周囲は桜（ソメイヨシノ）の名所になっています。

●**渋川発電所**：渋川市阿久津にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 6,800kW）で、吾妻川水系の金井発電所から利水し、放流した水は佐久発電所（または吾妻川）に送られます。運転開始は 1925 年です。

●**根利川発電所**：沼田市利根町日影南郷にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 1,000kW）で、根利川と赤城沢から取水し、片品川へ放流します。運用開始は 1920 年です。

●**上久屋（かみくや）発電所**：沼田市上久屋町にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 19,000kW）で、片品川・薄根川・白沢川から取水し、片品川へ放流します。放流水は、伏田発電所が利用しています。運用開始は 1925 年です。

●**伏田発電所**：昭和村川額にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 13,000kW）で、運用開始は 1926 年です。東京電力 上久屋発電所（沼田市上久屋町）の放流水を利水し、利根川に放流します。

●**白沢発電所**：沼田市上久屋町にある群馬県企業局の発電所（認可最大出力 26,600kW）で、菌原ダムから利水しています。運転開始は 1964 年です。片品川に放流された水は平出ダムを経て、利南発電所・新利南発電所で利用されます。

●**利南（となみ）発電所・新利南発電所**：沼田市上久屋町にある群馬県企業局所有の発電所で、運用開始は利南発電所（認可最大出力 5,500kW）が 1964 年、新利南発電所（認可最大出力 1,000kW）が 2011 年で、いずれも平出ダムから利水し、片品川に放流します。

●**綾戸（あやど）発電所**：昭和村川額にある東京電力所有の発電所で、綾戸ダム～渋川市北橋町箱田間の利根川の水量維持のために作られた、綾戸ダムに設置された低落差発電所（認可最大出力 670kW）で、運用開始は 1998 年です。

●**岩本発電所**：沼田市岩本町にある東京電力所有の発電所（認可最大出力 28,400kW）で、利根川、赤谷川から取水し、利根川に放流しています。放流水は綾戸ダムで取水され、佐久発電所に送られます。運用開始は 1949 年です。

●**田沢発電所**：桐生市黒保根町上田沢にある群馬県企業局が建設した 32 か所目の水力発電所（認可最大出力 2,000kW）で、運転開始は 2016 年 5 月です。小黑川から取水しています。

●**小坂子（こさかし）発電所**：前橋市小坂子町にあり、群馬県企業局が設置した県央第二水道の水（群馬用水）を利用した発電所（認可最大出力 110kW）で、運転開始は 2008 年 2 月です。

●**赤城沢小水力発電所**：沼田市利根町根利にあり、（株）アドバンスが設置した小水力発電所（認可最大出力 44.3kW）で、赤城沢から取水しています。運転開始は 2017 年 5 月で、群馬県では民間設置の水力発電所の第 1 号です。

●**利平茶屋小水力発電所**：桐生市黒保根町下田沢にあり、林野庁と東京電力との協力で設置された小水力発電所（認可最大出力 22kW）で、鳥居川の治山堰堤（砂防ダム）を利用して取水しています。運転開始は 2004 年 4 月で、桐生市が運営しています。

●**赤城大沼用水発電所**：前橋市富士見村赤城山 大河原地区の大沼用水第一分水工脇にある、赤城大沼用水を利用した小水力発電所（落差 33m、認可最大出力 65kW）です。事業主体は赤城大沼用水土地改良区で、運転開始は 2018 年 3 月です。

●**前橋赤城山小水力発電所**：前橋市富士見町赤城山 箕輪地区にある、赤城大沼用水を利用した小水力発電所（落差 109m、認可最大出力 236kW）です。事業主体は前橋市で、運転開始は 2018 年 8 月です。

●**東（あずま）発電所**：みどり市東町座間の草木ダム直下にある発電所（認可最大出力 20,300kW）です。事業主体は群馬県企業局で、運用開始は 1976 年 5 月です。

●**東第二発電所**：渡良瀬川の流量維持のための草木ダム放水を利用した発電所（認可最大出力 240kW）です。事業主体は群馬県企業局で、運用開始は 2006 年 10 月です。

●**小平（おだいら）発電所**：みどり市大間々町小平にある発電所（認可最大出力 36,200kW）で、渡良瀬川（草木ダム 東発電所）、柱戸川、樋之入川から取水しています。事業主体は群馬県企業局で、運用開始は 1976 年 5 月です。近くに、小平鍾乳洞があります。

●**福岡発電所**：みどり市大間々町浅原にある発電所（認可最大出力 7,400kW）で、渡良瀬川本流から取水しています。事業主体は東京電力で、運用開始は 1927 年 1 月です。

●**高津戸発電所**：みどり市大間々町高津戸の高津戸ダム直下にある発電所（認可最大出力 5,300kW）です。事業主体は群馬県企業局で、運用開始は 1973 年 6 月です。

第 16 章．民謡・歌

16-1. 民謡

●上州馬子唄：「赤城時雨れて沼田は雨よ・・・」の歌詞で始まる上州馬子唄は、馬子唄としては日本屈指のものとされています。

●上州麦打ち唄：「赤城山から谷底みれば 瓜（うり）や茄子（なす）の花盛り」の歌詞があります。

●上州小唄：「赤城山から風が吹きだして 風でチョウチョが飛ばされる・・・」は、作詞 西条八十・野口雨情、作曲 中山晋平の新民謡で、終りの歌詞からギッチョン節とも言われています。

16-2. 童謡

●チューリップ：「咲いた 咲いた チューリップの花が・・・」の童謡は、前橋市出身の井上武士が作曲しました。JR 前橋駅の発車合図曲としても使われ、駅北口広場に歌碑が設置されています。この曲の歌詞の中に赤城の文言は含まれていませんが、前橋市嶺町の国道 353 号を自動車で、時速 40km 前後で東進すると、チューリップのメロディーが聞こえます。

また、土日祝日に運行される、前橋駅－赤城山ビジターセンター間の急行バス車両（「ようこそ赤城山へ」の言葉、地蔵岳山頂から見た黒檜山、レンゲツツジ、小暮一の鳥居のラッピングつき）の車内では、停留所案内の前にもこのメロディーが流されます。

●海：「海は広いな 大きいな・・・」の童謡は、沼田市出身の林柳波（はやしりゅうは）が作詞しました。

●兎と亀・他：「もしもし亀よ 亀さんよ・・・」の童謡は、みどり市東町花輪出身の石原和三郎が作詞しました。

16-3. 歌謡曲

題名に赤城が入っている歌謡曲に、

『赤城の子守歌』東海林太郎 作詞：佐藤惣之助 作曲：竹岡信幸

『名月赤城山』東海林太郎 作詞：矢島寵児 作曲：菊地博

『さらば赤城よ』東海林太郎 作詞：石田喜代夫 作曲：利根一郎

『赤城かりがね』東海林太郎 作詞：高橋掬太郎 作曲：利根一郎

『赤城しぐれ』霧島昇 作詞：久保田宵二 作曲：竹岡信幸 編曲：奥山貞吉

『赤城山』島津亜矢 作詞：野本高平 作曲：村沢良介

『赤城の浅太郎』織田祐輔 作詞：田村富一 作曲：伊王野葉 編曲：池多孝春

などがあります。『赤城の子守歌』は松竹映画『浅太郎赤城の山』の主題歌で、その歌詞には赤城の文言はありません

歌詞に赤城が入っている代表的な歌謡曲に、『女国定』 作詞：山崎正、作曲：山口俊郎（「赤城の山のふきおろし」の歌詞を含む）があります。

16-4. 浪曲

「赤城の山も今宵限り、可愛い子分のでめえたちとも別れ別れになる門出だ……」の台詞がある浪曲「天保水滸伝」は、玉川勝太郎の十八番でした。

先代 広沢寅造の浪曲『国定忠治』シリーズで赤城が演目に入っているものに、「名月赤城山」、「赤城の血煙」があります。

第 17 章. 赤城山の見え方・赤城山からの展望

17-1. 麓から赤城山の見え方

左から右に向かって、ピーク名は次の通りです。

- 前橋市街から：鈴ヶ岳、鍋割山、荒山、長七郎山（黒檜山、地藏岳は荒山に隠れて見えません）、つつじが峯
- 渋川・吉岡市街から：鈴ヶ岳、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山
- 沼田・みなかみ市街から：黒檜山、地藏岳、鈴ヶ岳、荒山
- 桐生・みどり・太田市街から：鍋割山、荒山、地藏岳、長七郎山、駒ヶ岳、黒檜山
- 伊勢崎市街から：鍋割山、荒山、地藏岳、長七郎山、黒檜山（駒ヶ岳は黒檜山と重なっています）



群馬県内各地から見た赤城山

17-2. 赤城山からの遠望

- ★浅間山：西南西
- ★富士山：南南西
- ★スカイツリー：南南東
- ★男体山：北東
- ★筑波山：東

17-3. 距離

★群馬県庁から赤城山（黒檜山：荒山に隠れて直接見えない）：約 22km

★東京都心から赤城山：約 110km

★赤城山（黒檜山）から見た水平線までの距離：約 200km（空気の屈折を考慮すると約 210km）。伊豆大島、伊豆半島先端（石廊崎）あたりまで見えることになります。

17-4. 仰角・俯角

★群馬県庁 32 階展望ルーム（地上高 127m、標高 240m）から赤城山（荒山、標高 1,571m が対象）：仰角約 4.2 度。

★赤城山（黒檜山）から富士山（標高 3,776m、水平距離約 140km）：仰角約 0.80 度。

★赤城山から浅間山（標高 2,568m、水平距離約 65km）：仰角約 0.67 度。

★赤城山からか男体山（標高 2,486m、水平距離約 35km）：仰角約 1.05 度。

★赤城山からスカイツリー（地上高 634m、水平距離約 110km）：俯角約 0.62 度。

★東京タワー（地上高 333m、水平距離約 115km）：俯角約 0.74 度。

17-5. 赤城山からの遠望（山）

黒檜山山頂から見える著名な山は、真北から時計回りに、至仏山、平ヶ岳、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、日光白根山、女峰山、男体山、錫ヶ岳、宿堂坊山、皇海山、庚申山、袈裟丸山、根本山、鳴神山、筑波山、（関東平野）、高尾山、丹沢山、武甲山、雲取山、富士山、大菩薩嶺、両神山、甲武信ヶ岳、地蔵岳、金峰山、南アルプス（北岳、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳）、八ヶ岳連峰（赤岳、蓼科山）、御嶽山、乗鞍岳、荒船山、妙義山、霧ヶ峰、浅間山、北アルプス（奥穂高岳、槍ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳）、四阿山、妙高山、本白根山、草津白根山、横手山、岩菅山、白砂山、苗場山、平標山、仙ノ倉山、万太郎山、谷川岳、巻機山、大水上山、越後三山、武尊山、笠ヶ岳です。

17-6. 黒檜山から赤城のピークの見え方

北方向から時計回りに、小黑檜山、駒ヶ岳、小地蔵岳、長七郎山、地蔵岳、荒山、鍋割山、鍬柄山、鈴ヶ岳、薬師岳です。

17-7. 地蔵岳から赤城のピークの見え方

北方向から時計回りに、薬師岳、小黑檜山、黒檜山、駒ヶ岳、小地蔵岳、長七郎山、荒山、鍋割山、鍬柄山、鈴ヶ岳です。

17-8. 大洞赤城神社から赤城のピークの見え方

北方向から時計回りに、黒檜山、駒ヶ岳、小地蔵岳、地蔵岳、鈴ヶ岳、出張山、薬師岳、陣笠山です。

17-9. 東京方面から見た赤城山

赤城山は関東平野に直面しているので、空気が澄んでいるときは東京方面から北西方向

に遠望できます。その姿は、桐生市・みどり市・太田市方面から見たのとほぼ同じで、仰角が小さいのでピークの標高差がはっきりと分かります。当然のことながら、地球は丸いので、裾野の下部分は見えません。



千葉県船橋市から見た赤城山



●ガイド推奨コース

※ガイド所要時間は一般のコースタイム（単位：分）の1.5倍強になります。

H30.7.1 NPO 法人赤城自然塾開塾

コースNo.1 陣笠山・薬師岳・出張山 (3時間)

- ビジターセンター(5)赤城広場(10)赤城神社(10)
五輪峠への分岐(黒檜山登山口)(20)五輪峠(15)
陣笠山(25)薬師岳(25)出張山(10)出張山(20)
厚生団地(15)五輪峠への分岐(黒檜山登山口)(10)
赤城神社(10)赤城広場(5)ビジターセンター

- 眼下に大沼 1340.7m の眺望をしながらのアップダウンが楽しいコース
- トウゴクミツバツツジ、ヤマツツジ、レンゲツツジが多いコース
- 紅葉の季節も最高です
- 南向きの日当たりの良いコースなので暑い時期は避けたい
- 陣笠山からの眺望が良い

中級コースNo.2 黒檜山・駒ヶ岳 (3時間45分)

- ビジターセンター(5)赤城広場(10)赤城神社(10)登山口(30)猫岩(60)
黒檜山頂(5)展望台(5)黒檜山頂(5)黒檜山大神(45)駒ヶ岳(15)
鉄梯子(30)駒ヶ岳登山口(5)ビジターセンター

- (健脚向け)
- 岩あり、崖せ尾根ありの健脚コース
- 疲れた下りに投接等のけがをしやすいため、右回りがお勧めです
- 猫岩、黒檜山展望台、駒ヶ岳山頂からの眺望が素晴らしいコース

中級コースNo.3 鉄柄山・鈴ヶ岳 (2時間30分)

- 新坂平駐車場(新坂平に出てすぐ右手)(50) 鈴ヶ岳、鉄柄峠を経て鉄柄山(20)
深山への分岐(30)鈴ヶ岳(20)
深山への分岐(30)合計(2時間30分)
鉄柄峠、鈴ヶ岳を経て新坂平駐車場

- レンゲツツジ、ヤマツツジの横がおすす
- 紅葉の頃も良い
- 鈴ヶ岳山頂へは急な登りとなる
- 静寂とした風通しの悪いコースなので暑い時期は避けたい
- 鈴ヶ岳、鉄柄山から新坂平の眺望が良い
- レンゲツツジ、ヤマツツジの時期(6月上旬)と紅葉の時期(10月中旬)がおすす

コースNo.5 地蔵岳 (2時間30分)

- ビジターセンター(10)鳥居峠(30)小沼(10)八丁峠(30)地蔵岳(20)八丁峠(30)鳥居峠(20)
寛満湖経由ビジターセンター

- 赤城山の核心部が見渡せる点で優れているコース
- 春、夏、秋、長七郎山と並んで、登り易い山です
- 寛満湖に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原

- 荒山高原に出た途端、正面に富士山が見えます
- 1258m 荒山高原



コースNo.4 寛満湖周遊 (40分)

- 木道・周遊路が整備された『ミニ尾根』
- 栄養の少ない土壌には食虫植物のモウセンゴケが見られます
- 笹の繁茂と笹刈、農の食害と保護ネット張りの環境保護活動を行っています

- 筑波山、桐生から足尾の山並みが見えます
- H27.10 寛満湖への眺望を改善しました

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

- 茶の木畑・小沼分岐
- 小沼火山の火口にできた湖
- 富士見の名の由来となった美しい富士山が望めます

付録 3. 検定問題例（1・2級 語句挿入）

以下の文章は覚満淵に関するものである。（ ）内に適する語句を入れよ。

覚満淵の名前は、この地で比叡山の高僧 覚満が法会を行ったという、南北朝時代に編まれた（ 1 ）の記述に由来している。

覚満淵は、かつては（ 2 ）の一部であったが、水面の低下で取り残されて湿原化した場所で（ 3 ）とも呼ばれ、北東側には 2.5～3m の厚さで泥炭層が堆積し、雨水のみで涵養される（ 4 ）湿原がみられる。湿原内にある（ 5 ）は食虫植物で、覚満淵が栄養分に乏しい土地であることを示している。

かつて覚満淵には（ 6 ）の群落があり、7月に黄色い花で彩られた。しかし、ミヤコザサ（ニッコウザサ）の繁茂やシカの食害で数が激減してしまい、現在、シカ侵入防止ネットの設置、ササ刈りなどで、植生の回復が図られている。

1945年以前は（ 7 ）として利用され、群馬県花であるレンゲツツジの群落がある。

- 1 神道集
- 2 古大沼
- 3 小尾瀬
- 4 高層
- 5 モウセンゴケ
- 6 ニッコウキスゲ（ゼンテイカでも OK）
- 7 牧場

付録 4. 検定問題例（1級作文テーマ）

『赤城山に対する思い、赤城山のアピール点など』（タイトルは自由）

付録 5. 検定問題例（2・3級 四択）

1. 赤城山の最高峰は黒檜山である。山頂にある三角点は何等か。
A 一等三角点 B 二等三角点 **C 三等三角点** D 四等三角点
2. 赤城山ができたことで流路が南向きから西向きに変化してしまった河川名はどれか。
A 利根川 B 根利川 **C 片品川** D 渡良瀬川
3. 大沼湖畔から県道 251 号で沼田方面に抜ける峠の名前は何か。
A 八丁峠 B 牛石峠 **C 五輪峠** D 鳥居峠
4. 関東地方では赤城山西麓でのみ生息し「赤城姫」の愛称で呼ばれるヒメギフチョウは、幼虫のときは次のどれを食しているか。
A ウスバサイシン B カタクリ
C サクラスミレ D ツクバキンモンソウ
5. 赤城山頂の小沼と成因が似ている湖はどれか。
A 中禅寺湖 **B 草津白根山・湯釜** C 芦ノ湖 D 琵琶湖
6. 渋川市街から赤城山を見たとき、ピークの並びは左からどの順か。
A 鈴ヶ岳、地藏岳、黒檜山、荒山、鍋割山
B 鈴ヶ岳、黒檜山、地藏岳、荒山、鍋割山
C 荒山、鍋割山、鈴ヶ岳、黒檜山、地藏岳
D 黒檜山、鈴ヶ岳、地藏岳、荒山、鍋割山
7. 赤城山から富士山に見える方向はどれか。
A 南南東 B 南 **C 南南西** D 南西

赤城山検定用テキスト作成協力者（五十音順、敬称略）

小林 善紀

酒井 良征

下城 茂夫

下田 昭一

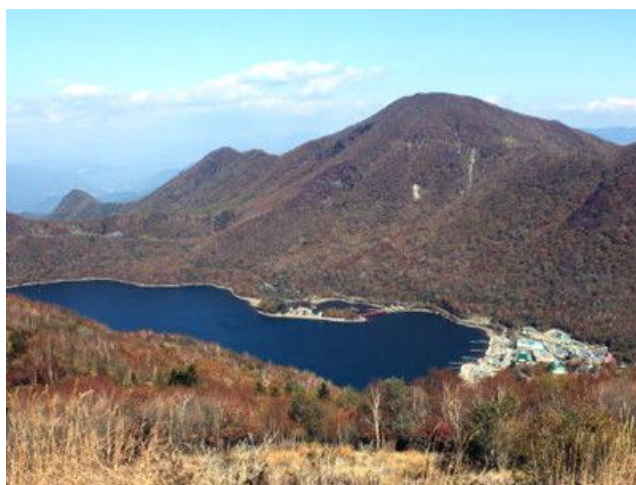
棚橋 弘

吉田 龍司

六本木 真弓

赤城山を愛する諸兄の各種情報提供、テキストへのご指摘・アドバイスなどに深く感謝いたします。

栗原 久



表紙写真： 利根川上毛大橋から見た赤城山（前橋市）

裏表紙写真：地蔵岳山頂から見た黒檜山と大沼（前橋市）